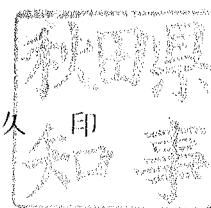


別紙様式 2

平成 3 1 年 3 月 2 9 日

文部科学省初等中等教育局長 殿

機 関 名：秋田県
代表者職名：知 事
氏 名：佐 竹 敬 久 印



委託事業完了報告書

平成 3 0 年度「幼児教育の推進体制構築事業」は平成 3 1 年 3 月 2 9 日に完了しましたので、委託契約書第 1 1 条の規定により、下記の書類を添えて報告します。

記

1. 事業結果報告書（別添イ）
2. 事業収支決算書（別添ロ）
3. 委託契約書第 2 6 条に定める支出を証する書類の写し

調査研究テーマ	イ、地域の幼児教育の拠点となる「幼児教育センター」の設置に関する調査研究（「幼児教育アドバイザー」の育成・配置に関する調査研究を含む）
調査研究目的	秋田県の幼児教育センターとして、幼児教育の質の向上を図るため、保育者に対する体系的な研修の実施や、幼児教育の内容・指導方法に関する指導・助言、情報提供を充実させるとともに、モデルとなる市町村に配置する「教育・保育アドバイザー」（秋田県における「幼児教育アドバイザー」の職名。以下同じ。）を育成し、市町村の就学前教育・保育行政とともに就学前教育・保育の推進体制を構築することで、質的向上を図る。また、その成果を県内市町村に発信し、体制整備の推進を図る。
調査研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情や園のニーズに即した機動的に幼児教育の指導・助言を行う体制整備 ・市町村における就学前教育・保育に関する指導・支援者の育成 ・県及び市と就学前教育・保育に関する外部専門機関との連携
実施期間	委託契約日から 平成31年3月29日まで

申請者（機関名）	秋田県			
申請機関代表者	ふりがな氏名	さたけ のりひさ 佐竹 敬久		
	所属部署		職名	知事
	所在地	秋田県秋田市山王四丁目1番1号		
事業連絡担当者	ふりがな氏名	さいとう たけひこ 斉藤 丈彦		
	所属機関	秋田県教育庁		
	所属部署	幼保推進課	職名	指導主事
	所在地	秋田県秋田市山王三丁目1番1号		
	電話	018(860)5126	Fax	018(860)5850
	E-mail	youho@pref.akita.lg.jp		

幼児教育の推進体制構築事業 事業結果報告書

調査研究テーマ	イ. 地域の幼児教育の拠点となる「幼児教育センター」の設置に関する調査研究（「幼児教育アドバイザー」の育成・配置に関する調査研究を含む）		
調査研究目的	秋田県の幼児教育センターとして、幼児教育の質の向上を図るため、保育者に対する体系的な研修の実施や、幼児教育の内容・指導方法に関する指導・助言、情報提供を充実させるとともに、モデルとなる市町村に配置する「教育・保育アドバイザー」（秋田県における「幼児教育アドバイザー」の職名。以下同じ。）を育成し、市町村の就学前教育・保育行政とともに就学前教育・保育の推進体制を構築することで、質的向上を図る。また、その成果を県内市町村に発信し、体制整備の推進を図る。		
調査研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の実情や園のニーズに即した機動的に幼児教育の指導・助言を行う体制整備 ・ 市町村における就学前教育・保育に関する指導・支援者の育成 ・ 県及び市と就学前教育・保育に関する外部専門機関との連携 		
申請者 (機関名)	秋田県		
申請機関 代表者	ふりがな 氏 名	さたけ のりひさ 佐 竹 敬 久	
	所属部署	職名	知事
	所在地	秋田県秋田市山王四丁目1番1号	
実施期間	平成30年4月1日から平成31年3月29日まで		

A) 調査研究の目的、内容、成果及び今後の課題(研究の要旨を含む)

1. 目的

- (1) 幼児教育センターの機能及びモデル市への教育・保育アドバイザー配置等、幼児教育推進体制構築に関する3年間の調査研究や取組の結果をとりまとめ、検証する。
- (2) 3年間の調査研究の成果を県内の各市町村幼児教育行政機関へ発信し、普及啓発を図るとともに、フォーラム開催により全国発信する。

2. 実施内容

(1) 幼保推進課における幼児教育センター機能の強化

①調査研究実行委員会による3年間の研究調査成果の検証

年度ごとの県とモデル市の連携体制や、モデル市でのアドバイザー配置、研修会の実施等について、委員に計画及び進捗状況を提示し、各立場から様々な意見をいただいた。その意見を基に、修正等を加え、事業を展開した。

ア) 目的

平成28年度から本事業に係る調査研究実行委員会を3年間設置し、幼児教育センターとしての幼保推進課の機能強化や、市町村による教育・保育アドバイザー配置等に関する調査研究内容について協議し、本研究の在り方の明確化及び評価・検証、改善を図る。

イ) 内容

- ・「県と市町村の連携・協力による0～5歳児の教育・保育の推進体制」の実施状況確認及び指導・助言
- ・「秋田県就学前教育振興アクションプログラムⅡ」の内容に対する指導・助言
- ・調査研究実行委員による県及びモデル市担当者等へのヒアリング

ウ) 調査研究実行委員（計8名）

【学識経験者】

大阪総合保育大学学長（調査研究実行委員長）
秋田大学教育文化学部教授（調査研究実行副委員長）
聖園学園短期大学准教授

【行政関係者】

美郷町教育委員会教育総務課長

【小学校教育関係者】

秋田市小学校長会幹事（秋田市立戸島小学校長）

【就学前教育・保育施設関係者】

前秋田県国公立幼稚園・こども園協会副会長（男鹿市立船越保育園長）
秋田県私立幼稚園・認定こども園連合会長（認定こども園さかき幼稚園長）
秋田県保育協議会長（子吉保育園長）

エ) 事務局

【秋田県教育庁関係者】

幼保推進課：指導班指導主事、幼保指導員、県教育・保育アドバイザー

義務教育課：指導主事

特別支援教育課：指導主事

北・中央・南教育事務所：生活科担当指導主事、就学前教育担当指導主事、幼保指導員

【モデル市関係者（大館市、男鹿市、横手市）】

大館市（教育委員会学校教育課、福祉部子ども課）：行政担当者、アドバイザー

男鹿市（市民福祉部健康子育て課）：行政担当者、アドバイザー

横手市（教育委員会学校教育課、健康福祉部子育て支援課）：行政担当者、アドバイザー

オ) 詳細

回	期日・時間・会場等	主な内容
1	平成 30 年 5 月 24 日（木） ※事業予算削減に伴い、 会の設定無し。資料を 郵送で配付し提言等を 集約	1 県と市町村の連携・協力による 0～5 歳児の教育・保育の推 進体制について ・平成 30 年度の事業概要及び評価計画について ・「わか杉っ子！育ちと学び支援事業フォーラム in 大館」（全 国発信）について 2 『就学前教育振興アクションプログラムⅡ』について
2	平成 30 年 10 月 11 日（木） 12:00～17:00 大館市民文化会館 ※「わか杉っ子！育ちと 学び支援事業フォーラ ム in 大館」（1 日目） と兼ねて実施	1 基調講演 「教育・保育の質向上のためのネットワークづくり」 東京大学大学院教育学研究科 教授 秋田 喜代美 氏 2 事例発表 北海道・北海道教育委員会 宮城県・気仙沼市教育委員会 秋田県教育庁幼保推進課 大館市・男鹿市・横手市 3 講評 秋田県における取組について 大阪総合保育大学 学長 大方 美香 氏 4 協議 平成 31 年度以降の県と市町村の連携・協力による 0～5 歳 児の教育・保育推進体制構築について
3	平成 31 年 3 月 15 日（金） ※事業予算削減に伴い、 会の設定無し。資料を 郵送で配付し提言等を 集約	1 「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」（H28～30 年度）の成 果と課題 2 『就学前教育振興アクションプログラムⅡ』について 3 「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」（2019～ 2021 年度）の見通し ・2019 年度、2020 年度実施市について

②「秋田県就学前教育振興アクションプログラムⅡ」の完成、発信

調査研究実行委員及び外部検討委員会からの提言を踏まえてワーキングチーム会議で作成し、県内就学前教育・保育関係者等に配付した。平成31年度以降、園内外研修等で活用する。

ア) 作成過程

期 日	作成過程	作業内容
平成30年 4月6日(金)	幼保推進課・教育事務所連絡会議①	原稿案検討・作成
5月10日(木)	ワーキングチーム会議①	原稿案検討・作成
5月16日(水)	外部検討委員会	原稿案検討
6月5日(火)	幼保推進課指導班会議①	外部検討委員会での意見等を踏 まえた修正案の検討
6月12日(火)	ワーキングチーム会議②	修正原稿案検討
9月10日(月) ～21日(金)	調査研究実行委員会委員及び外部 検討委員会委員による原稿の検討	意見取りまとめ 原稿の修正
12月10日(月) ～21日(金)	調査研究実行委員会委員による修 正原稿の検討	意見取りまとめ 原稿の修正
平成31年 1月15日(火)	幼保推進課指導班会議②	校正作業及び引用文献の確認 使用写真承諾確認
2月13日(火)	幼保推進課・教育事務所連絡会議②	最終検討・確認
3月26日(火)	各園へ通知(周知・活用、ホームページへの掲載の連絡) 関係者へ送付 ホームページへの掲載	

イ) 作成等に係る各委員

【ワーキングチーム会議】(15名)

幼保推進課指導班指導主事、幼保指導員、県教育・保育アドバイザー
北・南教育事務所総務・幼保推進班指導主事、幼保指導員 計15名

【外部検討委員会】(6名)

就学前教育・保育施設関係者(国立幼稚園、私立幼稚園、公立保育所、私立保育所、公立幼
保連携型認定こども園、私立幼保連携型認定こども園)

ウ) 配付先

県内就学前教育・保育施設
市町村就学前教育・保育担当課、市町村教育委員会
調査研究実行委員会委員、外部検討委員会委員
調査研究実行委員会事務局関係者

エ) 幼保推進課ホームページでの公開

URL : <http://common3.pref.akita.lg.jp/youho/>

③幼児教育に関するアンケートの実施による調査研究内容の分析と成果の発信

a. 「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」アンケート調査

ア) 趣旨

わか杉っ子！育ちと学び支援事業（H28～30年度）の実施状況を踏まえ、教育・保育アドバイザーの活用や、市で開催した研修会等について、本事業モデル市就学前施設関係者を対象にアンケート調査を実施し、成果と課題を明らかにする。

イ) 実施期間

平成31年1月15日（火）～25日（金）

ウ) 調査対象者

本事業モデル市（大館市、男鹿市、横手市）就学前教育・保育施設等の管理職、園内研修推進者、中堅保育者（経験年数7～14年）、若手保育者（経験年数1～3年）各1名

エ) 調査方法

- ・作成：県教育庁幼保推進課指導班
 - ・回答：設問方式（選択式）及び一部自由記述式
 - ・配付：県教育庁幼保推進課からモデル市内就学前教育・保育施設への電子メール送信
 - ・回収：モデル市内就学前教育・保育施設から県教育庁幼保推進課への電子メール送信
- ※配付・回収時はモデル市就学前教育・保育施設担当課の経由なし

オ) 調査内容

No.	対象者	主な調査内容
①	管理職 (園長等または教頭・主任等)	教育・保育全般におけるアドバイザー活用 市主催研修会の実施（公開保育、市の課題）
②	園内研修推進者 (園内研修リーダー)	園内研修推進におけるアドバイザー活用 市主催研究会の実施（公開保育、市の課題）
③	中堅保育者 (経験年数7～14年程度)	専門性向上等におけるアドバイザー活用 市主催研修会の実施（公開保育、市の課題）
④	若手保育者 (経験年数1～3年程度)	専門性向上等におけるアドバイザー活用 市主催研修会の実施（公開保育、市の課題）

カ) 有効回答数

No.	秋田県（3市）	大館市	男鹿市	横手市
①	65/70 (92.8)	27/27 (100.0)	9/9 (100.0)	29/34 (85.3)
②	59/70 (84.3)	25/27 (92.6)	9/9 (100.0)	25/34 (73.5)
③	58/70 (82.3)	23/27 (85.2)	9/9 (100.0)	26/34 (76.5)
④	43/70 (61.4)	17/27 (63.0)	5/9 (55.6)	21/34 (61.8)

有効回答数/モデル市対象全施設数 (%)

キ) 結果及び分析等

p28～47 参照

b. 教育・保育アドバイザーの育成に関するアンケート調査

ア) 趣旨

わか杉っ子！育ちと学び支援事業（H28～30年度）の実施状況を踏まえ、教育・保育アドバイザーの育成及びネットワーク構築等について、本事業モデル市教育・保育アドバイザーを対象にアンケート調査を実施し、成果と課題を明らかにする。

イ) 実施期間

平成31年1月15日（火）～25日（金）

ウ) 調査対象者

本事業モデル市（大館市、男鹿市、横手市）教育・保育アドバイザー6名

エ) 調査方法

- ・作成：県教育庁幼保推進課指導班
- ・回答：設問方式（選択式）及び一部自由記述式
- ・配付：県教育庁幼保推進課からモデル市教育・保育アドバイザーへの調査票の郵送
- ・回収：モデル市教育・保育アドバイザーから県教育庁幼保推進課への調査票の郵送

オ) 調査内容

No.	項目	主な内容
①	園及び保育者との関わり	相談内容、園及び保育者への支援の工夫
②	県との関わり	アドバイザーの育成
③	アドバイザーネットワーク構築	アドバイザー間の情報共有
④	アドバイザーに求められる資質・能力	求められる資質・能力、必要な研修

カ) 有効回答数

6/6名（100%）

キ) 結果及び分析等

p24～27 参照

④教育・保育アドバイザーの人材育成

a. 指導主事及び幼保指導員による園訪問への同行による専門性の向上

H28年度から県指導主事及び幼保指導員によるモデル市内の「公立幼稚園・公立幼保連携型認定こども園計画訪問」「認定こども園訪問」「幼稚園・保育所・認定こども園等要請訪問」時に市アドバイザーが同行し、園及び保育者に対する指導・助言方法について理解を深めるとともに、指導主事等と市アドバイザーが今後の指導ポイントを共有し、市アドバイザーが継続的に指導・支援する際の視点とした。

市アドバイザーの同行数

市	回数	前年比
大館市	31	+4
男鹿市	4	-5
横手市	9	-2

H30.4～H31.3

b. 幼保推進課所管研修会への参加による指導力の向上

市アドバイザーが幼保推進課主催の研修会への参加し、その企画・運営方法や研修で活用する教育・保育内容等について理解を深めた。園長等運営管理協議会（教育・保育内容全般）、園内研修リーダー養成講座（研修手法）、就学前・小学校地区別合同研修会（幼小接続）、特別支援教育担当者研修会（特別支援）、乳幼児保育研修会が活用した主な研修である。

市アドバイザーの参加数

市	回数	前年比
大館市	8	-3
男鹿市	15	+3
横手市	6	-4

H30.4～H31.3

c. モデル市の要請による県教育・保育アドバイザーの園訪問同行

市アドバイザーからの要望を踏まえ、平成29年度より、モデル市からの要請に基づき県教育・保育アドバイザーが現地に赴き、市アドバイザーの活動支援を開始した。主な支援内容は、園や保育者の課題に対する指導・助言方法や、研修会の内容及び企画・運営方法に関することが主なものであった。

市アドバイザーの具体的な指導のニーズは高い。

県アドバイザーの派遣数

市	回数	前年比
大館市	23	+15
男鹿市	9	-2
横手市	13	+2

H30.5～H31.3

d. 教育・保育アドバイザー連絡協議会の設定

保育者に対する指導・助言方法に関する演習や協議、事例検討、情報交換を通して保育者の課題に対する指導・助言の在り方等について考える機会とした。

H29年度に引き続き、園訪問等の実践的な内容も含め年6回実施した。



課題解決に向けた協議（県庁第二庁舎）

回	期日(曜)	場所	主な内容
1	平成30年 5月1日(火) 10:00～16:00	県庁第二庁舎	・県とモデル市の連携・協力体制の確認 ・昨年度の実績を踏まえた今年度の計画等についての情報交換・協議
2	6月13日(水) 9:00～11:00 13:00～16:00	秋田大学教育文化学部附属幼稚園	・保育参観(幼稚園)
		県庁第二庁舎	・指導・助言方法についての協議
3	8月20日(月) 10:00～16:00	県庁第二庁舎	・園訪問(上半期)の成果と課題の共有 ・モデル市の課題等への対応
4	9月20日(木) 9:00～11:00 13:00～16:00	幼保連携型認定こども園にいだこども園	・保育参観(幼保連携型認定こども園)
		県庁第二庁舎	・指導・助言方法についての協議
5	11月21日(水) 10:00～16:00	県庁第二庁舎	・モデル市の課題等への対応 ・指導・助言方法についての演習
6	平成31年 2月15日(金) 10:30～15:30	県庁第二庁舎	・平成30年度の成果と課題 ・3年間の成果と課題

【教育・保育アドバイザーの声】

- ・ファシリテーターの実践を演習で行い、他のアドバイザーからの助言で自分の話し方の傾向（視点ぶれ、話が長い）がよく分かり、園で指導する時に気を付けたい視点となった。
- ・保育参観を通して実際の保育場面をアドバイザー同士で共有し、指導方法を協議することで多くの気付きがあった。
- ・訪問で悩んでいる事例について、他のアドバイザーから課題解決につながる多くの意見や助言をいただくことができてよかった。
- ・他市アドバイザーの園と個人に対して寄り添いながらの深いサポート、課題に対し真摯に取り組む姿が参考になった。
- ・事例検討は、本来のアドバイザーの研修にふさわしい内容だった。
- ・この3年間沢山勉強でき、自分の為にもなり、先生方に会えたことにも感謝している。他アドバイザーの1年間の振り返りを聞き、同じ思いで共に過ごしてきたことを感じた。
- ・アドバイザー連絡協議会はとても大事な会なので継続してほしい。アドバイザー同士の思いを交換し合う場として活力が感じられるよい会だった。

e. モデル市の課題解決のための相談

県とモデル市の連携・協力体制により、県ADを中心に、市アドバイザーが抱える課題についての相談体制を築き、課題解決に向けた情報提供や関係機関との連携等の支援をした。

相談内容は様々であるが、保育者への指導・支援方法に関するものが多かった。

市ADの相談数

市	回数	前年比
大館市	8	+2
男鹿市	11	-16
横手市	13	+6

H30.4～H31.3

【県教育・保育アドバイザーへの主な相談内容】

- ・保育者への指導に関すること（キャリアステージに応じた指導内容の伝え方等）
- ・園の課題に関すること（指導計画の作成、改善等）
- ・保育者のメンタルヘルス（新人保育者の心の落ち込みへの対応）
- ・園内研修の方法（KJ法、ポートフォリオ等）
- ・市の研修に関すること（研修内容、方法）

⑤ 幼保推進課所管研修の見直しによる体系的な研修機会の提供

平成28年度から幼保推進課所管研修の見直しを図り、これまで実施してきた年次研修や専門研修に加え、平成30年度も引き続き実施した。

新設した幼保推進課所管研修（H28～30）

研修会名	目的(一部抜粋)	数	実施年
園内研修リーダー養成講座	研修リーダーの育成、研修手法の習得	4	H28～
保育実践力向上研修会（3年目研）	3年目の保育者の実践的指導力向上	2	H28～
特別支援教育担当者研修会	障害のある子どもの教育・保育の理解	3	H28～
マネジメント研修会	園内でのマネジメント力向上	3	H29～
食物・アレルギー対応研修会	食物・アレルギー対応力の向上	3	H29～
保健衛生・安全対策研修会	保健衛生・安全対策の理解促進	3	H29～
保護者支援・子育て支援研修会	保護者支援・子育て支援の理解促進	3	H29～

⑥保育者の専門性向上を図る研修会の実施

本県の課題でもある小学校教育への円滑な接続、園内研修リーダーの育成に係る研修機会の提供を昨年度に引き続き実施した。

a. 就学前・小学校地区別合同研修会（県内3地区）

幼小接続に関する理解促進を図るため実施しているが、年々、参加者が増加傾向にある。

ア) 目的

保育者と小学校教員が合同で行う研修を実施し、就学前及び小学校の教育における円滑な接続の在り方について就学前教育・保育施設と小学校の教職員間の相互理解を深める。

イ) 参加対象

幼稚園・保育所・認定こども園等教職員、事業所内・認可外保育施設保育従事者、小学校教員、教育関係者、モデル市教育・保育アドバイザー等

ウ) 期日、場所、参加者

地区	北	中央	南
期日	平成30年7月23日(月)	平成30年7月27日(火)	平成30年7月25日(水)
場所	北秋田市交流センター	五城目町町民センター	浅舞公民館
参加者	計141名(前82、小59)	計119名(前90、小29)	計153名(前109、小44)
総計	計413名 参考：398名(H29) 390名(H28)		

エ) 内容、受講者アンケート評価

地区	主な内容	A	B	C	D
共通	【説明】「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領と小学校学習指導要領について ～幼小の接続に関して～」	76	22	2	0
	【講話】「就学前教育から小学校教育への育ちのつながり」 秋田大学教育文化学部 准教授 山名 裕子 氏	78	20	1	1
	【実践発表】「就学前教育と小学校教育の円滑な接続 ～『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の共有を通して～」	83	17	0	0
北	【グループ協議】「接続期で大切にしたい子どもの育ちや学び」～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を視点として～	92	8	0	0
中央	【演習・グループ協議・情報交換】「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の共有と指導計画の見直し～指導計画から読み取る子どもの姿を通して～」	90	10	0	0
南	【演習・グループ協議・情報交換】「就学前教育と小学校教育の円滑な接続に向けて」～子どもの姿を手掛かりとした育ちのつながり～	88	11	1	0

※A～Dは、受講者アンケート(%) A十分満足 B満足 Cやや不満 D不満

オ) 参加者の声 [(前) 就学前関係者、(小) 小学校関係者]

(前) 担任研修会や情報交換会等において、双方で十分な話し合いの場を持ち、育ちの見通しを持ちながら共通理解を図っている地域の取組が参考になり、ぜひ取り入れたい。

(小) 6歳までに子どもたちが沢山力を付けて入学してくることが分かり、幼児教育の視点を小学校教育に活かすべきと強く感じた。

b. 園内研修リーダー養成講座

平成 29 年度から、研修手法を中心に学ぶ基礎編と研修のマネジメントを中心に学ぶ応用編を設定し、それぞれ各 2 回ずつ実施している。（平成 28 年度は、基礎編 2 回のみ）

また、研修内容と園での実践をつなぐ役割として実践課題を設定した。基礎編では、研修内容の園内での活用、応用編では、研修のマネジメントに関する評価・改善と、他園の研修への参加を課題とした。この課題により、研修内容を基にして園内研修の評価・改善をし、組織的・計画的な園内研修を実施している園が増加した。また、近隣園での研修への相互参加が活発となり、独自に相互参加を継続している地域もある。

ア) 目的

【基礎編】

幼稚園・保育所・認定こども園等において、園内研修を推進する立場の保育者に対し、基本的な研修の進め方や研修の手法に関する研修の機会を提供し、その専門性を高める。

【応用編】

幼稚園・保育所・認定こども園等における園内研修のより一層の充実を図るため、園内研修を推進する保育者に対し、組織的・継続的・効果的な研修にするための研修リーダーの役割に関する研修を行い、その資質の向上を図る。

イ) 参加対象

幼稚園・保育所・認定こども園等の園内研修リーダー等（主としてミドルリーダー）、モデル市教育・保育アドバイザー等

ウ) 期日、場所、参加者、講師

講座名	基礎編 I、II	応用編 I、II
期 日	平成 30 年 7 月 31 日 (火)、8 月 1 日 (水)	平成 30 年 5 月 18 日 (金)、11 月 15 日 (木)
場 所	県生涯学習センター	県生涯学習センター
参加者	計 203 名 (幼 11、保 124、認 54、他 14)	計 106 名 (幼 5、保 60、認 30、他 11)
総 計	309 名 参考：240 名 (H29)、198 (H28)	

エ) 内容、受講者アンケート評価

講座名	内 容 等	A	B	C	D
基礎編	【講義】園内研修計画の作成と研修の進め方	93	7	0	0
	【講義・演習】「参加者の能動的な参加を促す進行の工夫」	95	5	0	0
	【講義・演習】「ドキュメンテーションの活用①」	92	7	1	0
	【講義・演習】「ドキュメンテーションの活用②」	90	9	1	0
	【講義・演習】「ドキュメンテーションの活用③」	94	4	2	0
	【講義・演習】「意図的な環境の構成と教材検討のために～10の姿をイメージして」	83	12	5	0
応用編	【講義】「求められる園内研修リーダー像」	95	5	0	0
	【演習】「園内研修リーダーの役割1 -コミュニケーションスキルの活用(基本)-」	92	8	0	0
	【講義】「組織的・計画的・継続的な園内研修にむけて」	95	5	0	0
	【演習】「園内研修リーダーの役割2 -コミュニケーションスキルの活用(発展)-」	94	6	0	0

(※A～Dは、受講者アンケート(%) A満足 Bやや満足 Cやや不満 D不満)

カ) 応用編実践課題「他園の研修リーダーに学ぶ」の取組

参加は任意であるが、参加率 75% (昨年度比 +10.0%) となった。他園の研修の進め方についての関心の高さがうかがえる。公・私立の垣根を越えた参加も昨年度比 +11.6% となり、園の垣根を越えて地域で研修をするスタイルが徐々に根付いてきている。園長等の理解もあり、園の受け入れ体制が大変スムーズである。

研修参加率

項目	H30 年度参加者	H29 比
他園の研修	75.2% (76/105 人)	+10.0
他の園種	47.6% (50/105 人)	-17.9
公立⇔私立	10.3% (23/105 人)	+11.6
他市町村	25.8% (11/105 人)	-15.4



研修推進の課題対応について情報交換
(応用編 秋田県生涯学習センター)

キ) 受講者の声 [(幼) 幼稚園、(保) 保育所]

【基礎編】

(幼) 2日間の研修を通して、自園の研修計画の改善方法が見つかるとともに、新たな課題にも気付くことができた。参画意識をもって研修に参加してもらう工夫や、協議内容の可視化について積極的に取り組み、先生方力を付けていくことができるようにしたい。

【応用編】

(保) 園内研修の重要性は理解していましたが、その重要性の大きさをより一層実感した会だった。研修リーダーだけが熱心に取り組むのではなく、園全体の意識を高めて意欲につなげてこそ、職員のスキルアップにつながり、教育・保育の質の向上が図られることを念頭に置きながら、今後の研修体制を固めて積み重ねていきたい。

⑦ 調査研究成果の発信

a. 幼保推進課所管研修における調査研究内容の発信

ア) 目的

県内の就学全教育・保育施設関係者(園長等、教頭・主任等)に対し、モデル市の教育・保育アドバイザーの活用状況や県とモデル市の連携体制等の事業内容を紹介し、教育・保育の質の向上のための教育・保育アドバイザーの配置の機運を高めるとともに啓発を図る。

イ) 対象

県内就学前教育・保育施設園長等、教頭・主任等、幼児教育行政関係者等

ウ) 期日、場所、参加者

研修名	園長等運営管理協議会	教頭・主任等研修会 I
期 日	平成 30 年 4 月 12 日 (木)	平成 30 年 5 月 15 日 (火)
場 所	秋田県総合教育センター 講堂	秋田県総合教育センター 講堂
参加者	計 324 名 (園長等 312、行政関係者 12)	計 362 名 (教頭・主任等 360、行政関係者 2)

b. 「平成 30 年度わか杉っ子！育ちと学び支援事業フォーラム in 大館」での発信

平成 29 年度に引き続き、「わか杉っ子！育ちと学び支援事業フォーラム」を開催し、基調講演をはじめ、北海道・東北地区受託自治体（秋田県、北海道、気仙沼市）の事例発表、公開保育を伴った研究協議会の提示などを実施した。本県の推進体制を発信するとともに、多くの参加があった県内外の行政関係者、園関係者と今後の推進体制構築について情報交換をする機会となった。

ア) 目的

県と市町村が連携・協力して 0～5 歳児の教育・保育を推進する体制構築における取組や成果を広く県内外に発信することで、今後の教育・保育の推進体制の在り方について考える。

イ) 期日・会場・対象

【1 日目】

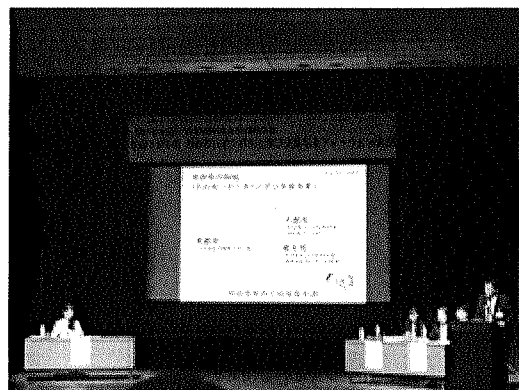
日 時	会 場	対 象
平成 30 年 10 月 11 日 (木) 12:00～17:00	大館市民文化会館	県内外の行政関係者、就学前施設・小学校等の教職員等

【2 日目】

日 時	区分	参観会場	分科会会場	対象・定員
平成 30 年 10 月 12 日 (金) 9:30～15:30	A	大館市立 有浦保育園 有浦小学校	大館市北地区コミュニティーセンター	県内外の行政関係者、 教育・保育アドバイザー等
	B	大館市立 扇田保育園	大館市立比内公民館	県内外の就学前施設・ 小学校等の教職員、
	C	大館市立 たしろ保育園	大館市田代いきいきふれあいセンターサンピア	教育・保育アドバイザー等

ウ) 参加者数

区 分		1 日目	2 日目
県内	就学前施設関係者	157	185
	小学校関係者	6	6
	行政関係者等	54	75
	教育庁・モデル市	41	41
	小計	258	307
県外	就学前施設関係者	14	16
	行政関係者等	21	27
	小計	35	43
合計 (日)		293	350
合計 (2 日間)		643	



〈1 日目〉秋田県の取組発表
(大館市民文化会館)

エ) 内容

〈1日目 平成30年10月11日(木)〉

- 【基調講演】 「教育・保育の質向上のためのネットワークづくり」
東京大学大学院教育学研究科 教授 秋田 喜代美 氏
- 【事例発表】 幼児教育の推進体制構築事業の取組(北海道・東北地区受託自治体)
北海道・北海道教育委員会 宮城県・気仙沼市教育委員会
- 【事例発表】 幼児教育の推進体制構築事業の取組(秋田県の取組)
秋田県教育庁幼保推進課 大館市・男鹿市・横手市
- 【講 評】 秋田県における取組について
大阪総合保育大学 学 長 大方 美香 氏

〈2日目 平成30年10月12日(金)〉

□有浦会場

- 【公開保育・公開授業】 大館市立有浦保育園5歳児 大館市立有浦小学校第1・2学年
- 【分科会】 行政担当者による協議等
- 〈テーマ〉 視点1 これからの教育・保育の推進体制構築における行政の役割
視点2 小学校教育との円滑な接続を支える行政の役割
- ・話題提供者 文部科学省初等中等教育局幼児教育課 専門官 山川 喜葉 氏
秋田県教育庁幼保推進課 課 長 鈴木 和朗
秋田県大館市教育委員会 教育監 山本多鶴子
 - ・助言者 秋田大学教育文化学部 教 授 奥山 順子 氏
 - ・コーディネーター 秋田県教育庁幼保推進課 副主幹(兼)班長 花田 一雅
 - ・全体進行 秋田県教育庁幼保推進課 指導主事 斉藤 丈彦

□扇田会場

- 【公開保育】 大館市立扇田保育園 1歳児、4歳児
- 【分科会】 「教育・保育アドバイザーの活用による園を越えた学び合いの実際」
- ・助言者 秋田大学教育文化学部 准教授 山名 裕子 氏
 - ・保育提案者 大館市立扇田保育園の保育者
 - ・研究協議 大館市、鹿角市、小坂町、北秋田市の保育者
 - ・協議支援 大館市・横手市の教育・保育アドバイザー

□田代会場

- 【公開保育】 大館市立たしろ保育園 2歳児、4歳児
- 【分科会】 「教育・保育アドバイザーの活用による園を越えた学び合いの実際」
- ・助言者 聖園学園短期大学 准教授 蛭田 一美 氏
 - ・保育提案者 大館市立たしろ保育園の保育者
 - ・研究協議 大館市、鹿角市、小坂町、北秋田市の保育者
 - ・協議支援 大館市・男鹿市の教育・保育アドバイザー



〈2日目〉園を越えた学び合いの実際
(大館市立比内公民館)

オ) 参加者の声

【県外参加者】

- ・先生方の熱心な思いがあふれる協議を拝見し、刺激をいただいた。オール秋田で子どもを育てようとする園を越えた率直な意見交換が素晴らしいと思った。(県外園関係者)
- ・学び合いで得た新たな気付きが各園で実践され、子どもの深い学びに結びついていく、そして先生方も成長していく、そんな研修のあるべき姿を再認識させられた。秋田の「教育」「人」はやわらかく優しい。(県外行政関係者)
- ・秋田県の取組から、アドバイザーが保育者に寄り添いながら教育・保育に取り組むことがキーポイントだと思った。県と市が一丸となって進めていることが素晴らしい。(県外教育・保育アドバイザー)

【県内参加者】

- ・県と市の連携を図りながら子どもの育ちをみんなで支えている取組に深い感銘を受けた。重要な役割を果たすアドバイザーが、自分たちの地域にもいてほしいと思った。(県内園関係者)
- ・保育参観後の研究協議の持ち方や、ファシリテーターの進め方が大変勉強になった。園内だけではなく、他園の保育者が保育参観と研究協議に参加することで様々な視点から考え方を深めることができると感じた。(県内園関係者)
- ・地域で教育・保育の質を支える体制づくりの重要性が伝わってきた。それぞれの市の課題に対して多様なアプローチがあり参考になった。(県内行政関係者)

c. 幼保推進課情報サイト(わか杉っ子元気に! ネット)による取組内容の発信

昨年度に引き続き、本事業内容を広く発信するため、幼保推進課情報サイト(「わか杉っ子元気に! ネット」)に事業内容を掲載した。



「わか杉っ子! 育ちと学び支援事業」のページ

【掲載及び更新内容】

- ・事業計画書(県及びモデル市)
- ・事業実施状況(県及びモデル市)
- ・保育実践力向上研修会開催要項(モデル市)
- ※その他の必要と思われる内容は随時更新

d. 市町村担当課のヒアリング

モデル市を含む県内市町村幼児教育行政担当課(教育委員会、首長部局)を訪問し、次の内容について説明及び聞き取りを実施した。平成31年度以降の推進体制整備を前向きに検討している市もあった。

【内容】

- ・「わか杉っ子! 育ちと学び支援事業」の概要説明
- ・「わか杉っ子! 育ちと学び支援事業フォーラム in 大館」のPR
- ・訪問市町村における今後の推進体制構築の意向調査

(2) 県とモデル市の連携・協力体制によるモデル市の幼児教育推進体制の構築

① 県とモデル市の連携・協力によるモデル市及び園の課題解決支援

【県指導主事等とモデル市教育・保育アドバイザーの連携】

県指導主事等の園訪問に市アドバイザーが同行し、園のよさや課題を共有した後、今後の指導の方向性を協議し、継続的に園と関わる市教育・保育アドバイザーの指導の視点としている。

市アドバイザーは、継続的な園訪問の中で、園の変容や新たな課題を収集し、県指導主事等と共有する。そして、指導主事等と課題解決に向けた協議や、県と連携している関係機関からの情報提供により、園の課題に即時的に対応できるようにしている。

また、市アドバイザーは園内研修の支援も行っているが、県指導主事等を組織的・計画的な研修の推進や、研修のファシリテーションに関する指導を依頼し、その指導の視点を基に継続的に園に関わっている。

この他に、公開保育研究会を基盤とした保育実践力向上研修会や、市の課題に応じた事業や研修会（幼小接続等）、ミドルリーダーや研修リーダー等の人材育成に関する研修会の実施にあたり、内容・運営について相談をし、それぞれの市の実情に応じたより良い方向性を見出しながら、身近な地域での研修体制づくりを進めている。

県とモデル市では、以上のような連携体制を基本として、重層的な指導・支援を実現している。

【モデル市における推進体制、教育・保育アドバイザーの活用、研修会の実施状況】

ア) 推進体制（事業開始前の状況、政策決定、周知方法等）

市	対象施設数 a 幼 b 保 c 幼保認 d 他	開始前状況 a 指導者の配置 b 外部指導者の活用	実施理由 (目指す方向性)	政策決定者 a 政策の決定者 b 決定の過程	内容の周知	市AD活用 促進の工夫
大館	b 公 9 私 1 c 私 8 d 20※	a H21 福祉課に 保育AD配置 b 県指導主事、市 ADを継続活用	教育・保育の 質の向上 教職員の専門 性向上	a 市教育委員会 b 市福祉部局と 市の課題を共 有し協議	小中学校長会、 各園長会、研修 会、園訪問時の 指導等で周知	リーフレッ トで全園へ 周知
男鹿	a 公 1 私 1 b 公立 7	a なし b 県の指導者を継 続活用	小学校教育へ の円滑な接続	a 市福祉部局 b 市福祉部局内 で協議	県・市担当者と 園長会議で周 知	園長会議で 基本の活用 方法決定
横手	a 私 4 b 公 8 私 22	a なし b 県の指導者の活 用は少ない		a 市教育委員会 と市福祉部局 b 両者の協議等	独自広報紙発 行や施設訪問 時による周知	広報紙配付、 活用ニーズ 調査

※へき地保育所、児童館、小規模保育施設、認可外、事業所内保育施設

イ) 訪問数

年度	大館	男鹿	横手
H28	44	58	38
H29	64	91	208
H30	71	150	265
H30/H28	1.61 倍	2.59 倍	6.97 倍

ウ) 訪問内容 [上段：H30年度（H29年度）の割合（％） 下段：H29年度との比較（％）]

市	園内研修	保育公開	個別相談	実態把握	周知活動	県と同行	その他◇
大館	52.8 (24.4)	17.6 (19.2)	2.5 (3.9)	7.6 (5.2)	0.0 (0.0)	13.2 (28.2)	6.3 (28.2)
	+28.4	-1.6	-1.4	+2.4	±0.0	-15.0	-21.9
男鹿	23.7 (14.6)	6.7 (5.8)	51.2 (55.8)	0.0 (3.6)	4.1 (6.5)	2.6 (5.8)	10.8 (7.9)
	+9.1	+0.9	-4.6	-3.6	-2.4	-3.2	+2.9
横手	10.8 (3.3)	3.5 (1.7)	0.3 (1.3)	1.3 (12.8)	76.6 (75.8)	2.0 (2.7)	5.5 (2.4)
	+7.5	+1.8	-1.0	-11.5	+0.8	-0.7	+3.1

◇その他：幼小接続に関する調査等

エ) アドバイザーの役割（モデル市の活用例）

種別	主な役割
園内研修	<ul style="list-style-type: none"> ・園の巡回訪問、園の要請による訪問での教育・保育内容に対する指導・助言 ・全体的な計画に対する指導・助言 ・指導計画の作成指導、研修計画立案に対する指導 ・定期的な研修推進状況の評価、研修の改善に向けた方向性の示唆 ・公開保育の事前指導（指導案の作成支援、グループ協議の視点の絞り込み） ・園内研修方法の提供、研修方法の指導（ファシリテーターの在り方、協議内容の可視化、保育参観の工夫等）、園内研修の資料作成 ・テーマ（園の課題等）に沿って指導・助言
保育公開	<ul style="list-style-type: none"> ・公開保育研究会での保育内容に対する指導・助言 ・グループ協議のファシリテーション ・研修会の運営サポート（全体進行、近隣市町村からの参加者の対応等）
個別相談	<ul style="list-style-type: none"> ・園からの相談への対応（県関係機関との連携、情報提供） ・定期的な個別面談（新人保育者の支援及びメンタルケア等） ・人材育成（ミドルリーダー、研修リーダー、若手保育者）
実態把握	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢ごとの保育状況の確認（園長等との共有） ・小学校教育への円滑な接続の取組の把握（教職員の連携、子どもの交流等） ・他市アドバイザーの取組の視察
周知活動	<ul style="list-style-type: none"> ・関係先へのPR（アドバイザー活用方法の提案、職員との関係性の構築等） ・園や小学校、園長会での事業の意義や内容の説明 ・市主催研修会の報告（広報紙の配付）
県との同行	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保推進課所管研修等への参加による情報共有、研修会企画方法の習得 ・県指導主事等との園のよさや課題の共有、指導ポイントの協議
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・園の課題解決に向けた情報収集と情報提供 ・特別支援に関する関係機関との連携 ・複数園での研修の提案や仲立ち（公開保育研究会の調整） ・専門性向上のための研修会の参加（教育・保育アドバイザー連絡協議会等） ・事業内容の広報紙の作成 ・家庭教育支援（保護者向け子育て講座での講話、家庭教育ガイドの作成等） ・就学前教育・保育関係団体からの要請（保育士対象の研修会での講話等） ・市主催研修会のコーディネート（全体進行、協議グループの指導・支援） ・幼小連携の企画と仲立ち（研修会の運営、小学校区ごとの接続期のカリキュラム検討会での指導・助言等）

②身近な地域における幼児教育の課題に応じた研修会の開催

各モデル市の課題や園のニーズを踏まえ、各市において専門性の向上等の研修会を実施した。

【分野別研修会開催数】〔上段：H30年度の回数（参加者数）、中段：H29年度、下段：H29年度比〕

市	市全体	課題別	キャリアステージ	担当年齢・職種別	公開保育	その他※	開催数（参加者）
大館	1 (90)	4(135)	19(242)	9 (235)	9(560)	4(147)	46(1409)
	2(254)	6(256)	10(119)	11(385)	9(287)	3 (85)	41(1386)
	-1(164)	-2(-121)	+9(+123)	-2(-150)	±0(273)	+1(+62)	+5(+23)
男鹿	1(63)	-	4(39)	-	9(154)	1(9)	15(265)
	4(273)	-	1(30)	-	1(53)	0(0)	6(356)
	-3(210)	-	+3(+9)	-	+8(101)	+1(9)	+7(-91)
横手	1(119)	-	-	-	2(127)	2(93)	5(339)
	2(171)	-	-	-	1(85)	1(102)	4(358)
	-1(-52)	-	-	-	+1(+42)	+1(-9)	+1(+19)

※その他：幼小接続に関する研修会・事業、市内研究発表会等

【モデル市の推進体制の傾向】

大館市

H21年度の保育アドバイザー配置により築いてきた園との関係性を土台とし、本事業により市教育委員会に元保育園長、市福祉部局に元小学校講師を配置し、部局間の連携を強化した重厚な支援体制を実現。園及び小学校への訪問を充実させる。「園内研修」「公開保育」の割合が訪問の50%以上を占めるように、保育の質の向上に重要な役割を果たす「研修」への深い関わりがある。県指導主事等の園訪問全てにアドバイザーが同行し、各園の指導の方向性を共有しながら重層的に支援を継続する体制を構築している。

研修会は、園や保育者のニーズを踏まえ、各分野において多様な内容を実施するとともに、講師を県や関係機関等から幅広く活用し、内容の充実を図っている。キャリアステージに応じた研修会や公開保育研究会の定着、非常勤職員や保育補助が参加できる研修会の実施等、どの保育者も地域で学び合い、専門性の向上を図ることが可能な体制づくりをしている。幼小接続の体制を整えるとともに、近隣市町への研修参加の働きかけも積極的に行い、広域圏内の核として機能し、「地域で教育・保育の質の維持・向上が持続可能な成熟した推進体制」であるとともに、今後アドバイザーを配置する市町村が目指すべきモデルの一つである。

男鹿市

事業前の推進体制はないが、県の訪問を積極的に活用していたこともあり、私立園を含めた園長会等でアドバイザー活用のアウトラインを決定し、定期的な園訪問が可能となる。H28年度はアドバイザー1名の配置であったが、市内の園数が少数（公幼1、私幼1、公保7 計9園）であるメリットを生かし、各園の複数回訪問を通して保育者一人一人に寄り添いながら相談を丁寧に受け、信頼関係を深めてきた。H29年度からアドバイザー2名となり、園や保育者のニーズに応える体制が一層充実した。「個別相談」が訪問数の約50%を占めるように、保育者一人一人に対するアドバイザーによるきめ細かな支援が特徴的であり、保育者の意識改革や園内研修の活性化が実際に多く見られる。

研修では、H29年度よりミドルリーダーを対象とした研修会を実施、H30年度は若手保育者の研修会も実施し、キャリアステージに対応した研修体系の整備を進めている。公開保育は、近隣地域にも働きかけながらモデル園1園で実施してきたが、H30年度は市内全園での公開研究会を実現しており、地域で学び合う体制づくりが一層進んでいる。「市の特性（園が少数であるメリット）を生かしたきめ細かな推進体制」となっている。

横手市

1市5町2村が合併した市であり、広域圏で多数の公・私立園が混在している。私立園が70%以上占め、特色ある保育を展開する園が多数ある。事業開始前の推進体制はなく、県の訪問活用数も他モデル市を大幅に下回り、外部指導者の活用には消極的な園が多くあった。

「周知活動」が訪問の70%以上を占めるように、まずは所（園）長や主任との話のきっかけづくりのためにアドバイザーによる広報紙の直接配付等で園に足繁く通いながらPRを継続した。アドバイザーの認知度を上げるため、園の要望により、夕涼み会の芋ほり等の農園活動応援、節分の鬼役、クリスマスのサンタクロースなどいかなる依頼にも対応することを園訪問時にPRするなど、園との関係性の構築に注力した。その成果もあり、全園訪問が可能となった。

研修では、保育者の専門性の向上をねらいとした研修会に加え、保育者と小学校教員の相互理解を図る合同研修会や、全市就学前施設と小学校の相互職場体験事業の継続により、幼小接続の課題解決に重点を置いた取組を展開している。また、広域圏のデメリットの解消や市内統一の取組をするため、横手市幼小接続推進協議会を組織し、小学校区で保小連携委員会や保幼小連携委員会を実施している。アドバイザー活用による保育の質の維持・向上と、小学校への円滑な接続のための組織化や研修会の充実による「子どもの育ちをつなぐことに重点を置いた推進体制」となっている。

3市共通

3市とも訪問数及び研修会の参加者数が増加傾向にある。教育・保育の質の維持・向上には不可欠である「園内研修」で活用率が高くなってきおり、研修の推進にアドバイザーを活用するメリットを園が認識しているものと思われる。

1年目（H28）は、アドバイザー活用の周知、園や保育者との関係性の構築、2年目は、園内研修の支援や、個々の保育者に寄り添うきめ細かい支援に重点を置き、各園のニーズに対応しながら園と関わってきたことが3年目（H30）の訪問数につながったと考える。

また、専門性向上を図る園内研修、若手保育者のメンタルケアを含めた人材育成、研修リーダー等の業務の負担軽減等、市の推進体制ビジョンの中でアドバイザーの役割や園との関わり方の基本を明確化し、園のニーズに可能な限り応えながら支援するとともに、県との連携体制を活用し、園の課題解決にスピード感をもって対応してきたことが、園との信頼関係構築やアドバイザーの活用促進につながったと考える。

研修会は、市全体の講演型研修から、公開保育を中心とした研修会にシフトしている。市内及び他市町村の保育者が、保育参観や研究協議を通して学び合うスタイルが定着し、園の主体性や保育者の協働性を発揮した研修推進モデルを実現している。また、キャリアステージ別の研修会や、幼小接続に関する研修会・事業にも力を入れており、「教育・保育の専門性の向上」「小学校への円滑な接続」「キャリアステージに応じた人材育成」が研修の柱となっている。

③小学校教育への円滑な接続のための体制構築

3市とも、公開保育研究会には、小学校教員も参加する体制がスタンダードとなっており、小学校区を基盤として園と小学校の関わりがある。乳幼児・児童の交流や教職員の連携は一般的である。(P30「3 小学校との円滑な接続・9 小学校との連携・接続における実践内容」参照)

小学校教育への円滑な接続に向けた行政主導の体制整備が進み、小学校低学年の授業改善に向けた「幼保小連携推進議」(大館市)や、小学校教育への円滑な接続を推進に向けて協議する組織である「幼小接続推進協議会」(横手市)、幼小連携意見交換会(男鹿市)を実施している。また、接続期の取組について理解促進を図る「幼保小連携プログラム」リーフレットの作成及び活用(大館市)などもある。

今後は、整備した体制において、「接続を意識したカリキュラムの編制」に係る取組など、相互理解から一歩踏み込んだ段階にシフトしていくことが望まれる。

3. 成果と課題 (○成果、●課題、◇改善の方策)

(1) 幼保推進課における幼児教育センター機能の強化

①調査研究実行委員会による3年間の研究調査成果の検証

○各委員の立場から様々な角度で提言等をいただき、事業推進に有効であった。特に、県と市の連携体制の構築、就学前教育振興アクションプログラムⅡの作成では、貴重な御意見をいただいた。

◇平成31年度以降の推進体制構築も、同様の委員会(就学前教育推進協議会(予定))等を立ち上げ、有識者や各団体等の関係者から提言等をいただきながら、本県ならではの推進体制の在り方について検討を重ねていく。

②「秋田県就学前教育振興アクションプログラムⅡ」の完成、発信

○平成28年度の実態調査や各要領・指針の改定を踏まえ、調査研究実行委員会、外部検討委員会に検討を重ねていただき、今後の本県就学前教育・保育内容の方向性を表すことができた。

◇県主催の研修、訪問指導で活用するとともに、園内研修での活用を促進する働きかけをし、全県レベルで同様の方向性をもった教育・保育の展開につなげ、本県就学前教育の理念である「子どもの居場所がどこであっても、すべての子どもに質の高い幼児教育・保育を保障」を実現していく。

③幼児教育に関するアンケートの実施による調査研究内容の分析と成果の発信

○事業開始前との比較や各キャリアステージの保育者の変容等を捉えながら、県とモデル市の連携による推進体制の成果を見出すことができた。

◇今後も同様の事業を実施予定であるが、3年後に同様のアンケートを実施し、変化をとらえながら事業の展開について検証する。

④教育・保育アドバイザーの人材育成

○「教育・保育アドバイザー連絡協議会」や「県教育・保育アドバイザー要請訪問」等により、モデル市教育・保育アドバイザーの支援が可能となった。また、アドバイザー間のネットワー

クが構築され、それぞれの交流や情報交換が頻繁に行われ、事業推進に役立った。

○平成 28 年度から実施している「指導主事等による園訪問への同行」や「幼保推進課所管研修会への参加」も高い評価を得ている。課題解決に向けた県教育・保育アドバイザーへの相談内容もより具体的なものとなっており、県教育・保育アドバイザーの存在が大きい。（p24「教育・保育アドバイザーの育成に関するアンケート調査」から見える成果と課題 参照）

●◇H31 年度以降は、教育・保育アドバイザーの増加が予想される。北・南教育事務所との連携体制を活用し、北・中央・南地区でそれぞれアドバイザーの育成を担当するなど、県と市の連携体制や対応について検討する必要がある。

◇アドバイザーの育成は、研修会だけで行うことは難しい。県と市町村の連携体制を維持・拡充し、研修会、現地での指導・支援、アドバイザーのネットワーク構築、県指導主事等との共有等、園を重層的に支援する体制を継続する。

⑤幼保推進課所管研修の見直しによる体系的な研修機会の提供

○研修内容の拡大により、各要領・指針の改訂（定）や保育者のニーズに対応できる研修体制となった。受講者の評価が高い。

●◇研修会開催回数が増加するとともに、各研修の受講者も大幅に増加し、指導主事等だけでは対応が難しくなってきているので、県と市との連携による開催や、外部委託等の検討も必要である。

⑥保育者の専門性向上を図る研修会の実施

○研修リーダーの育成により、ミドルリーダーが研修推進役となり、課題であった教頭・主任保育士等の負担が軽減されるとともに、ミドル層の人材育成につながった。

○事業開始前は、県指導主事等が指導・助言したことをメモしているだけの受け身的な研修が多かったが、現在は、園が目指すものに向かって、保育者同士の対話し、協議内容を視覚化しながら今後の方向性を捉え、主体的・協働的に研修や保育実践に取り組む園が、県指導主事等の訪問でも数多く見られるようになった。

○モデル市に限らず、他市町村からも研修の推進に関する研修会の実施をこれからも継続してほしいという声が数多くあった。

○●◇幼小接続に関する研修会の参加者が増加し、幼児・児童交流や教職員の連携は一般化している。（ステップ2 ※）ただし、接続カリキュラムに関するステップ3を満たしている園・校は少なく、20%程度である。（p30 「3 小学校との円滑な接続」参照）

今後は、市町村との連携体制を拡充する中で、それぞれの小学校区での取組の実現に向けて市町村教育行政に働きかけていくとともに、それぞれの実情に応じた支援をしていく。また、就学前教育での子どもの育ちや学びを明確に伝えることのできる保育者の育成に県と市町村が連携をしながら取り組んでいく。

ステップ2

年数回の授業、行事、研究会などの交流があるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない。

ステップ3

授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている。

（「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議（H22.11.11）より）

⑦調査研究成果の発信

○全国向けフォーラムにより、本県の推進体制構築の状況や、身近な地域での園を越えた研修推進のモデルを発信することができ、県内外の参加者から、意見等をいただくことができた。県内での反響は大きく、モデル市以外においても、推進体制を構築に向けて動き出した市や、研修推進モデルと同様の研修をする園が増加している。

◇平成31年度に開始予定の後継事業においても発信を継続し、県内の推進体制拡充につなげていく。

(2) 県とモデル市の連携・協力体制によるモデル市の幼児教育推進体制の構築

(モデル市の具体的な取組については、p48～69参照)

①県とモデル市の連携・協力によるモデル市及び園の課題解決支援

○県指導主事等とモデル市教育・保育アドバイザーの連携による園の重層的な支援体制は、事業開始前の課題であった「機動的な指導・助言体制」を解決する手立てとなる。これまでは、県指導主事等が年1程度しか訪問できなかったが、市教育・保育アドバイザーとの連携により、年間を通して園を支援することができるようになった。また、園の課題解決に向けて即時的に対応できるようになった。

◇モデル市との連携体制を例に、他市町村との連携体制構を進めていく。

●◇市町村教育・保育アドバイザー増加時の連携体制の在り方を検討する必要がある。

②身近な地域における幼児教育の課題に応じた研修会の開催

○様々な分野の研修会がモデル市で実施され、身近な地域で専門性の向上を図ることが可能となった。

○保育を公開することを基盤とした地域で学び合う体制づくりが進んだ。また、参加者の評価も高い。(p35 「C 地域で学び合う体制づくり」参照)

○公立・私立、設置形態を問わずに近隣園が協力して研修を実施する体制となった。

○モデル市から近隣市町村への働きかけにより、地域の規模等によりアドバイザーの配置が難しい地域の保育者も研修会に参加し、専門性の向上を図ることができるようになった。モデル市が、広域での研修推進の核として機能している。

◇モデル市の事例を参考に、他地域においても学び合う体制づくりを進めていく。

③小学校教育への円滑な接続のための体制構築

○モデル市では、子どもの育ちと学びをつなぐための組織的な体制づくりがスタートした。

●◇ステップ3(接続カリキュラム)を実現する体制があまり整っていない。市町村を支援しながら、小学校区を基盤とした体制を整備していく。(p22 「⑥保育者の専門性向上を図る研修会の実施」参照)

「教育・保育アドバイザーの育成に関するアンケート調査」アンケート調査から見える成果と課題

平成 28 年度から実施した県と市の連携・協力体制における教育・保育アドバイザーの育成等について、「教育・保育アドバイザーの育成に関するアンケート調査」から成果と課題を捉えた。

1 〈連携体制〉教育・保育アドバイザーの人材育成（評価）

項目	評価
教育・保育アドバイザー連絡協議会	4.83
幼保推進課所管研修への参加	4.83
県指導主事等の園訪問への同行	5.00
課題解決のための来庁、電話相談	4.66
県教育・保育アドバイザー要請訪問	5.00
アドバイザーの連携体制構築	5.00

(評価は最大 5.00)

2 〈連携体制〉県教育・保育アドバイザーの支援効果（自らの気づきを促す支援、効果的な支援）

【子どもの見方、保育の捉え方】

- ・子どもの内面理解の重要性
- ・子どもを肯定的に見る姿勢
- ・保育参観時における各年齢に応じた乳幼児の成長と遊びを見守る視点の明確化

【園や保育者に対する支援方法】

- ・園訪問するときの基本的な心構えやアドバイスの仕方
- ・保育者との距離の取り方、具体的な支援方法、効果的な伝え方
- ・演習を通じての具体的な指導・助言の仕方
- ・助言のポイントがずれているという指摘

【県教育・保育アドバイザーの人間性】

- ・県教育・保育アドバイザーの受容的・共感的な態度、質の高い保育に向けたより高い目標の意識

【研究協議の支援】

- ・ファシリテーター、記録者、参加者に対する助言内容や方法の明確化
- ・ねらいと振り返りの視点の確認により、研究協議が効率よく、ねらいから逸脱しない協議の運営

3 〈園訪問〉園や保育者を支援する際に大切にしたこと、気を配ったこと

【子どもの利益】

- ・保育者と共に、子どもの最善の利益を考慮、模索する。

【保育者との関係性の構築】

- ・保育士や園の悩み、考えを聞く姿勢を大事にし、伺ったことを整理してから、方向付けする。

- ・「いつでも話は聞くよ。」というフランクな関わりのスタンスをとる。
- ・園や保育者にまずは否定せず寄り添い（尊重し）、困っている事を一緒に考える。
- ・思いを受け止め、意欲を削がないようにしつつ、更によくなるための助言を心がける。
- ・良いところ、良い方向に変わったことを認める。
- ・聞き上手（じっくりと思いや悩みを受け止める）となり、困っているところに寄り添うよう。
- ・上からの指導にならないように気を付けた。

【園の特色の理解】

- ・それぞれの園の特色や経営方針を尊重しつつ、その園がアドバイザーに求めていることを把握する。
- ・広報配布等の訪問でも、現在園が何を欲しているのかを敏感に捉える。（直接研修にはつながらなくとも）
- ・園の特色を認めながら、指針のねらいを理解させていく。

【保育者のメンタルヘルス】

- ・保育の質の向上はもちろん、保育士の「体と心」が健康でいられること。

【自分自身の専門性の向上】

- ・長い保育経験に慢心せず、常に学び続け専門性を身に付けること。

4 〈園訪問〉園や保育者との関わりの工夫

【助言の仕方の工夫】

- ・保育者の思いや考えを引き出す。
- ・キャリアステージに応じて働きかけ方を変える。
- ・課題の大きさに応じてスモールステップを示し、段階的な課題解決を保育者と共に目指す。
- ・保育者一人一人の状況を捉えながら対応をする。
- ・対象園の特徴や研修体系を事前に把握し、その園にあった伝え方をする。
- ・研修の状況を見極め、時にはアドバイザーが協議のファシリテートをする。

【課題解決に向けた県との連携体制の活用】

- ・助言内容や今度の指導の方向性について、県指導主事や県アドバイザーと相談する。
- ・アドバイザー連絡協議会でのケース検討等で多様な意見を聞き、支援の方向性を決めていく。

【支援方法の振り返り】

- ・同僚のアドバイザーと今回の対応を振り返り、次回の働きかけ方を決めていく。

5 〈園訪問〉難しいと感じたこと

【主体的な学びにする支援方法】

- ・改善点を直接指摘するのではなく、話し合いを通じて自ら気付いてもらう助言をすること。
- ・意欲を尊重しながら改善点を伝えること。
- ・園長の思いや方針が強く、保育者が自分の思いや考えを出せない研修への対応。
- ・これまで研修の機会不足で、自主的に研修を深めていくことが難しい園への対応。
- ・「寄り添う」という姿勢を大切にしながら関わらず、感情的な指導・助言をしてしまったこともある。
- ・言いたいことをストレートに言えず、分かってもらえないことや伝わらないことがあった。
- ・成果を求めるあまり、実態とはかけ離れた助言（または感想）を押しつけてしまう訪問があった。
- ・思いを受け止めながら、保育士自身の課題を自ら気付くような助言がなかなかできなかったこともあった。

【確かな理解を促す支援】

- ・確かな理解につながるような助言にすること。（なかなか実践に結びつかない場合もある。）
- ・自分自身の保育の振り返りができず、子どもの姿（特にマイナスな捉え）だけが話題になってしまう保育者に対する助言。

【継続的なメンタルサポート】

- ・心の病気を抱える保育者が増加傾向にあり、面談等で話を受け止めることはできるが、他園も訪問しなければならず、ずっと継続してサポートすることが難しい。

6 〈資質・能力〉教育・保育アドバイザーに必要な資質・能力

【幼児理解、保育を捉える力】

- ・保育全般に関する幅広い豊富な知識と保育経験（園長や校長経験者等）
- ・幼児理解、保育を見る目。

【状況に応じたコミュニケーション力】

- ・話す、聞く、伝える、表現等によって保育者と考え方を共有できるコミュニケーション力。
- ・キャリアステージや保育者一人一人に応じた対応。
- ・カウンセリング、コーチングのスキル。

【問題解決力】

- ・問題解決に向かう対応力（園との調整、県や他の連携機関との連携、対応のスピード感等）

【受容力、考え方の柔軟性、熱心さ】

- ・様々な保育者（若手、ミドル、園長等）の思いを受け入れていける大らかな心、受容力、豊かな人間性。
- ・いろいろな考え方や新しいことを受け入れられる柔軟さ。
- ・子どものために、保育者のためにというモチベーションの高さ。

7 〈資質・能力〉アドバイザーに必要な研修（県が実施した研修会）

【園内研修のマネジメント、研修手法】

- ・園内研修リーダー養成講座（基礎編・応用編）
- ・ファシリテーター研修会
- ・園内研修の在り方に関する研修会

【幼小接続】

- ・就学前・小学校等地区別合同研修会

【課題に応じたケースワーク】

- ・アドバイザー連絡協議会での研修（ファシリテーターに関する研修、実際の園内研修を想定しての模擬演習、幼稚園・認定こども園での保育参観（保育の見方の共有）と保育者への助言方法の協議、アドバイザー同士によるロールプレイング、コーチング）

【推進体制の方向性】

- ・わか杉っ子！育ちと学び支援事業フォーラム

8 〈資質・能力〉 アドバイザーに必要な研修分野

No.	項目	内 容	回答(人)
1	幼児理解	子どもの内面理解	6
2		乳幼児の発達理解	6
3	保育実践	保育（環境の構成、保育者の関わり）	6
4		遊びの見方	6
5	園内研修	園内研修計画の作成、実施、評価・改善	5
6		研究実践	5
7		先進的な研究事例	4
8		協議のファシリテート	6
9	幼小接続	小学校との連携（子どもの交流、教職員の連携）	5
10		小学校教育への接続カリキュラム	4
11		児童の発達理解	4
12	教育・保育過程	全体的な計画、教育・保育課程の作成、実施、評価・改善	3
13		指導計画の作成、実施、評価・改善	5
14	園運営	クラス運営	3
15		メンタルヘルス	5
16		保護者への対応	5
17		配慮を要する子どもへの対応	5
18		健康支援	2
19		食育の推進	4
20		衛生管理、安全管理	3
21		子育て支援	3
22		地域との連携	2
23		園評価	2
24	人材育成	カウンセリング	5
25		キャリアステージに応じた育成（若手、中堅、研修リーダー）	4
26		コーチング	6
27	指導・支援	教育・保育アドバイザーの役割	4
28		キャリアステージに応じたコミュニケーションスキル	5
29	研究会企画・運営	相手に対する効果的な伝え方	5
30		市主催研修会実施の手法	5
31		市主催研修計画計画の立案	5
32	その他	市主催研修の実施・評価	5
33		先進的事例研究	4

回答：モデル市教育・保育アドバイザー6名

9 〈市の推進体制〉 望ましい教育・保育アドバイザー配置形態

- ・複数体制（中堅とベテラン等）による切れ目ない継続した助言体制が必要である。
- ・可能であれば、保育者出身と小学校出身者が幼小連携で協力し合うことが望ましい。
- ・県指導主事、県アドバイザー等による市町村アドバイザーへの支援体制を活かす仕組みを継続する。
- ・嘱託アドバイザーの指導の継続には限界がある。管理職としてのアドバイザーの存在が必要である。
- ・身近な存在として、同じ方が継続できるように、研修も受けっぱなしでなく、認定制度にしていく。（園長経験者だと就任期間が短くなるので、それに匹敵するくらいの研修を受け、資格を取得するような方法）
- ・市で「幼児教育アドバイザー」を必要とするならば、正職員として位置付ける。
- ・待遇面（賃金）をもう少しよくしていただかないと。個人の“責任感”などのモチベーションに頼られても、業務継続をする上で大変である。
- ・市の行政担当者は、アドバイザーの仕事に対してもっと興味をもってほしい。

市アドバイザーの支援方法は、高い評価を得ており、活用ニーズは高い。全アドバイザーが顔を合わせての課題解決に向けた協議や、情報交換、また、現地での指導を充実し、今後も必要だと考える。またアドバイザーに必要な研修については、アドバイザーのニーズを参考に実践的に役立つ内容を組み立てていく。

持続的な支援体制を構築するためには、アドバイザーの雇用形態や園内部からの育成等考える必要がある。

「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」アンケート調査から見える成果と課題

A 平成 28 年度実施アンケートとの比較から捉える教育・保育の質の向上

平成 28 年度に実施した「就学前教育・保育に関するアンケート調査」の調査内容の同項目との比較により、教育・保育アドバイザーを配置したモデル市での変容を捉えた。

1 カリキュラムマネジメントの実施

1 地域資源(人的・物的資源)の活用

	回答数	①H30	②H28	①-②
① 計画に位置付けて活用	27	42%	42%	-1%
② 計画の位置付けはないが活用	31	48%	25%	23%
③ 活用は特に考えていない	3	5%	5%	0%
④ 必要性の認識はあるが難しい	4	6%	28%	-22%
	65	100%	100%	

「活用」は22%増と促進傾向であるが、「計画的な位置付け」については、50%を下回る。

今後は、アドバイザーの指導・支援を得ながら、全体的な計画の見直しや年度の重点の設定をするとともに、地域資源の計画的に位置付け、カリキュラムマネジメントやふるさと教育を実践することが望まれる。

2 園内研修の推進

2 園内研修の組織化

	回答数	①H30	②H28	①-②
① 行っている	60	92%	86%	6%
② 行っていない	5	8%	14%	-6%
	65	100%	100%	

園内研修の組織化は以前から高い割合をしており、6%の微増であるが、ほぼ全園で組織化が図られている。今後も、園長等のリーダーシップのもと保育者のキャリアステージを考慮しつつ、組織化を図り、協働的な研修の実施が望まれる。

3 園内研修の推進者

	回答数	①H30	②H28	①-②
① 園長・施設長等	3	5%	13%	-8%
② 教頭・主任保育士等	21	32%	49%	-17%
③ 研修リーダー(研究・研修主任)	33	51%	21%	30%
④ 保育者(輪番制)	7	11%	10%	0%
⑤ 担当年齢毎の当番制	0	0%	0%	0%
⑥ 特にいない	1	2%	1%	0%
⑦ その他(記入)	0	0%	5%	-5%
	65	100%	100%	

事業開始前は、園内研修推進者が教頭・主任等に集中し、業務過多になっていることが課題であったが、現在は、研修リーダーの位置付けが進んでおり、半数近くの園が、ミドルリーダー層にシフトしており、育成が進んでいる。

県主催の園内研修リーダー要請講座の参加者が3年間で600名を越え、研修リーダーの位置付け、ミドルリーダー層の育成について理解が図られてきたことも要因の一つといえる。

今後も、アドバイザーと連携しながらミドルリーダー層の育成を図り、園内研修の充実や組織的・計画的な研修の推進につなげていくことが望まれる。

4 園内研修の計画的な実施

	回答数	①H30	②H28	①-②
① 研修計画に基づき計画的に実施	58	89%	75%	15%
② 研修計画はない必要に応じて実施	6	9%	13%	-4%
③ 実施が難しい	1	2%	12%	-10%
	65	100%	100%	

計画的な実施が計89%、15%増となり、アドバイザーの配置・巡回訪問が、園内研修の確実な実施につながっていると思われる。今後も、外部指導者の継続的に活用し、確かな研修マネジメントをすることが望まれる。

【参考】「園内研修の充実した97%」(管理職)、「研修リーダーの支援効果あり100%」(研修リーダー)、「アドバイザーの必要性あり 91%」(研修リーダー)

5 多くの保育者が研修に参加する工夫

	回答数	①H30	②H28	①-②
① 降園時間を早め、全員の参加を確保	3	5%	5%	0%
② 午睡の時間を活用	54	83%	39%	44%
③ 子どもの完全降園後に設定	4	6%	4%	2%
④ 子どもが少ない曜日、時間に設定	17	26%	14%	12%
⑤ 管理職等が保育に入り、参加を確保	7	11%	5%	6%
⑥ 保育者間の交替シフト	14	22%	3%	19%
⑦ 参加できなかった保育者に伝達	47	72%	17%	55%
⑧ その他(記入)	3	5%	13%	-8%

保育者の雇用形態、勤務シフトがより複雑化している昨今、園内研修に全保育者が参加することは困難であるが、各年齢代表等の研修出席や、ドキュメンテーションによる伝達等により、子どもと向き合う全ての保育者間で情報共有しようとする工夫が見られる。ミドルリーダー(研修リーダー含む)の育成が促進されたことや、県主催の園内研修リーダー要請講座での学び、アドバイザーの指導・助言等による課題解決が要因ではないかと考える。

職員の研修参加体制の工夫は、研修の質を左右し、保育に影響する。今後も、園の状況を分析し、組織的に研修を推進する工夫が求められる。

6 保育を見合う機会（公開保育）の設定

	回答数	①H30	②H28	①-②
① 外部に公開することもある	29	45%	39%	5%
② 園内に限るが設定している	20	31%	15%	15%
③ 設定していない	15	23%	45%	-22%
④ 無回答	1	2%	0%	2%
	65	100%	100%	

公・私立、園の設置形態を問わない地域で学び合う体制づくりを県で推進していることもあり、モデル市では、園内外で保育を公開し、参加者が共に協議するスタイルが定着してきている。H30年度本事業フォーラムでは、近隣市町村を巻き込んだ地域で学び合う体制のモデルを発信したこともあり、同様の動きが見られるモデル市以外の地域もある。参加した保育者のニーズは高く、アンケートには、公開園のメリットの記述もあった。（回答：公開園管理職の自由記述）

今後も、県と市町村の連携によりアドバイザーを核として園を支援し、開かれた園づくりの推進や、身近な地域で保育者が専門性の向上を図る機会提供を推進していきたい。

【参考：アンケート項目：「地域での公開保育研究会に賛成である 98%（管理職）、96%（研修リーダー）、98%（中堅保育者）、100%（若手保育者）」

7 園内研修リーダーの育成状況

	回答数	①H30	②H28	①-②
① 育成している	40	62%	48%	13%
② 育成しているが進まない	7	11%	14%	-4%
③ 育成を考えているが進まない	13	20%	19%	1%
④ 育成していない	5	8%	18%	-10%
	65	100%	100%	

7、8共通分析

研修リーダーが位置付けられ、ミドルリーダーが活躍する場面が増加する（参照 項目3 園内研修の推進者）とともに、研修リーダーの育成に取り組む園が6割を越える。ただし、モデルの存在がないなど、育成に苦慮している園もあると思われる。その解決の手立てとして、管理職や研修リーダーが、アドバイザーと継続的に連携することを推奨していきたい。アドバイザーは、県主催の研修会での学びや、他園の研修リーダーの取組等を紹介を活用しながら、状況に応じた育成を進めていくことが重要である。

アドバイザーの訪問等により、研修リーダーとの関わりが大きくなり、31%増と支援のニーズが高まってきている。県・団体等の研修会による研修機会のニーズも高く、これまで実施してきた県主催の園内研修リーダー要請講座の継続を望む声と捉える。しかし、研修会の開催日数は限られる。その中で、研修内容を理解し、園で具現化を図ることに苦労する受講者もいると想像できる。その支援として、アドバイザーが継続的に研修リーダーと関わり、状況を踏まえつつ園内研修の課題解決に向けて共に取り組むことで、研修リーダーの育成や、組織的・計画的な園内研修の具現化が図られると考える。

8 研修リーダー育成に必要な支援

	回答数	①H30	②H28	①-②
① 県・団体等による研修会の提供	59	91%	41%	49%
② 外部専門家等との連携	25	38%	16%	22%
③ 市町村によるリーダーの育成支援	40	62%	30%	31%
④ 専門的な機関による情報提供	19	29%	12%	17%
⑤ その他（記入）	3	5%	0%	5%

12 外部人材の必要性

	回答数	①H30	②H28	①-②
① 必要性を強く感じる	23	35%	44%	-9%
② 必要性を感じる	42	65%	52%	13%
③ 必要性を感じない	0	0%	4%	-4%
	65	100%	100%	

12、13共通分析

モデル市ではアドバイザーの訪問等による園の支援体制が整い、保育実践や園内研修を支える取組が充実してきている。それに伴い、外部人材の必要性も高まっているが、園のニーズに即した指導・支援、情報提供等を充実させていく必要が今後もある。

外部人材の活用機関として、県及び市のニーズが高まっていることは、県と市の連携による推進体制構築に一定の評価を得たと考える。

その他として、特別支援関係のニーズの高く、園でアドバイザーに相談するケースが多いことが推測できる。特別支援に特化したアドバイザーの配置をしてはいるが、県及び市と関係機関との連携体制を活用し、アドバイザー等が園と関係機関をつなぐ役割を果たすことで、園のニーズに応えていくことが必要である。

13 活用したい外部機関

	回答数	①H30	②H28	①-②
① 小学校の教員	33	51%	28%	23%
② 特別支援教育学校の教員	54	83%	34%	49%
③ 市町村の行政機関（アドバイザー）	50	77%	32%	45%
④ 県の行政機関（指導主事等）	51	78%	37%	41%
⑤ 県内の専門機関（大学、団体関係者）	21	32%	18%	15%
⑥ 県外の専門機関（大学、団体関係者）	12	18%	6%	13%
⑦ その他（記入）	5	8%	1%	7%

14 園外研修の活用

	回答数	①H30	②H28	①-②
① 活用している	50	77%	69%	8%
② どちらかといえば活用している	12	18%	21%	-3%
③ どちらかといえば活用していない	2	3%	6%	-3%
④ していない	1	2%	4%	-2%
	65	100%	100%	

15 園外研修で活用する団体・人材

	回答数	①H30	②H28	①-②
① 県内就学前教育・保育団体	46	74%	31%	44%
② 県内就学前施設経営者	28	45%	9%	36%
③ 市町村就学前教育担当課	44	71%	21%	50%
④ 県教育庁	57	92%	34%	58%
⑤ 保育者養成の専門学校	2	3%	1%	2%
⑥ 県内短期大学	8	13%	0%	13%
⑦ 県内大学	5	8%	1%	8%
⑧ 業者	10	16%	2%	14%
⑨ 他県就学前教育・保育関係機関	12	19%	1%	19%
⑩ その他(記入)	4	6%	3%	3%

3 小学校教育との円滑な接続

9 小学校との連携・接続における実践内容

	回答数	①H30	②H28	①-②
① 子ども同士の交流	53	82%	22%	60%
② 保育者・教員間の情報交換	61	94%	26%	68%
③ 接続を意識したカリキュラム編成	26	40%	7%	33%
④ 保育者による小学校の授業参観	55	85%	16%	69%
⑤ 保育者による小学校の授業参加	29	45%	9%	36%
⑥ 小学校教員による保育参観	42	65%	8%	57%
⑦ 小学校教員による保育参加	31	48%	10%	38%
⑧ その他(記入)	1	2%	0%	2%

10 小学校との連携状況(ステップ)

	回答数	①H30	②H28	①-②
① ステップ0連携の予定・計画なし	1	2%	14%	-13%
② ステップ1連携・接続を検討中	4	6%	6%	0%
③ ステップ2子どもの交流、教職員の連携	36	57%	49%	8%
④ ステップ3指導計画等の見直しを実施	13	20%	19%	1%
⑤ ステップ4実施結果を踏まえて改善	9	14%	8%	5%
⑥ 無回答	2	3%	2%	1%
	65	100%	100%	

11 幼小の共通点や相違点の理解

	回答数	①H30	②H28	①-②
① 十分に理解している	3	5%	2%	2%
② 理解している	33	51%	46%	4%
③ 理解が十分とは言えない	26	40%	48%	-8%
④ 無回答	3	5%	4%	1%
	65	100%	100%	

14、15共通分析

ほぼ全園で園外研修を活用しており、積極的に活用し、専門性の向上を図る意識がより一層高くなっている。

活用先としては、県及び市の増加率が高くなっており、今後も、県と市が連携し、身近な地域での研修機会を確保しながら保育者の専門性の向上を支えていく必要がある。

本事業開始前は、県主催の研修会のほとんどを中央地区で開催せざるを得ない状況のため、参加が難しい地域が多いことが課題であった。モデル市においては、研修機会が増加しているが、それ以外の市町村においてはその課題が残っているため、県と市町村の連携体制を拡充し、身近な地域での研修機会の提供を進めていくことで解決を図る必要がある。

9、10、11共通分析

就学前の各要領・指針が改定となり、小学校教育要領にも小学校教育への円滑な接続を支える幼小連携について記載されるなど、子どもの育ちや学びをつなぐ連携の在り方が問われている。

子どもとの交流、教職員の連携(ステップ2)については、全園・校でほぼスタンダードになっている。また、保育・授業参観や参加の実施も増加し、双方の教育の相互理解を深める取組が実施されている。(9参照)

また、「ステップ0連携の予定・計画なし」が13%減となり、「ステップ2子どもの交流、教職員の連携」が8%増となった。ステップ4実施計画を踏まえて改善も伸びている。(10参照)

しかし、幼小の共通点や相違点の理解の点においては、それほど増加率はない。(11参照)また、接続を意識したカリキュラムの編成(ステップ3)は20%と低い状況にある。

これまで、県主催の就学前・小学校地区別合同研修会等でその理解促進を図ってきたが、接続を意識したカリキュラム編成は、小学校区での実施にならないとその具現化を継続的に図ることが難しい。今後は、県と市の連携による幼小接続を支える支援体制を充実させるとともに、アドバイザーのコーディネート等による学区ごとの取組体制づくりを推進する必要がある。幼小の共通点や相違点の理解が50%程度であることからその必要性は高いといえる。

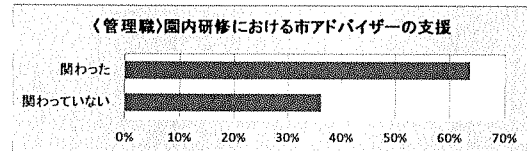
B 教育・保育アドバイザー活用の必要性

管理職、研修リーダー、中堅保育者、若手保育者から見た教育・保育アドバイザー活用の必要性を捉えた。

1 〈園内研修〉研修リーダーに対するアドバイザーの支援

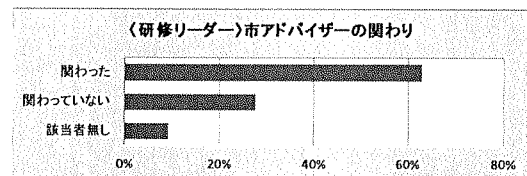
18 〈管理職〉園内研修に市アドバイザーは関わりましたか。

	回答数	(%)
① 関わった	30	64%
② 関わっていない	17	36%
	47	100%



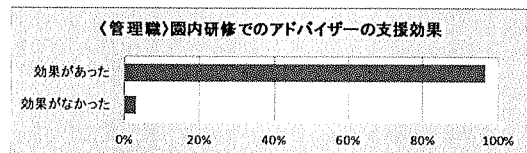
1 〈研修リーダー〉あなたは、研修リーダーとして市アドバイザーの指導や支援を受けましたか。

	回答数	(%)
① 関わった	41	63%
② 関わっていない	18	28%
③ 該当者無し	6	9%
	65	100%



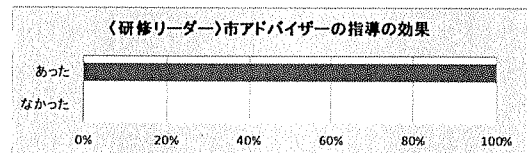
19 〈管理職〉園内研修に市アドバイザーが関わった効果はありましたか。

	回答数	(%)
① 効果があった	29	97%
② 効果がなかった	1	3%
	30	100%



2 〈研修リーダー〉市アドバイザーの指導や支援は効果はありましたか。

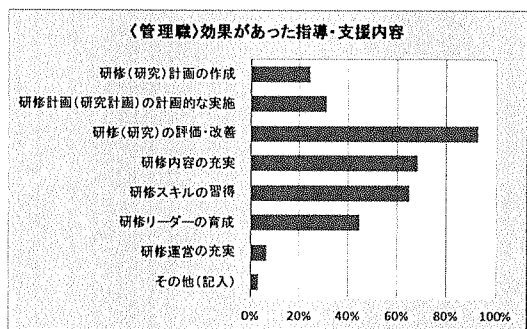
	回答数	(%)
① あった	41	100%
② なかった	0	0%
	41	100%



20 〈管理職〉市アドバイザーの関わりとして効果があった指導や支援内容はどれですか。(複数回答)

	回答数	(%)
① 研修(研究)計画の作成	7	24%
② 研修計画(研究計画)の計画的な実施	9	31%
③ 研修(研究)の評価・改善	27	93%
④ 研修内容の充実	20	69%
⑤ 研修スキルの習得	19	66%
⑥ 研修リーダーの育成	13	45%
⑦ 研修運営の充実	2	7%
⑧ その他(記入)	1	3%

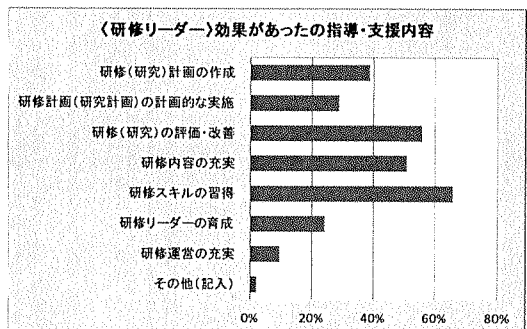
⑧その他: 協議の助言をいただいていたよかったです。



3 〈研修リーダー〉効果があったと思う市アドバイザーの指導や支援内容はどれですか。(複数回答)

	回答数	(%)
① 研修(研究)計画の作成	16	39%
② 研修計画(研究計画)の計画的な実施	12	29%
③ 研修(研究)の評価・改善	23	56%
④ 研修内容の充実	21	51%
⑤ 研修スキルの習得	27	66%
⑥ 研修リーダーの育成	10	24%
⑦ 研修運営の充実	4	10%
⑧ その他(記入)	1	2%

⑧その他: 子どもの見方、記録のとり方、全体的な計画について



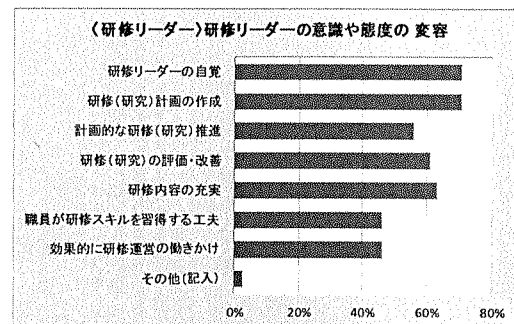
約60%以上の園において、園内研修や研修リーダーの育成に関わりがあった。そのうち、ほぼ全ての管理職や研修リーダーが「関わりの効果がある」と回答している。その中で、管理職、研修リーダーともに、「研修の評価・改善」「研修内容の充実」「研修スキルの習得」において支援効果を感じている。ほぼ全ての管理職が「研修の評価・改善」の効果があると回答しており、外部指導者としてのアドバイザーの支援効果は大きいといえる。

しかし、「研修計画の作成」においては、その割合が低い。研修計画の作成は、園内研修の質を大きく左右することから、研修計画の作成の段階からアドバイザーが関わり、園の実情を踏まえた上で指導・支援をすることが重要である。また、アドバイザーは、外部指導者としての評価を定期的に加えながら推進状況を確認し、管理職、研修リーダーとともに研修推進の成果や課題を見極めながら研修をマネジメントをしていくことが望まれる。

2 〈園内研修〉研修リーダーの変容、職員の変容

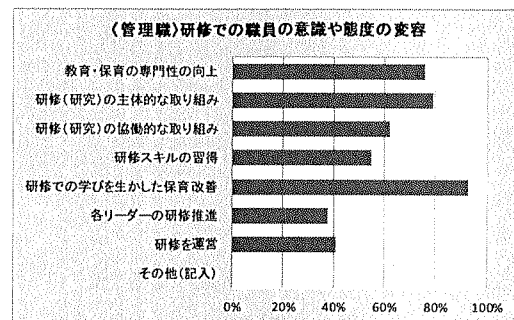
4 〈研修リーダー〉研修リーダーとして、あなたが思う良い変化はどれですか。(複数回答)

	回答数	(%)
① 研修リーダーの自覚	29	71%
② 研修(研究)計画の作成	29	71%
③ 計画的な研修(研究)推進	23	56%
④ 研修(研究)の評価・改善	25	61%
⑤ 研修内容の充実	26	63%
⑥ 職員が研修スキルを習得する工夫	19	46%
⑦ 効果的に研修運営の働きかけ	19	46%
⑧ その他(記入)	1	2%



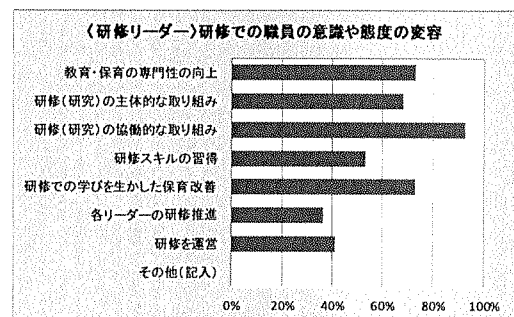
21 〈管理職〉研修において、自園の職員の良い変化(少しの変化も含む)はどれですか。(複数回答)

	回答数	(%)
① 教育・保育の専門性の向上	22	76%
② 研修(研究)の主体的な取り組み	23	79%
③ 研修(研究)の協働的な取り組み	18	62%
④ 研修スキルの習得	16	55%
⑤ 研修での学びを生かした保育改善	27	93%
⑥ 各リーダーの研修推進	11	38%
⑦ 研修を運営	12	41%
⑧ その他(記入)	0	0%



5 〈研修リーダー〉研修において、あなたが思う自園の職員の良い変化はどれですか。(複数回答)

	回答数	(%)
① 教育・保育の専門性の向上	30	73%
② 研修(研究)の主体的な取り組み	28	68%
③ 研修(研究)の協働的な取り組み	38	93%
④ 研修スキルの習得	22	54%
⑤ 研修での学びを生かした保育改善	30	73%
⑥ 各リーダーの研修推進	15	37%
⑦ 研修を運営	17	41%
⑧ その他(記入)	0	0%



研修リーダーの変容においては、研修リーダーの自覚や研修(研究)計画の作成が高い割合を示している。アドバイザーとの関わりの中で、自覚をもって研修推進に取り組む姿勢や態度がうかがえる。

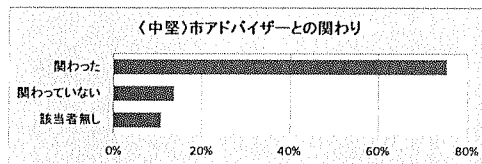
研修での職員の変容においては、専門性の向上、研修の主体的・協働的な取り組み、保育改善の割合が高い。アドバイザーの関わりにより、職員の意識が高まり、研修と実践の一体的な取り組みの実現につながっている。

研修と実践の一体化は、教育・保育の質の維持・向上に影響を及ぼす。「研修⇒保育実践⇒研修」の不断のサイクル確立とともに、管理職や研修リーダー、アドバイザーが職員の取り組みを評価し、職員の変容を認めながら、研修に対する意識を育むことが重要である。

3 〈保育実践〉保育実践に対するアドバイザーの支援

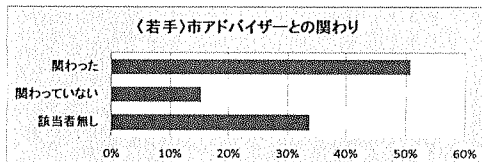
1 〈中堅〉あなたは、市アドバイザーの指導や支援を受けましたか。

	回答数	(%)
① 関わった	49	75%
② 関わっていない	9	14%
③ 該当者無し	7	11%
	65	100%



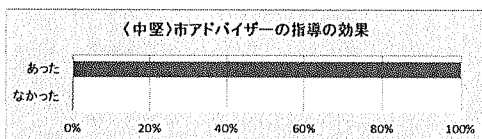
1 〈若手〉あなたは、市アドバイザーの指導や支援を受けましたか。

	回答数	(%)
① 関わった	33	51%
② 関わっていない	10	15%
③ 該当者無し	22	34%
	65	100%



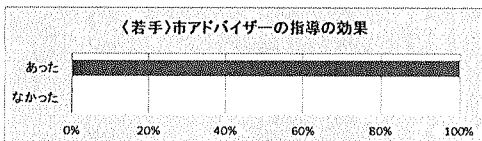
2 〈中堅〉市アドバイザーの指導や支援は効果はありましたか。

	回答数	(%)
① あった	49	100%
② なかった	0	0%
	49	100%



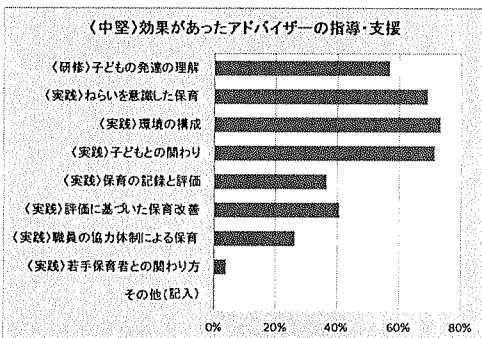
2 〈若手〉市アドバイザーの指導や支援は効果はありましたか。

	回答数	(%)
① あった	33	100%
② なかった	0	0%
	33	100%



3 〈中堅〉効果があつたと思う市アドバイザーの指導や支援はどれですか。(複数回答)

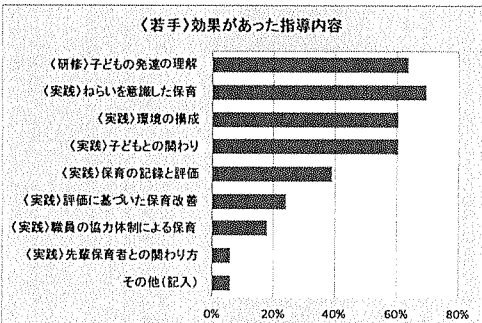
	回答数	(%)
⑦ 〈研修〉子どもの発達を理解	28	57%
⑧ 〈実践〉ねらいを意識した保育	34	69%
⑨ 〈実践〉環境の構成	36	73%
⑩ 〈実践〉子どもとの関わり	35	71%
⑪ 〈実践〉保育の記録と評価	18	37%
⑫ 〈実践〉評価に基づいた保育改善	20	41%
⑬ 〈実践〉職員の協力体制による保育	13	27%
⑭ 〈実践〉若手保育者との関わり方	2	4%
⑮ その他(記入)	0	0%



⑮ その他：時間が短かったので、主に園内研修などについてでしたがもっと色々なお話を聞きたいと思いました。

3 〈若手〉効果があつたと思う市アドバイザーの指導や支援はどれですか。(複数回答)

	回答数	(%)
⑦ 〈研修〉子どもの発達を理解	21	64%
⑧ 〈実践〉ねらいを意識した保育	23	70%
⑨ 〈実践〉環境の構成	20	61%
⑩ 〈実践〉子どもとの関わり	20	61%
⑪ 〈実践〉保育の記録と評価	13	39%
⑫ 〈実践〉評価に基づいた保育改善	8	24%
⑬ 〈実践〉職員の協力体制による保育	6	18%
⑭ 〈実践〉先輩保育者との関わり方	2	6%
⑮ その他(記入)	2	6%



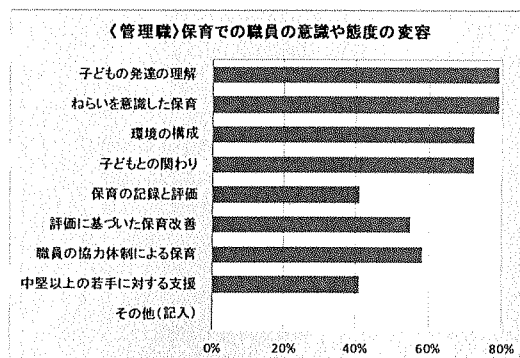
⑮ その他：気になる子への関わり・働く上でのメンタルヘルス

保育実践において、アドバイザーとの関わりがあつた中堅保育者、若手保育者ともに支援の効果を感じている。指導内容では、子どもの発達を理解、ねらいを意識した保育、環境の構成、子どもと関わりについて60~70%程度の割合で効果があると回答しており、保育実践におけるアドバイザーの指導・支援の効果があることがうかがえる。一方、記録や評価については、その割合が低いことから、指導・支援の効果が薄いか、その機会がなかったことが考えられる。教育・保育の質の維持・向上には、指導と評価と一体化を図る必要がある。また、小学校教育への円滑な接続が求められている今、子どもの育ちや学びを言語化し、確実に小学校側に伝えることが求められていることから、記録や評価についての指導・支援は、アドバイザーの今後の指導の視点として重要である。

4 〈保育実践〉保育実践における職員の変容

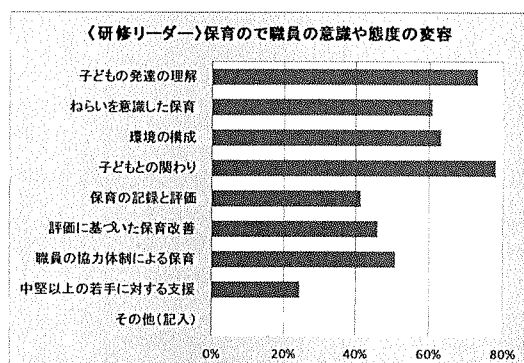
22 〈管理職〉保育において、自園の職員の良い変化はどれですか。
(複数回答)※一部抜粋

	回答数	(%)
④ 子どもの発達の理解	23	79%
⑤ ねらいを意識した保育	23	79%
⑥ 環境の構成	21	72%
⑦ 子どもとの関わり	21	72%
⑧ 保育の記録と評価	12	41%
⑨ 評価に基づいた保育改善	16	55%
⑩ 職員の協力体制による保育	17	59%
⑪ 中堅以上の若手に対する支援	12	41%
⑫ その他(記入)	0	0%



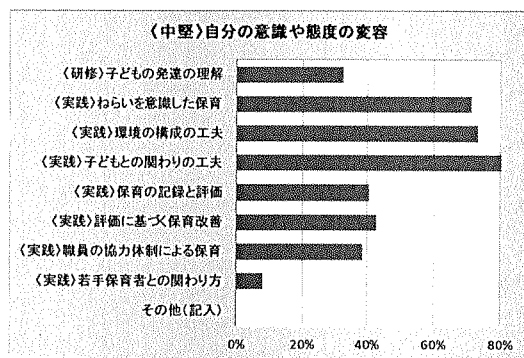
6 〈研修リーダー〉保育において、あなたが思う自園の職員の良い変化はどれですか。(複数回答)※一部抜粋

	回答数	(%)
④ 子どもの発達の理解	30	73%
⑤ ねらいを意識した保育	25	61%
⑥ 環境の構成	26	63%
⑦ 子どもとの関わり	32	78%
⑧ 保育の記録と評価	17	41%
⑨ 評価に基づいた保育改善	19	46%
⑩ 職員の協力体制による保育	21	51%
⑪ 中堅以上の若手に対する支援	10	24%
⑫ その他(記入)	0	0%



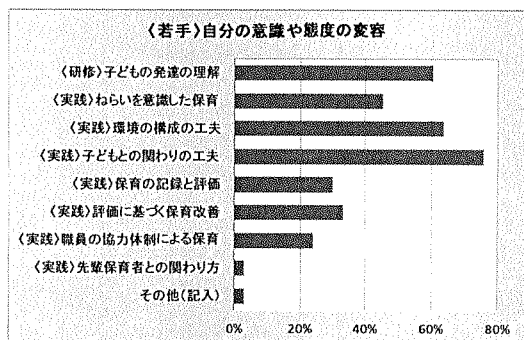
4 〈中堅保育者〉あなたが思う自分の良い変化はどれですか。(複数回答)※一部抜粋

	回答数	(%)
⑦ 〈研修〉子どもの発達の理解	19	33%
⑧ 〈実践〉ねらいを意識した保育	35	71%
⑨ 〈実践〉環境の構成の工夫	36	73%
⑩ 〈実践〉子どもとの関わり工夫	41	84%
⑪ 〈実践〉保育の記録と評価	20	41%
⑫ 〈実践〉評価に基づく保育改善	21	43%
⑬ 〈実践〉職員の協力体制による保育	19	39%
⑭ 〈実践〉若手保育者との関わり方	4	8%
⑮ その他(記入)	0	0%



4 〈若手保育者〉あなたが思う自分の良い変化はどれですか。(複数回答)※一部抜粋

	回答数	(%)
⑦ 〈研修〉子どもの発達の理解	20	61%
⑧ 〈実践〉ねらいを意識した保育	15	45%
⑨ 〈実践〉環境の構成の工夫	21	64%
⑩ 〈実践〉子どもとの関わり工夫	25	76%
⑪ 〈実践〉保育の記録と評価	10	30%
⑫ 〈実践〉評価に基づく保育改善	11	33%
⑬ 〈実践〉職員の協力体制による保育	8	24%
⑭ 〈実践〉先輩保育者との関わり方	1	3%
⑮ その他(記入)	1	3%



⑮その他：気になる子へどうサポートしていけばよいか勉強になった。

管理職や研修リーダーから見た職員の変容として、子どもの発達の理解、ねらいを意識した保育、環境の構成の工夫、子どもとの関わり工夫の項目が概ね高い。中堅保育者や若手保育者自身が感じる保育実践の変容においても、同様の傾向を示しており、アドバイザーの指導・支援の効果があると考えられる。

保育実践でのアドバイザーの指導・支援、園内研修での主体的な取り組みが、職員が保育の専門性を高めるとともに、職員の意識や態度の変容をもたらし、主体的な保育改善につながっている。

C 地域で学び合う体制づくりの必要性

モデル市では、公開保育を基盤とした地域で学び合う体制づくりを進めてきたが、地域の研修会に参加した管理職、研修リーダー、中堅保育者、若手保育者の回答からその必要性を捉えた。

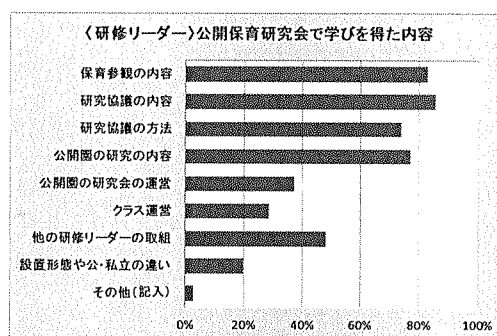
1 〈公開保育研究会〉公開保育研究会での学び

12 〈研修リーダー〉『公開保育研究会』に参加してどうでしたか。

	研修リーダー		中堅保育者		若手保育者	
	回答数	(%)	回答数	(%)	回答数	(%)
① 学びや刺激を得た	35	92%	35	97%	23	100%
② 学びや刺激がなかった	1	3%	1	3%	0	0%
③ 無回答	2	5%	0	0%	0	0%
	38	100%	36	100%	23	100%

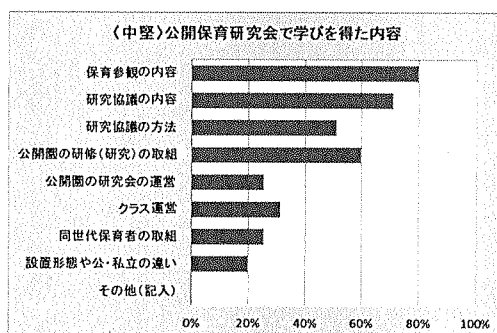
13 〈研修リーダー〉『モデル市内での公開保育研究会』に参加して、研修リーダーとして学びや刺激はどのようなことから得ましたか。(複数回答)

	回答数	(%)
① 保育参観の内容	29	83%
② 研究協議の内容	30	86%
③ 研究協議の方法	26	74%
④ 公開園の研究の内容	27	77%
⑤ 公開園の研究会の運営	13	37%
⑥ クラス運営	10	29%
⑦ 他の研修リーダーの取組	17	49%
⑧ 設置形態や公・私立の違い	7	20%
⑨ その他(記入)	1	3%



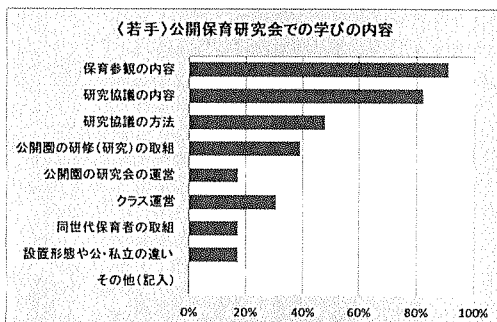
11 〈中堅〉『公開保育研究会』に参加して、学びや刺激はどのようなことから得ましたか。(複数回答)

	回答数	(%)
① 保育参観の内容	28	80%
② 研究協議の内容	25	71%
③ 研究協議の方法	18	51%
④ 公開園の研修(研究)の取組	21	60%
⑤ 公開園の研究会の運営	9	26%
⑥ クラス運営	11	31%
⑦ 同世代保育者の取組	9	26%
⑧ 設置形態や公・私立の違い	7	20%
⑨ その他(記入)	0	0%



11 〈若手〉『公開保育研究会』に参加して、学びや刺激はどのようなことから得ましたか。(複数回答)

	回答数	(%)
① 保育参観の内容	21	91%
② 研究協議の内容	19	83%
③ 研究協議の方法	11	48%
④ 公開園の研修(研究)の取組	9	39%
⑤ 公開園の研究会の運営	4	17%
⑥ クラス運営	7	30%
⑦ 同世代保育者の取組	4	17%
⑧ 設置形態や公・私立の違い	4	17%
⑨ その他(記入)	0	0%



公開保育を基盤とし、保育者の協働性を発揮した地域で学び合う体制づくりについては、研修リーダー、中堅保育者、若手保育者とも肯定的な評価の割合が高い。それぞれのキャリアステージに応じて異なるが、保育内容及び研究協議に関して学びを得ている。「公開園の研修(研究)の取組」は、研修リーダーのみならず、次世代の研修リーダーである中堅保育者の割合が比較的高い。

この事業を通じてモデル3市では、公・私立及び設置形態を問わず、地域で一体的に研修をする体制づくりを進めたが、どのキャリアステージのニーズにも対応できるものであったといえる。

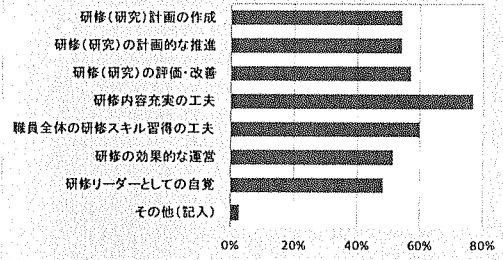
2 〈公開保育研究会〉参加後の変容、開催の賛否

14 〈研修リーダー〉『モデル市内での公開保育研究会』後、あなたが思う研修リーダーとしての自分の良い変化はどれですか。(複数回答)

	回答数	(%)
① 研修(研究)計画の作成	19	54%
② 研修(研究)の計画的な推進	19	54%
③ 研修(研究)の評価・改善	20	57%
④ 研修内容充実の工夫	27	77%
⑤ 職員全体の研修スキル習得の工夫	21	60%
⑥ 研修の効果的な運営	18	51%
⑦ 研修リーダーとしての自覚	17	49%
⑧ その他(記入)	1	3%

⑧その他・幼稚園・保育園(自園以外の設置形態)を参観出来たこと・園内環境の見直し

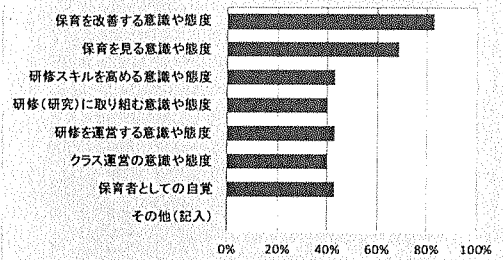
〈研修リーダー〉公開保育研究会参加後の自分の変容



12 〈中堅〉『公開保育研究会』に参加後、あなたが思う自分の良い変化はどれですか。(複数回答)

	回答数	(%)
① 保育を改善する意識や態度	29	83%
② 保育を見る意識や態度	24	69%
③ 研修スキルを高める意識や態度	15	43%
④ 研修(研究)に取り組む意識や態度	14	40%
⑤ 研修を運営する意識や態度	15	43%
⑥ クラス運営の意識や態度	14	40%
⑦ 保育者としての自覚	15	43%
⑧ その他(記入)	0	0%

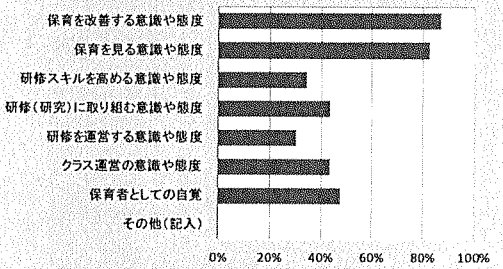
〈中堅〉公開保育研究会参加後の自分の変容



12 〈若手〉『公開保育研究会』に参加後、あなたが思う自分の良い変化はどれですか。(複数回答)

	回答数	(%)
① 保育を改善する意識や態度	20	87%
② 保育を見る意識や態度	19	83%
③ 研修スキルを高める意識や態度	8	35%
④ 研修(研究)に取り組む意識や態度	10	43%
⑤ 研修を運営する意識や態度	7	30%
⑥ クラス運営の意識や態度	10	43%
⑦ 保育者としての自覚	11	48%
⑧ その他(記入)	0	0%

〈若手〉公開保育研究会への参加後の自分の変容



40 教育・保育の質の向上を図る方法として、A『公開保育研究会』の実施による地域で学び合う体制づくりをどのように考えますか。

	管理職		研修リーダー		中堅保育者		若手保育者	
	回答数	(%)	回答数	(%)	回答数	(%)	回答数	(%)
① 賛成である	64	98%	54	96%	56	98%	41	100%
② 反対である	1	2%	2	4%	1	2%	0	0%
	65	100%	56	100%	57	100%	41	100%

3 〈市の課題に応じた事業・研修会〉 研修会の効果、開催の賛否

19 『市の課題に応じた研修会(幼小接続の研修会、保育の質向上のための講演会等)』に参加してどうでしたか。

	研修リーダー		研修リーダー		中堅保育者		若手保育者	
	回答数	(%)	回答数	(%)	回答数	(%)	回答数	(%)
① 学びや刺激を得た	55	92%	45	100%	48	100%	32	100%
② 学びや刺激がなかった	3	5%	0	0%	0	0%	0	0%
③ 無回答	2	3%	0	0%	0	0%	0	0%
	60	100%	45	100%	48	100%	32	100%

45 『市の課題に応じた研修会・事業(幼小接続の研修会、保育の質向上のための講演会等)』の開催をどのように考えますか。

	管理職		研修リーダー		中堅保育者		若手保育者	
	回答数	(%)	回答数	(%)	回答数	(%)	回答数	(%)
① 賛成である	64	98%	46	79%	56	100%	42	98%
② 反対である	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%
③ 無回答	1	2%	11	19%	0	0%	1	2%
	65	100%	58	100%	56	100%	43	100%

自由記述(管理職)

内容面(保育の指導内容、園や保育者との関わり方、課題解決のための情報提供等)

【身近な地域での研修会】

・近場での研修は、県中央部での開催よりも参加しやすいため、今後も分散して開催していただきたい。

【研修会の内容(バランス、ニーズ)】

- ・職員体制の関係などで研修に参加できる人数限られてしまう。キャリアアップの履修にも、研修分野にも偏りができている。履修できる研修の機会を増やすか、履修方法を検討していただきたい。
- ・平均的な保育ではなく、新たな時代に即したどこの施設にも参考となるような(否定も含めどこの施設でも考えさせられるような)内容の講師、保育をご配慮いただきたい。
- ・研修会については、内容(講演、保育参観、研究協議、体験事業等)をバランスよく行ってほしい。
- ・協力員の中でも、ファシリテーターや記録員など役のある人は研修が多く学びはあったと思うが、他の人との研修内容の差があったのではないかと感じる。

【公開保育研究会(有効性、継続的な実施)】

- ・保育参観についてはモデル園の取り組みが年度をまたぎ、継続して参観する事で取り組みの経緯が見え、効果的なものとなった。単年度のみの開催でなく、ある程度の期間で継続的に行っていくことを望みます。
- ・公開保育を行う園を毎年、市が指定して欲しい。そして、最終的に全ての園が公開を行うサイクルを作るのが望ましい。
- ・保育参観は保育士の資質の向上において有効ではないかと感じ、とても興味深いところである。
- ・公開保育参観では協議に参加することで、開催園も参加者も学びになるのではないかと思う。

【幼小接続に関する研修会】

・保育園、幼稚園の教育や生活と小学校教育との連携を工夫し、接続が円滑に行われるための勉強会の実施。

【私立の独自性】

・来年度以降の参加は、慎重に判断したい。私立としての独自性を考えていきたい。

方法面(研修会の運営、活用の手続き等)

【研修の運営(期日設定、回数等)】

- ・職員体制により、月曜日の研修は参加しにくいです。
- ・園の行事と重なり、研修会に参加できない時もあり残念でした。すべての園の都合に合わせるのは不可能ですので、仕方ないことと思います。
- ・どこの園でもどこの地域でも条件は同じだとは思いますが、先生たちは本当に日々の仕事に追われ忙しく過ごしています。オンオフの境のない生活の中で疲れ果て、「退職したい」衝動に駆られ、その悩みを打ち明ける職員もいます。当市は研修会を土曜日に開催しております。市で行う研修会の他に、市保育協議会として年2回、保育士部会として年1回の研修会をいずれも土曜日に開催しております。年数回のこととはいえ、仕事が山積している中で、プレッシャーも多いと推察できます。土曜当番、研修会とローテーションもかなりきつい状態です。保育の質の向上は大切なことだと思いますが、働く保育士は追い詰められ向上心も薄くなり、ただ研修に「行かされている」、復命書を「書かされている」状態も少なからずあることをわかってほしいと思います。中にはもちろん、しっかりと保育にフィードバックしている保育士もいます。一様ではないということをご理解いただき、保育士の働き方についても幼児教育行政として、現場の声を拾っていただければ有り難く思います。

【アドバイザー配置・活用の周知・理解】

- ・この事業には多少参加したが、当初事業内容の説明も無く、アドバイザーはどのように増えたのかも知らなかった。市関係者・公立等での盛り上がりは私立には無く、得るものがなかったように思う。

【アドバイザーの活用】

- ・来年度もアドバイザーの活用が実現できるのであれば、公立のみならず各就学前施設の巡回を行って欲しい。

自由記述(研修リーダー)

【地域での研修機会】

- ・市内で充実した研修会(研究会)を開催していただき、学びの多い内容で大変有意義でした。
- ・同じ地域の職員の頑張りにとっても刺激をうけた。
- ・キャリアアップ研修を身近で受けることができ、有意義でした。

【ニーズに即した研修内容の設定】

- ・ファシリテーター研修に協力委員という形で参加させてもらったが、研修後ファシリテーターの進め方についての講評や具体的な取り組みについて学ぶ機会がなかったので、ファシリテーター研修としての学びやスキル習得を求めたいと感じた。
- ・市の課題に応じた研修会等について、「市の課題」を設定するにあたり、実践現場の声をもっと取り上げてほしい。園、学校間だけでは解決できない課題も多く、自治体等への訴えや意見提出もできる協議会等があると更に効果的になると感じている。(〇〇委員会の内容や出席者等の検討含む)

【参加体制】

- ・夏休み、冬休み期間を利用した研修は私達も小学校の先生も参加しやすいと思いますので、継続した方が良いと思います。
- ・幼小接続の研修会は保育をする上で重要不可欠であり、出来れば職員全員が研修会に参加させてもらいたい。
- ・職員配置などで研修に出られる人数に限られる。キャリアアップの履修時間にも(バランスよくとれるよう声掛けしているが)偏りが出してしまう。
- ・参加しやすい場所や日程だと思います。
- ・冬季など安全面を考慮した会場での研修開催(キャリアアップ含)が望ましい。
- ・研修会は参加するととてもためになる内容ばかりだったが、それ以上に職員は日々の業務で疲れている人が多いため、研修会を開くよりも、休日がある方がリフレッシュでき、心に余裕を持った保育ができると思う。
- ・できれば職員全員が参加できればいいのですが、少人数の所は大変です。
- ・勤務時間内に開いてもらえるとうれしい。

自由記述(中堅保育者)

【身近な地域での研修】

- ・近くで参加しやすく、他園の状況を知ることができて良いと思います。
- ・近場での研修会を増やしてもらえると園としても個人としても参加しやすくて良いと思います。

【公開保育研究会】

- ・公開をした方ですが、大変よい経験をさせていただきました。。
- ・公開保育をした園の先生方がのんびりや職員同士の協力する姿がとても刺激になり、自分も頑張ろうと思った。もっと開催した園の話聞く時間が欲しかった。
- ・公開保育では、他園の取り組みを目で見るととても刺激を受け、参加できて良かったと思う。

【幼小接続に関する研修会】

- ・小学校への接続や他園との情報交換など就学に向けての学びにつながった。
- ・市の中でも、幼小連携の取り組み(交流など)ができる・できていない地域の差を大変感じました。連携事業の取り組みを共有できればと感じます。
- ・保小接続の研修に参加する中で、小学校との相互理解以前に、幼児教育施設同士でも接続に対する取り組みや認識の差が大きいことが課題であると感じた。接続等への取り組みについても幼児教育施設としての標準化を図る為の動きがほしい。

【他園の保育者との関係性の構築】

- ・研修を通して他園の保育士や保育教諭等との情報交換が出来て良かったと思っています。
- ・同じ市内で保育している仲間同士で、情報交換や学び合うことができ良い。

【参加体制】

- ・少人数の職員の施設ではなかなか研修に参加することが難しい。
- ・参加しやすい場所と時間帯でよかった。

【開催時期】

- ・各分野の研修を各市で行っていただきたい。冬は交通に危険があるので、なるべく秋までに行っていただきたい。
- ・研修会は自分達の勉強になるので参加したいと思いますが、土日の開催は控えて頂けると嬉しいです。

【研修内容】

- ・研修がとても豊富で参加すると知識を深めることができるが、あまりにも研修が多くなりすぎてクラスの保育が疎かになってしまっているように思う。また、研修ばかりでそれを保育に活かしているかとなると活かしきれていないように思う。
- ・奥山先生の話は、保育者の思いも知っているのので、共感しうなずきながら興味深く聞くことが出来た。

【研修レポート】

- ・キャリアアップレポートは現在3項目に分かれているが、記入しているうちに内容が重複してしまうので項目別にしたほうが書きやすいです。

自由記述(若手保育者)

【身近な地域での専門性の向上】

- ・勤務地のある市内で、専門の講師を招いた保育の質の向上を図ることができる研修へ参加できることがありがたい。
- ・いろいろな研修会を身近な場所で行ってほしいです。もっと増えれば、近くなので参加しやすいからです。
- ・市内であれば参加しやすく、他園の先生方と意見交換できる貴重な時間なので良いと思う。

【園を越えた学び合い】

- ・参加者のグループ協議の時間をもっと長くしてほしい。話し合いが途中になり深まらなかった。
- ・講演会の後に意見交換会などもありその時に悩みが解決していくので学びが多かった。
- ・他園の方と意見を交わしたりすることで、様々なことを理解することができた。
- ・様々な研修を通して、改めて気づかされることや学びも多く、参加して良かったと思った。
- ・とてもためになっています。これからも研修会でいただいたご指導や学びを活かして保育をしていきたいです。
- ・保育者として知識が足りない部分を講習で補うことができ、自らの保育の在り方や子どもとの関わり方等を見直すきっかけとなり有難かったです。

【キャリアステージに応じた研修】

・若手の保育士だけの研修があり、意見や相談がしやすくよかった。

【研修開催の日程・場所】

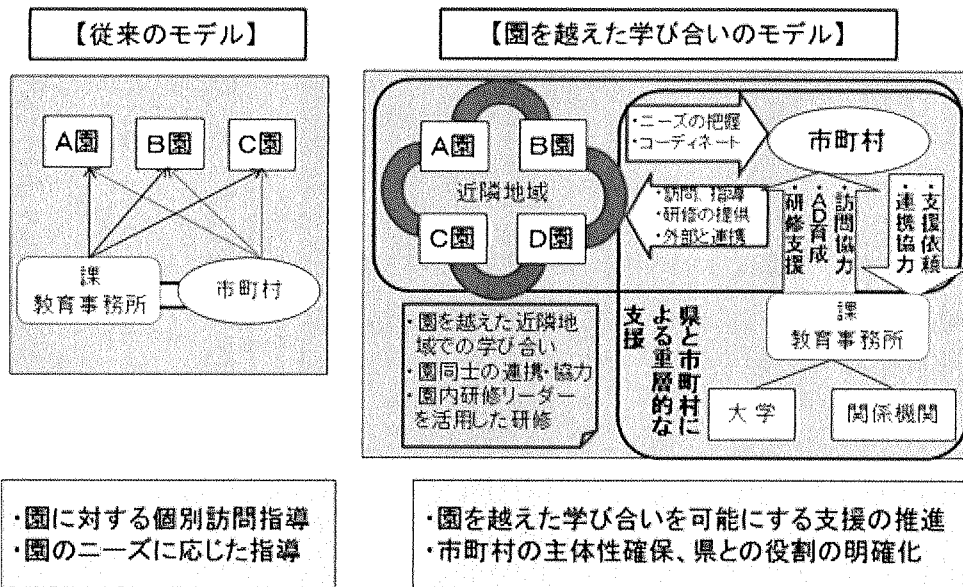
・冬季の研修会は移動が困難なことが多いので、夏季の開催を多くしていただきたいです。

・持ち物に保育の記録などの記述があるが、何の案なのか反省を示したものか否か書いてほしいです。内容、日程はちょうどよいと思います。

公開保育研究会では、研修リーダーは、研修内容の充実に対する意識や態度の変容について、中堅保育者、若手保育者は、保育改善に対する意識や態度について変容があったと回答する割合が高い。公開保育研究会への参加は、研究会で学びを園の実際の場面で具体化しようとする意識や態度を促し、研修や保育実践の面で効果的が高いと思われる。

公開保育研究会を基盤とした地域で学び合う体制づくりに賛成する割合も高く、今後も、県と市町村の連携・協力体制を拡充し、県内の各地域において各園が協力しながら園を越えて学び合う研修スタイルを充実させていくことができると考えている。

市の課題に応じた研修会・事業の開催は、肯定的な回答の割合が高く、市の課題や保育者のニーズを踏まえた上での実施の継続が望まれる。しかし、アンケートの自由記述には、複雑化している勤務体制に配慮してほしいという声もあるので、日程面では検討が必要である。また、正規職員のみならず、非常勤職員、臨時職員等も状況に応じて専門性の向上を図ることが可能な体制づくりが望まれる。



県と市町村の連携・協力による推進体制モデル

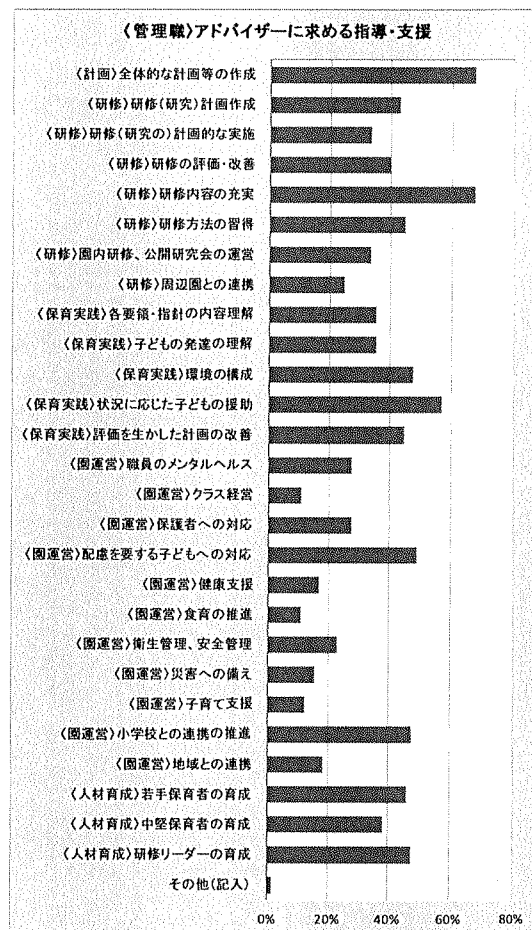
D 教育・保育アドバイザーに求める資質・能力

管理職、研修リーダー、中堅保育者、若手保育者の回答から、それぞれのキャリアステージにおいて教育・保育アドバイザーに求める資質・能力を捉えた。

1 〈資質・能力〉「管理職」が求める資質・能力

36 アドバイザーが今後も配置になる場合、指導や支援をしてほしい内容はどれですか。(複数回答)

	回答数	(%)
① 〈計画〉全体的な計画等の作成	44	68%
② 〈研修〉研修(研究)計画作成	28	43%
③ 〈研修〉研修(研究)計画的な実施	22	34%
④ 〈研修〉研修の評価・改善	26	40%
⑤ 〈研修〉研修内容の充実	44	68%
⑥ 〈研修〉研修方法の習得	29	45%
⑦ 〈研修〉園内研修、公開研究会の運営	22	34%
⑧ 〈研修〉周辺園との連携	16	25%
⑨ 〈保育実践〉各要領・指針の内容理解	23	35%
⑩ 〈保育実践〉子どもの発達理解	23	35%
⑪ 〈保育実践〉環境の構成	31	48%
⑫ 〈保育実践〉状況に応じた子どもの援助	37	57%
⑬ 〈保育実践〉評価を生かした計画の改善	29	45%
⑭ 〈園運営〉職員のメンタルヘルス	18	28%
⑮ 〈園運営〉クラス経営	7	11%
⑯ 〈園運営〉保護者への対応	18	28%
⑰ 〈園運営〉配慮を要する子どもへの対応	32	49%
⑱ 〈園運営〉健康支援	11	17%
⑲ 〈園運営〉食育の推進	7	11%
⑳ 〈園運営〉衛生管理、安全管理	15	23%
㉑ 〈園運営〉災害への備え	10	15%
㉒ 〈園運営〉子育て支援	8	12%
㉓ 〈園運営〉小学校との連携の推進	31	48%
㉔ 〈園運営〉地域との連携	12	18%
㉕ 〈人材育成〉若手保育者の育成	30	46%
㉖ 〈人材育成〉中堅保育者の育成	25	38%
㉗ 〈人材育成〉研修リーダーの育成	31	48%
㉘ その他(記入)	1	2%



自由記述(管理職)

【外部指導者の関わり(保育改善)】

- ・保育に関しては、いつも園内だけでは得られない視点からの、指導やアドバイスをいただき有難く感じている。
- ・実際に保育を見ていただいて、直接アドバイスや情報をいただきたいです。園への訪問回数を増やしていただけたらありがたいです。

【外部指導者の関わり(研究・研修、面談)】

- ・園内研修では、研修の進め方など適切なアドバイスをもらい研修が深まり、次年度に繋がるものになった。
- ・保育士一人一人と面談してもらうことで、園長には言えない保育の悩みや職員間での悩みなどを聞き取りしてもらう事で、園長自身保育士の考えや思いを知ることが出来保育士対応に役立った。
- ・訪問要請や、計画書等を提出をする指導訪問だけではない、園への立ち寄り、保育者等との語り合いの機会があれば有難いと思う。(多忙とは思いますが)

- ・普段の園内研修時に指導をお願いしようと思ったが、日常的な内容なため遠慮してしまった。公開保育や外部評価などでの指導でも、緊張している保育士等もいるので、身近な存在になるよう、来年度、積極的に利用していきたい。
- ・園とアドバイザーとの日程調整が難しい。園の希望日に行えない。

【今後の課題(アドバイザーの人選・人材育成、指導力、指導内容、活用の手続き、幼小連携等)】

- ・同市での保育経験者では遠慮があるかと思われる。的確なアドバイスが欲しい所がなかなか伝えられない場合が多々見られた。
- ・市保育アドバイザーについて、研究協議等を行う中で園側が求めている内容について理解不足や状況把握に不十分さが見られるなどし、視点のずれた論議となってしまう傾向があった。内容を熟知した上での指導を心がけてほしい。
- ・保育者の頑張りや工夫を認め伝えてくれることは嬉しいが、課題も伝えてもらうことで、保育の質の向上になると思う。しかし、課題を伝えてもらい、真摯に受け止めすぎたり、逆に心に響かなかつたりと一人一人感じ方は違うことを考えてみれば難しいと思う。
- ・今さらと思うような基本的なことがわからない・・・という保育者の思いに寄り添って何がわからないかを理解してくれる姿勢が欲しいです。
- ・幼小連携に関しては特に市アドバイザー等が園、学校、行政をつなぐ役割を担ってほしいと感じている。実際の現場から出た課題や意見を行政へ伝え、実践に活かせる体制作りを強化することを願います。
- ・法人、施設によりその理念に相違がありその多様性に対応しスーパーバイズできる方にご指導願いたい。で複数人で担当される体制をとっていただきたい。
- ・アドバイザーとして活躍出来る方を養成いただきたい。
- ・アドバイザーがいるのはわかっているが、私学とのつながりがないため必要性を感じない。アドバイスをしてもらうという前提がない。
- ・訪問要請や、計画書等を提出をする指導訪問だけではない、園への立ち寄り、保育者等との語り合いの機会があれば有難いと思う。(多忙とは思いますが)
- ・普段の園内研修時に指導をお願いしようと思ったが、日常的な内容なため遠慮してしまった。公開保育や外部評価などでの指導でも、緊張している保育士等もいるので、身近な存在になるよう、来年度、積極的に利用していきたい。
- ・園とアドバイザーとの日程調整が難しい。園の希望日に行えない。

管理職においては、園運営に係る「全体的な計画の作成」、研修分野「研修内容の充実」、保育実践「環境の構成」「状況に応じた子どもの援助」の割合が高い。また、配慮を要する子どもへの対応、「小学校との連携の推進」、「若手、研修リーダーの人材育成」においても比較的高い割合を示している。教育・保育の質の向上のための計画、研修、実践におけるニーズや、園が課題としている内容に関するニーズがうかがえる。

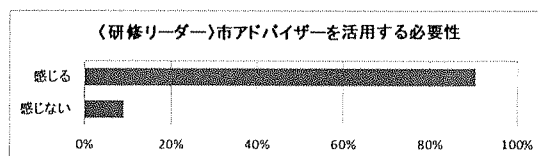
市に配置されるアドバイザーの経歴は様々であり専門分野は異なる。しかし、園がアドバイザーに求める指導・支援分野は多岐にわたることから、アドバイザーの活用にあたり、例えば、教育・保育の計画、研修、実践、人材育成に関する「指導・支援」をするが、配慮を要する子どもへの対応については、県及び他関係機関との連携体制をもとに「つなぐ」役割を果たすなど、アドバイザーの職務内容を明確に示し、共通理解を図る必要がある。

また、自由記述に見られるように、研修や保育実践等において、園で求めるアドバイザーの関わり方のニーズが異なることから、そのスタンスについても確認することが、アドバイザーの主体的な活用促進につながると思われる。年度初めにおいて、管理職等からの聞き取りなどによりそのニーズを把握して共通理解を図りつつ、中間評価等により、活用状況の現状について分析をし、必要に応じて改善していくことが必要である。

2 〈資質・能力〉「研修リーダー」が求める資質・能力

8 研修リーダーとして研修を推進する上で、市アドバイザーを活用する必要性は感じますか。

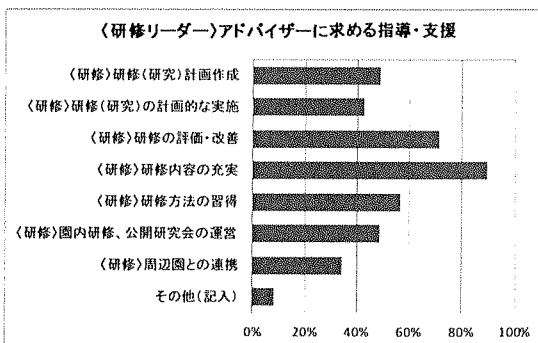
	回答数	(%)
① 感じる	49	91%
② 感じない	5	9%
②と回答した理由：・まだ園内での研修リーダーとしての役割を果たせていないので、アドバイザーの先生に相談することが思い浮かばないため。・自園や県の研修で十分研修リーダーの学びがあるから。	54	100%



※該当無し・無回答(11/65施設)

9 市アドバイザーが今後も配置になる場合、研修リーダーとして指導や支援してほしい内容はどれですか。(複数回答)

	回答数	(%)
① 〈研修〉研修(研究)計画作成	24	49%
② 〈研修〉研修(研究)の計画的な実施	21	43%
③ 〈研修〉研修の評価・改善	35	71%
④ 〈研修〉研修内容の充実	44	90%
⑤ 〈研修〉研修方法の習得	28	57%
⑥ 〈研修〉園内研修、公開研究会の運営	24	49%
⑦ 〈研修〉周辺園との連携	17	35%
⑧ その他(記入)	4	8%



⑧その他: 園全体で疑問点が発生した場合に、アドバイスしてほしい。

自由記述(研修リーダー)

【園内研修の指導(方向性、方法習得、評価改善、園外研修内容の具体化、研究発表等の指導、リーダーの不安解消)】

- ・研修の方法(ファシリテーター、記録、協議)について丁寧に指導してもらい勉強になった。不安な部分を相談するとアドバイスの他、励ましもあり安心できた。
- ・園内研究の内容や進め方等についての的確にアドバイスをいただき、職員同士、理解を深めながら研究をすすめることができた。
- ・研修計画や進め方、ファシリテーターの役割、習得に際して方向性をアドバイスして下さり、有り難かった。
- ・園内だけでは解決できな部分について、一緒に協議することで解決への糸口がつかめたり、理解が深まったりした。
- ・研修の具体的な取り組みや目指す方向性を示してもらい、スムーズに研修を進められるようになった。
- ・ポートフォリオの活用の仕方の助言や全体の評価をしていただき、気づきや改善につながった。
- ・外部から見た研修の改善点を知ることができて良かった。
- ・公開保育や研修で評価してもらうことで自己を振り返ることができた。
- ・研究発表のアドバイスをもらいとても参考になった。
- ・県の研修を受け、理解までいかなかったところを教えてもらったり、普段の保育での悩みや園内研修の進め方などを相談できたりしたことがとてもよかった。不安な気持ちを支えてもらい、アドバイスをいただき、大変心強かった。

【職員の保育改善】

- ・自分達の保育を見直す機会を与えて下さっていると思います。指摘されたことを改善に向けています。
- ・保育を参観し、保育に対してアドバイスをいただいたことで保育を振り返ることが出来た。

【アドバイザー活用方法の周知・理解】

- ・相談したい内容はよく思いつくものの、忙しい時期(夏場～秋)がなんとなくわかっているのに頼みたい時に頼みにくいこともある。
- ・アドバイザーと手さぐりな部分があったため、逆にこちらがとまどってしまうことがあった。

研修リーダーの91%がアドバイザーを活用する必要性をもっている。また、自由記述に見られるように、外部指導者の目に効果を感じている。

求める指導・支援内容は、「研修内容の充実」「研修の評価・改善」「研修方法の習得」の割合が高い。研修内容の充実においては、研修内容への指導・助言をする指導者としての役割や、研修内容に関する情報提供を求める役割など、その活用内容は様々であると考えられるが、課題解決に向け、外部からの情報を必要としている。

研修リーダーは、研修の推進役として大きな責務を感じながら職務にあたる。新任の研修リーダーには不安が大きい方も多いため、何をどのように進めればよいか理解できていない場合もある。アドバイザーは、研修リーダーとの関係性の構築に努めるとともに、年度当初に管理職及び研修リーダーと研修の方向性を決定し、研修内容を評価する観点を示しつつ、研修リーダーとともにPDCAサイクルの機能させていくことが研修の充実を左右する。

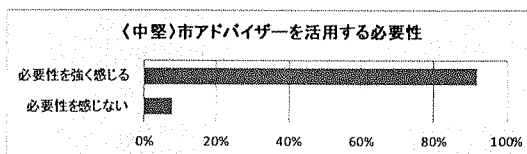
研修の方法面においても不安を抱えている園が少なくない。アドバイザーは、様々な研修で習得したことや、各園の訪問で収集した効果的な方法を情報提供したり、実際に実演して指導したりするなどして、保育者が効果的な方法を用いて主体的に研修を進めることができるように支援していく必要がある。

3 〈資質・能力〉「中堅保育者」が求める資質・能力

6 保育の質の向上を目指す上で、市アドバイザーを活用する必要性を感じますか。

	回答数	(%)
① 必要性を強く感じる	47	92%
② 必要性を感じない	4	8%
②の回答理由：・必要性を感じるが、月に1回の訪問は負担に感じる保育者もいるため、頻度を減らしてほしい。・県の研修や園内研修を通して十分に学ぶことができるから。・どちらともいえない。	51	100%

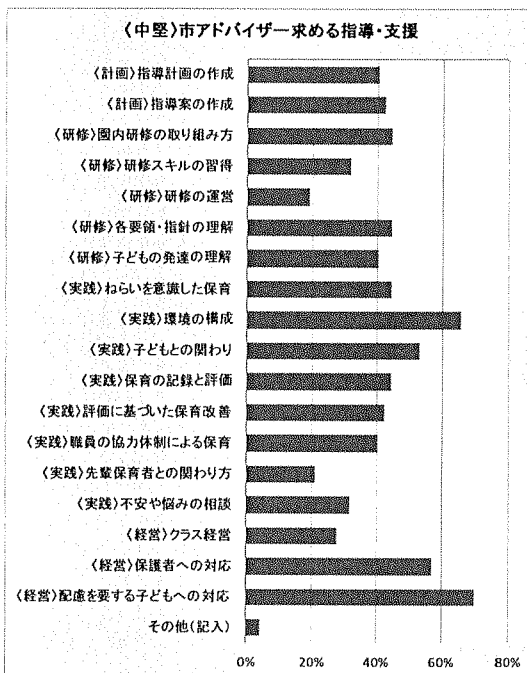
※該当無し(14/65施設)



7 市アドバイザーが今後も配置になる場合、保育に関して指導や支援してほしい内容はどれですか。

	回答数	(%)
① 〈計画〉指導計画の作成	19	40%
② 〈計画〉指導案の作成	20	43%
③ 〈研修〉園内研修の取り組み方	21	45%
④ 〈研修〉研修スキルの習得	15	32%
⑤ 〈研修〉研修の運営	9	19%
⑥ 〈研修〉各要領・指針の理解	21	45%
⑦ 〈研修〉子どもの発達理解	19	40%
⑧ 〈実践〉ねらいを意識した保育	21	45%
⑨ 〈実践〉環境の構成	31	66%
⑩ 〈実践〉子どもとの関わり	25	53%
⑪ 〈実践〉保育の記録と評価	21	45%
⑫ 〈実践〉評価に基づいた保育改善	20	43%
⑬ 〈実践〉職員の協力体制による保育	19	40%
⑭ 〈実践〉先輩保育者との関わり方	10	21%
⑮ 〈実践〉不安や悩みの相談	15	32%
⑯ 〈経営〉クラス経営	13	28%
⑰ 〈経営〉保護者への対応	27	57%
⑱ 〈経営〉配慮を要する子どもへの対応	33	70%
⑲ その他(記入)	2	4%

⑲その他：・疑問点が発生したときに教えてほしい。



自由記述(中堅保育者)

【外部指導者の関わり(保育者の意欲向上や主体的な保育改善)】

- ・職員の悩みや疑問に寄り添った指導をしてくれるので、有難いです。時には「これはどうかな?」ときちんと指摘もして頂き、それをまた考える事で園や職員の力につながっていると思う。・保育に対しての工夫や頑張りを認め伝えてくれるので、意欲につながった。
- ・保育参観後、助言をもらい自信をもてたり、次につなげたりすることが出来た。
- ・面談で、悩んでいることなど聞いてもらい気持ちに変化があった。
- ・保育を見てもらうことで、自分では気づかないところを教えていただき、保育に生かすことが出来た。
- ・指導を受けることで自分の保育を見直す機会につながった。
- ・保育を見に来て頂いた時に、気付かなかった遊びの場面や発達など教えて頂き今後の子どもの見方や関わり方を考えることができた。
- ・自分では気が付かない子どもの姿を見取って下さったり、適切な関わり方や支援の方法を指導していただいたりし、とても勉強になります。
- ・アドバイスをもらうことで新しい発見や別の思いに気が付くことが出来た。
- ・様々な視点から保育を見ていただけたことで、子どもの見方や関わり方が広がった。

【指導内容(要領・指針の理解、計画作成)】

- ・指導計画の作成等についても学び直すことが良かった。
- ・指針が新しくなり、各計画(全体の計画や月間指導計画等)にどう生かしていくべきかわからない点もあったので、アドバイスを頂き新しい計画の作成に役立てることができて良かった。
- ・子どもの理解や小学校を見据えた保育が勉強になった。

【園内研修の方法】

- ・付箋を使用した意見交換が印象的でした。普段感じている園内の環境について語り合う場を設けてくれて、とても参考になりました。
- ・ファシリテーターや記録の仕方を教えて頂き勉強になった。(記録のまとめ方など)

【今後の課題】

- ・柔らかい物腰での指導は有り難いですが、話し合いが常に中途半端になってしまい、「後は園で考えてみてね」と、投げかけられることが多いように思う。
- ・保育に対する不安や悩みを相談できる時間があればよかったですと思いました。

中堅保育者の92%がアドバイザーを活用する必要があると回答している。求める指導・支援内容は、「保育実践全般」「クラス経営」「保護者への対応」「配慮を要する子どもへの対応」に関する事項の割合が高い。

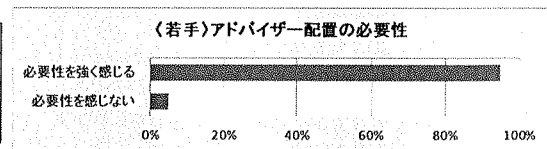
中堅保育者は、重ねた経験をもとに保育実践の充実を図る時期である。アドバイザーは、保育者がこれまで培った経験や、その中で育まれてきた資質・能力を分析しつつ、一人一人の良さを生かしながら主体的な保育改善を促すような関わり方に配慮することが重要であり、若手保育者のモデルとなるような取組に結び付けることができるような働きかけが必要である。

中堅保育者は、ミドルリーダーとしての役割も期待されることから、多岐にわたり園運営に関わるが多くなる。ミドルリーダーとして育むべき資質・能力の育成につなげるためにも、その職務内容を踏まえた上での支援が求められる。

4 〈資質・能力〉「若手保育者」が求める資質・能力

6 保育の質の向上を目指す上で、市アドバイザーを活用する必要性は感じますか。

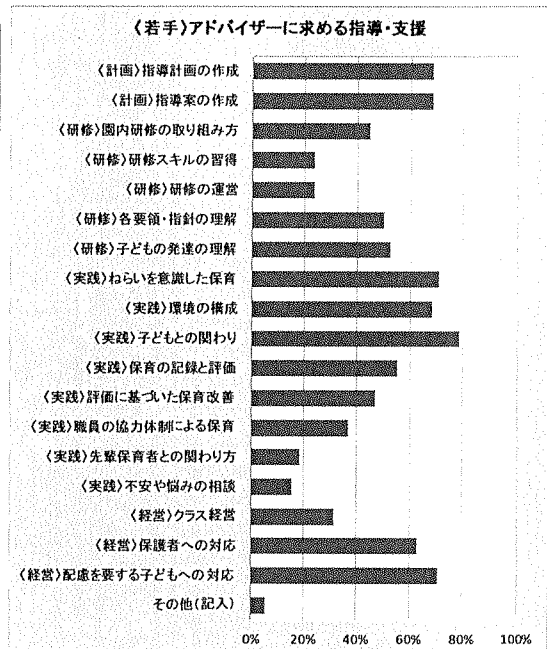
	回答数	(%)
① 必要性を強く感じる	38	95%
② 必要性を感じない	2	5%
②の回答理由：先輩保育者の保育する姿や、園内研修を通して沢山の事を学ぶことができるから。	40	100%



※該当無し(25/65施設)

7 市アドバイザーが今後も配置になる場合、保育に関して指導や支援してほしい内容はどれですか。(複数回答)

	回答数	(%)
① 〈計画〉指導計画の作成	26	68%
② 〈計画〉指導案の作成	26	68%
③ 〈研修〉園内研修の取り組み方	17	45%
④ 〈研修〉研修スキルの習得	9	24%
⑤ 〈研修〉研修の運営	9	24%
⑥ 〈研修〉各要領・指針の理解	19	50%
⑦ 〈研修〉子どもの発達を理解	20	53%
⑧ 〈実践〉ねらいを意識した保育	27	71%
⑨ 〈実践〉環境の構成	26	68%
⑩ 〈実践〉子どもとの関わり	30	79%
⑪ 〈実践〉保育の記録と評価	21	55%
⑫ 〈実践〉評価に基づいた保育改善	18	47%
⑬ 〈実践〉職員の協力体制による保育	14	37%
⑭ 〈実践〉先輩保育者との関わり方	7	18%
⑮ 〈実践〉不安や悩みの相談	6	16%
⑯ 〈経営〉クラス経営	12	32%
⑰ 〈経営〉保護者への対応	24	63%
⑱ 〈経営〉配慮を要する子どもへの対応	27	71%
⑲ その他(記入)	2	5%



⑲その他：園内研修を通して様々な事を学ぶこと。

自由記述(中堅保育者)

【外部指導者の関わり(計画・指導案、実践発表資料作成)】

- ・研究発表の資料作成の際にアドバイスをいただいた。園内では気づけなかったところもアドバイスしていただき、資料を読む・分かりやすく作るための視点が参考になった。
- ・指導計画や指導案の見直しや改善などの指導をして頂いたことで以前よりも内容などをより理解することができた。
- ・指導案の書き方や、それに基づいた保育について勉強になり、自分の保育を見直すきっかけになった。

【外部指導者の関わり(保育に対する自信、保育改善の意欲の喚起)】

- ・自分たちの保育に対してアドバイス(良い点も含めて)いただき、改善の方法が明確になりよかった。
- ・保育の良かった部分(子どもへの関わり、環境の構成等)を話していただき、保育に自信をもつことができた。
- ・自分達の当たり前をひっくり返されたような視点と柔軟な考え方に、固定概念を取ってもらったような感覚。なるほどと納得した。
- ・保育者の悩みや相談を聞いてもらい的確なアドバイスを頂けたことで、クラス運営をするにあたって参考になりました。
- ・私はまだ1年目なので、どのようなアドバイスも学びに繋がると感じる。良かったところや、より良くするための改善点など、教えてもらえることでより良い保育に繋がると思う。
- ・様々な子どもと日々過ごしていく中で、その子の発達にあった保育をしていくことの大切さを知ることができました。

【外部指導者の関わり(研修、面談)】

- ・園内研修の取り組み方、子どもとの関わり方を具体的に指導してもらえたので、改善の仕方に具体性が見えてわかりやすかった。
- ・アドバイザーの方が来園して下さる際や各研修でお会いする際に、丁寧に声を掛けていただくことが励みになりありがたかった。
- ・知っておく知識などを改めて知ることが出来たのでとても刺激を受けた。
- ・面談する機会があり、悩みや疑問を聞いてもらうことができた。話をする時間があって良かった。

【アドバイザーの役割】

- ・アドバイザーの存在が薄いように思う。保育や園内研修で困ったことがあった時に頼ることができるポストであってほしい。

【今後の課題】

- ・改善点を例に挙げる等して説明していただけるとありがたいです。若手職員は緊張していると思うので、明確なアドバイスが分かりやすいと思います。
- ・わかりやすく、適切に説明、指導して下さった方もいたが、そうでない方もいた。
- ・保育所全体の改善、自分自身の保育の見直しに大変役立っております。しかし、言い方が自分にとってきつい部分や、すべて否定されている気分になることが多々あります。もう少し保育士が、自分たちのモチベーションが上がるような声かけや、自信になるような言葉をいただけると嬉しいです。

若手保育者の95%がアドバイザーを活用する必要があると回答している。求める指導・支援内容は、「計画全般」「保育実践全」「クラス経営」「保護者への対応」「配慮を要する子どもへの対応」に関する事項の割合が高い。

若手保育者は、経験が浅いことから、保育実践の基礎・基本的な内容について、より具体的な指導・支援をする必要がある。アドバイザーは、日頃の保育実践状況を観察し、課題解決に向けて保育者が主体的に保育改善に取り組むことができる指導・支援をすることともに、保育者とともに保育改善に取り組む意識をもち、子どもや保育者の変容を捉えて適宜伝える等、保育者の意欲をより高めていく関わりが求められる。

また、仕事になれない新人保育者にとっては、子どもとの関わりのみならず、保護者や先輩保育者との関わり、園務分掌等の精神的な負担が大きい場合があり、離職するケースつながることも多分にあることから、新人保育者がいつでも素直にアドバイザーに話せるような関係性を築き、精神的なケアをすることが望まれる。

モデル市の具体的な取組（大館市）

1 教育・保育の現状と課題

- (1) 社会や保育の変革に対応するためには、教職員の資質向上、園内リーダーの養成と園内研修の充実、保育課程の見直し、市としての研修・指導体制の構築が必要である。
- (2) 多様な保育施設、多様な働き方の職員が協働する中、市が目指す就学までに育てたい力、保育・教育の在り方を共通理解することが難しい。
- (3) 小学校との情報共有、合同研修はあるものの、小学校入学後の生活や学習への適応及び指導に困難を抱える事例が見られる。

2 目的、重点、実施内容

【目的】（3年間）

将来の自立を見据え、就学前の段階で育てるべき力を明確にし、教育・保育の一層の充実を図る。ふるさとキャリア教育の理念の下に、就学前から小学校低学年までを「人間的基礎力」を育成する時期として関わる教職員が、子ども理解の在り方、教育・保育課程や指導方法等について共通理解を図り、連携を推進する。

【重点】（平成30年度）

- (1) 3カ年の事業の成果として、「平成30年度わか杉っ子！育ちと学び支援事業フォーラム in 大館」で全国発信し、就学前教育の質の向上に向けた研究を検証する。
- (2) 幼保小連携における大館市版幼保小連携プログラムを作成する。

【実施内容】（平成30年度）

- (1) 教育・保育アドバイザーを核にした幼児教育センター機能の確立
 - ・全施設に対する指導・助言体制構築
 - ・研修会の見直し、課題を踏まえた新たな研修体制の構築
 - ・園内研修リーダー、ミドルリーダーの養成
 - ・各種マニュアル、様式の統一データの作成と提供
 - ・市内施設の公開保育の開催と参加案内
 - ・必要に応じた教育・保育アドバイザーの要請・活用
- (2) 教育・保育の更なる質の向上に向けた研究推進体制
 - ・基幹保育園主任による研究推進委員会の開催（月1回）と私立園の参画
 - ・幼保小連携における大館市版幼保小連携プログラムの作成（3月発行）
 - ・ファシリテーター研修会（6～9月 年6回）による研究推進リーダーの養成
- (3) 接続期の保育・教育の充実
 - ・「幼保小連携プログラム」リーフレットの周知と活用（5月22日・幼保小連携推進会議）
 - ・小学校低学年の授業改善に向けた研究会の開催（5月30日・幼保小担任研修会）
 - ・相互理解のための保育・授業参観、研究会への参加案内
- (4) 園のニーズに応じた研修会の実施
 - ・市内施設の公開保育の開催と参加案内
 - ・必要に応じた教育・保育アドバイザーの要請・活用
 - ・オーダーメイド研修、市主催の研修会の開催

(5) 本調査研究の成果の発信

- ・「育ちと学び支援事業」フォーラム in 大館の開催（10月11～12日）
 - 1日目午後 公開保育・研修会（有浦保育園＋有浦小、扇田保育園、たしろ保育園）
 - 2日目午前 講演・パネルディスカッション（大館市民文化会館）

3 平成30年度の実施状況

(1) 教育・保育アドバイザーを核にした幼児教育センター機能の確立

教育・保育アドバイザーを2名の配置により、全施設の巡回訪問を通じて各施設の課題解決に向けた情報提供や指導・助言をした。

①全施設に対する指導・助言体制構築

- ・単独訪問 33回 ・県との同行訪問 55回

②研修会の見直し、課題を踏まえた新たな研修体制の構築

- ・園内研修の内容、進め方への指導・助言

③園内研修リーダー、ミドルリーダーの養成

- ・園内研究計画作成への助言、指導案作成の事前指導
- ・ファシリテーター研修会における指導

④各種マニュアル、様式の統一データの作成と提供

- ・保育要録の市様式の改訂、「記入の手引き」作成

⑤必要に応じた教育・保育アドバイザーの要請・活用

- ・年度初めの計画から、随時、要請に応じて訪問

(2) 保育・保育の更なる質の向上に向けた研究推進体制

基幹保育園主任を中心とした「研究推進委員会」に、基幹保育園以外の園の研修リーダーの参加を促し、本市の課題や目指すべき保育の在り方を共通理解、共通実践し、市全体の保育の質の向上を図った。

①基幹保育園主任による研究推進委員会の開催（月1回）と私立園の参画

委員として基幹保育園主任に加え、参加要請に応じた基幹保育園以外の園の研修リーダーも参加し、研修リーダーとしての資質向上に向けた協議や学習会を開催した。

②幼保小連携における大館市版幼保小連携プログラムの作成（3月発行）

研究推進委員会と市教育委員会との合同研究により、幼保小連携についての市としての課題と方針を明示した。

③ファシリテーター研修会（6～9月 年6回）による研究推進リーダーの養成

ファシリテーター研修会は、基幹保育園3園の公開保育をもとに、研究協議の方法について実践的に学ぶ機会とした。保育参観後、6～7人のグループに分かれワークショップ型の研究協議を行い、協議をファシリテートする進行役（ファシリテーター）と、協議内容を模造紙に視覚化・構造化してまとめ、全体での共有する際に発表する記録役について学習した。協議終了後には、県指導主事より協議の進め方について指導・助言を受けた。全6回で210名が参加。

近隣市の私立園のミドルリーダーの参加も促し、2市16園のべ37名が参加した。

ファシリテーター研修会の開催状況

回	開催日	会場	参加人数
1	6月19日	有浦保育園	27(北1・鹿2)
2	6月21日	扇田保育園	37(北5・鹿4)
3	6月27日	有浦保育園	26(北1・鹿1)
4	8月27日	たしろ保育園	42(北3・鹿4)
5	8月29日	たしろ保育園	37(北3・鹿4)
6	9月3日	扇田保育園	41(北5・鹿4)



()は北秋田市・鹿角市からの参加者

近隣市の研修リーダーも交えた協議

(3) 接続期の保育・教育の充実

市としての教育・保育の基本方針を明確にし、就学前と小学校低学年が「おおだて型学力」の「人間的基礎力」育成の時期であることを認識し、共に実践する機運を高めた。

①「幼保小連携プログラム」リーフレットの周知と活用

研修名：幼保小連携推進議

期日：平成30年5月22日 会場：大館市立中央公民館

参加者：小学校教頭17名、園主任26名参加 行政関係者7名

内容：挨拶 北教育事務所 指導主事 浅野 直子

講話 大館市教育委員会 教育監 山本多鶴子

小学校区ごとの協議

②小学校低学年の授業改善に向けた研究会の開催

研修名：幼保小担任研修会

期日：平成30年5月30日

会場：大館市立中央公民館

参加者：小学校1年担任22名、年長組担任27名、

行政関係者7名

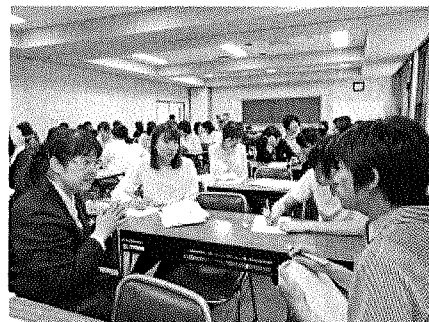
内容：方針説明 大館市教育委員会

教育監 山本多鶴子

実践発表 「1年生の授業づくり ～話す力・聞く力を高めるために」

釈迦内小学校 1年担任 鳥谷 幸代教諭

講話「就学前教育について」 北教育事務所 指導主事 浅野 直子



幼保小担任研修会

③相互理解のための保育・授業参観、研究会への参加案内

・学区内の園と学校は互いの研究授業や行事、学校評価には参加

・全小学校の研究授業一覧を全園へ送付し、参加希望者は随時、教育研究所へ申込み参加

(4) 園のニーズに応じた研修会の実施

基幹保育園が中心となり、全保育施設に向けて研究の成果や自園の保育を公開し、市が目指す保育を具体的に共有することで、保育の質向上の意識や意欲を高めた。また、現場のニーズに応じた多様な研修会を複数回開催することによって、施設を越えて、より多くの保育関係者が参加できる体制をつくった。

- ①市内施設の公開保育の開催と参加案内（子ども課より全園へ案内を通知）
- ②必要に応じた教育・保育アドバイザーの要請・活用
- ③オーダーメイド研修、市主催の研修会の開催

市主催の研修の開催状況

研修名	講師・発表者	参加（人）
年齢別研修（全6回）	県指導主事、市保育アドバイザー	220
職種別研修	市保育アドバイザー	28
主任・ミドルリーダー研修Ⅰ～Ⅲ（全8回）	県内大学教授	410
発達支援セミナー（全2回）	臨床心理士、巡回支援専門員	42
研究実践発表会（全3回）	へき地保育所代表、指定管理保育園代表	65

オーダーメイド研修の開催状況

研修テーマ	講師	企画園（期日）	参加（人）
感染症の具体的な対応	大館保健所	城南保 12/26)	35
気になる子への対応	比内支援学校教育専門監	城南分園（10/1）	34
事故防止と事故時の対応	大館市消防署	有浦保 9/10)	29
手作りおもちゃ	おもちゃコンサルタント	扇田保（12/12）	30
環境の構成	県教育・保育アドバイザー	たしろ保（2/6）	中止

（5）本調査研究の成果の発信

公開保育等において本調査研究の成果や課題を市内全園で共有するとともに、よりよい子どもの育ちをつなげるよう小中学校や行政関係者等の就学前教育への理解を推進する。また、フォーラムの開催により、本市の実践や体制をモデル事例として積極的に全国へ発信する。

①「育ちと学び支援事業フォーラム in 大館」の開催（のべ参加者数 643名）

期 日：平成30年10月11・12日

会 場：大館市民文化会館、北地区コミュニティセンター、田代いきいきふれあいセンター
サンピア、有浦保育園＋有浦小学校、扇田保育園、たしろ保育園

内 容：1日目 基調講演・事例発表、2日目 公開保育研究協議会

参 加：（行政担当）有浦会場 89名、（保育研究）扇田会場 122名、田代会場 97名

②大館市教職員研究実践発表会

期 日：平成31年1月9日

会 場：大館市民文化会館

発 表：「こどもをみつめて～ビデオカンファレンスによる幼児理解～」（長木保育所）

「子ども一人一人に目を凝らし学びや成長を読みとる」（東館保育園）

参加者：市内小中学校教諭、就学前教育関係者、行政担当者等 138名

③秋田県教育研究発表会

期 日：平成30年2月7日

会 場：秋田県総合教育センター

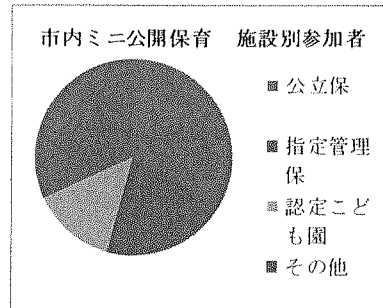
発 表：「就学前教育・保育の質の向上に向けた取組～教育・保育アドバイザーの役割」

発表者：子ども課保育AD・連携AD 教育委員会教育研究所 幼児教育アドバイザー

参加者：県内小中学校教諭、就学前教育関係者、行政担当者等 30名

④ミニ公開保育

回	公開園	期日	参加(人)
1	城南保育園	12/7	24
2	城南保育園分園	10/26	29
3	釈迦内保育園	8/23	35
4	十二所保育園	7/19	20
5	西館保育園	8/24	29
6	東館保育園	7/11	27



※No.1, 2 は市立基幹保育園（フォーラム公開園は含まず）、No.3～6 は指定管理認可保育所

4 事業の成果及び今後の課題、改善の方策（○成果、●課題、◇改善の方策）

(1) 教育・保育アドバイザーを核にした幼児教育センター機能の確立

- 外部からの継続的な支援が、主体的・意欲的・継続的な保育改善の意識や、保育者の専門性の向上につながり、さらには、子ども主体の保育実践を支えることにつながった。
- 教育・保育アドバイザーが訪問し、園のニーズや課題を把握し、行政担当者との連携による課題に応じた研修会を設定することにより、各園の状況の見取りを生かした市全体の課題への対応が可能となり、これが市全体の教育・保育の質の維持・向上につながっている。
- 園や保育者の様々なニーズに寄り添っていくためには、教育・保育アドバイザーのスキルアップが不可欠である。
- 子ども課と教育委員会の連携によって、幼児教育センターの役割を継続的に機能させていく。
- ◇県と連携しながら研修会等で教育・保育アドバイザーのスキルアップする場を積極的に活用するとともに、日ごろの園訪問で保育を見る目を鍛えていく。
- ◇幼児教育センター機能の必要性を市民にも積極的に発信し、市として教育・保育アドバイザーの配置を安定的な体制にしていく。

(2) 保育・保育の更なる質の向上に向けた研究推進体制

- 基幹保育園以外の園からも研究推進委員会への参加があり、研修リーダーとしての学習会を通して、研究の進め方や協議の持ち方が実践的に鍛えられ、研究のマネジメント力が身に付いた。これが、市全体の保育の質の向上に結び付いていく手応えを得ることができた。
- 主任や研修リーダーに寄り添いながら、園の状況に応じて助言したり、研修の進め方の変化を見取り改善点を褒めたりするなど、個別の指導や関わりも重要である。
- ◇機関保育園による月1回の研究推進委員会を継続するとともに、内容によっては、基幹保育園以外の園にも参加を呼びかけ、課題や取組の共有を推進する。

(3) 園のニーズに応じた研修会の実施

- 基幹保育園においてオーダーメイド研修やミニ公開保育を開催することで、市内における研修機会が多数保障されている。
- ファシリテーター研修会での協議の進め方について振り返り、参加者のどの意見を中心に本日のねらいに向かう協議を組み立てるべきだったかなど、意見のグルーピングの仕方などを検証した。記録の仕方、付箋の書き方など具体的な課題についてもビデオや教材用DVDを活用しながら学習会を行い、県指導主事の助言内容が実践に反映されているかを各自が確認できるようにしたことで実践力が身に付いた。
- 研修内容が自園にとって本当に必要であるかを見極めながら、内容の充実を図る。
- より多くの職員に、複数回の研修機会を確保していく必要がある。

◇幼児教育センターの機能を生かし、現場の声を聞き取りながら、年間の研修内容を総括し、次年度の研修計画を検討する。

(4) 接続期の保育・教育の充実

○幼保小連携推進会議、幼保小担任研修会を新規に立ち上げることで、年度のスタートに、全小学校と全施設が顔を合わせ、連携・接続の必要性を確認する機会を持つことができた。

○小学校も気軽に学区の園の公開に出向き、就学前教育への理解を深める機会が増えた。

○互いの研究授業を見合う機会が増えており、共に研究実践を進めていく仲間である意識ができてきた。

●幼保小連携推進会議、幼保小担任研修会がマンネリ化しないように内容を吟味する。

●来年度から連携プログラムをどのように活用するか検討する。

◇年度末に、就学前、小学校からアンケートや感想をとることで、より現場のニーズに合った研修内容にしていく。

(5) 本調査研究の成果の発信

○基幹保育園以外の園においても保育を公開する園が徐々に増えた。また、基幹保育園や指定管理保育園以外の園からの参加も定着し、互いに保育を見合う意義が浸透しつつある。

○「わか杉っ子！育ちと学び支援事業フォーラム in 大館」の開催により、県外から保育・教育関係者、行政担当者等 61 名を含む、のべ 643 名の参加により、本市の 3 カ年の実践を発表した。公立 3 園の保育のみならず、教育・保育アドバイザーを活用した園内研修、ファシリテーターによるグループ協議の実践を公開することができ、参加者に研修の在り方を具体的に提案することができた。

●今後のミドルリーダーの世代交代を視野に入れて、ミドルリーダーの層を厚くするよう対象者の巾を広げて養成する。

◇他市の教育・保育アドバイザーと連携しながら本市だけに留まらない広域の研修会や公開保育等を行っていく。

5 平成 28 年度～平成 30 年度の成果と課題（○成果、●課題、◇改善の方策）

(1) 教育・保育アドバイザーを核にした幼児教育センター機能の確立

○教育・保育アドバイザー 2 名と子ども課と市教育委員会の関係職員が連携して以下の機能確立させることができた。（ふるさとキャリア教育に基づいた市の方針の周知、独自の研修体制、保育内容の指導体制、園内研修への支援体制、市共通の様式・マニュアルの様式提供、教材・資料の作成、幼保小連携の橋渡し）

○教育・保育アドバイザーによって指導の方向性が共有され、園内研修への支援やミドルリーダーの養成を計画的・継続的に行うことができた。

(2) 保育・保育の更なる質の向上に向けた研究推進体制

○研究の計画、実践、そして研修を推進するリーダーを支援することで、保育者の研修に対する意識の変化や、協議の仕方のスキルアップが見られた。また、研修リーダーが自覚をもち、自信を深めながら自園の保育者へ働きかけができるようになった。

(3) 園のニーズに応じた研修会の実施

○多様な研修機会、他園の保育を参観する機会を増やすことで、保育者の保育に対する意識の改善が図られ、子ども理解に基づいた子ども主体の保育が根付いてきた。

(4) 接続期の保育・教育の充実

○就学前教育と小学校教育の教職員が校種の垣根を越えて合同研修をしたり、気軽に連絡を取り合ったりできるようになった。教育・保育の内容や指導方法の理解が進み、小学校1年生の学びへの意欲の高まりが感じられる授業が多くなった。

(5) 本調査研究の成果の発信

○モデル市としての本市の実践が、近隣市町村に広がってきている。また、本市の研修に今後も参加を促すことで、広域で保育の質の向上に向けた実践が可能となる。

●待機児童を抱える本市では、事業所内保育施設が増加傾向にある。就学前教育への新規参入企業とも市の教育・保育方針を共有するために新たに信頼関係を築きながら、アドバイザーの訪問要請、各種研修会への参加につながるようにしていく。

◇個々の園の状況と市全体の成果と課題を常に把握しながら、市としての幼児教育推進体制の見直し改善を図っていく。

6 平成31年度の事業の構想

【目的】

平成28～30年度の事業により確立した教育・保育アドバイザーを核に据えた幼児教育推進体制を継続して運営し機能させることにより、市としての教育・保育の一層の質の向上を目指すとともに、子供の育ちに携わるすべての教育・保育機関が連携・協働して人材育成に取り組む機運を高める。

【実施内容】

(1) 教育委員会と子ども課の連携による幼児教育センター機能の運用

- ・教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導
- ・市独自の事業や研修会の開催

(2) 教育・保育アドバイザーによる市内全園への巡回訪問・指導

- ・教育委員会教育研究所に、教育・保育アドバイザー1名を継続配置
- ・市福祉部子ども課の保育アドバイザーと本事業の教育・保育アドバイザーを核に据えた訪問指導体制

(3) 教育・保育アドバイザー並びに市内全園の研修リーダーの養成、基幹保育園の公開保育による研究成果の発信

- ・基幹保育園、園長会議、主任会議との連携による研究推進
- ・基幹保育園以外の園、近隣市町村への研究成果の発信、研修機会の提供

(4) 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の充実

- ・市主催による合同研修会、相互の研究会への参加の促進

(5) 秋田県教育庁幼保推進課との連携体制の強化

- ・県幼児教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会への参加
- ・最新情報を得ながら、県からの助言をもとに体制や研究内容を見直し

モデル市の具体的な取組（男鹿市）

1 教育・保育の現状と課題

- (1) 小規模な施設が多く、少ない人材で保育や園運営を行うため、研修時間の確保や園外研修への機会が少ない。
- (2) 市内の就学前施設において同じ研修が行われていないため、施設間での保育の専門性向上の機会に不均衡がある。

2 目的、重点、実施内容

【目的】（3年間）

- ◇教育・保育アドバイザーを配置し、市内の就学前施設への巡回指導及び助言を行うことにより、保育の質の向上を図る。
- ◇教育・保育の専門家を活用した研修会等の実施により、保育者の専門性の向上を図る。
- ◇幼・保・小の連携を図る。

【重点】（平成30年度）

- ◇幼小連携に向けた支援体制の整備や接続期の教育内容について研究を推進するほか、公開保育研究協議会での成果の発信を行う。

【実施内容】（平成30年度）

- (1) 教育・保育アドバイザーの配置
- (2) モデル園を核とした研修の推進
- (3) 園のニーズに応じた研修会の実施
- (4) 幼小連携の取組
- (5) 取組の普及（成果の発信）

3 平成30年度の実施状況

(1) 教育・保育アドバイザーの配置

各施設への巡回指導、助言や各保育者との面談等のきめ細かな指導支援により、施設や保育者が抱える課題に柔軟に対応し、保育者の気づきによる主体的な保育改善や教育・保育における専門性の向上を図った。

前年に引き続き、教育・保育アドバイザーを2名配置し、市内の就学前全施設を巡回訪問し、各園の課題や個人面談による各保育者の自発的、主体的な気づきを重視した指導助言を行い、各園内の課題の共有化を図った。

県の教育・保育アドバイザーと連携してアドバイザー自身も研修し、その成果を市内施設での支援に活かし、各園内研修の指導や園の保育力の向上につながった。

(2) モデル園を核とした研修の推進

モデル園を核とし、計画性のある園内研修の推進や、園外研修への参加意欲の向上、さらには保育者自身の課題を解決するためのプロセスの明確化により、教育・保育の更なる質の向上に向けた研修を推進した。

【公開保育研究協議会】

研究テーマ：子どもたちの遊びの充実を目指して

～一人一人の子どもの育ちを考えた環境の構成や保育者の関わりについて～

開催日：平成30年10月24日（水）

会場：認定こども園男鹿市立船川保育園

参加者：50名（男鹿市以外の保育者も含む）

内容：保育参観、グループ協議、全体会

《アンケート調査結果》

- ・子どもが自分のしたい遊びを自分の意志で動いて遊んでいる姿が見られ保育者がそれに寄り添っていて子どもが生き生きしていて素晴らしいと思った。
- ・一人一人の子どもの思いを受け止め、やりたい遊びをじっくりと楽しむ事ができる環境や保育士の関わりを見ることができた。3年間の研究の積み重ねが保育に表れていたと思う。
- ・先生方の多様な考え方や見方に触れる機会が持てて良かった。グループ協議の進め方や相手にどのように話したら伝わるか考えながら話したり聞いたりすることができ勉強になった。
- ・ねらいを立てるにあたり評価や振り返りが大事だと再確認した。

（3）園のニーズに応じた研修会の実施

保育実践力向上研修会やミドルリーダー研修会の継続に加え、新たに若手保育士の研修会を開催し、保育者がキャリアステージに応じて研鑽を積むことが可能な研修機会を拡大するとともに、研修内容の充実を図り、教育・保育の課題解決につなげた。

①第1回保育実践力向上研修会（若手保育士Ⅰ）

演題：自己肯定感を高め、ストレスに負けない心を作る

講師：男鹿市健康子育て課
臨床心理士 千葉純子氏

開催日：平成30年5月10日（木）

会場：男鹿市脇本公民館 大会議室

参加者：12名



アドバイザーと語り合う若手保育士

《アンケート調査結果》

- ・エコグラムを通して自分の性格や気質の強い要素を認識することができた。
- ・いろんな悩みを聞けて、みんな一緒だな、それぞれ大変だなと感じることができて良かった。たくさん話せて、リフレッシュにもなりました。

②第2回保育実践力向上研修会

演題：幼稚園・保育所・認定こども園における子育て支援
子育て支援の役割と機能

講師：聖園学園短期大学 准教授 蛭田一美氏

開催日：平成30年7月21日（土）

会場：男鹿市民文化会館 大会議室

参加者：68名

《アンケート調査結果》

- ・子どもの健全な育ちにつなげるための支援であるということを心に留め、保護者への援助、関わりを考えていくことが保育士として大切なのだとわかった。
- ・保育士の専門性ということを意識して、保護者と関わるようにしていきたいと思う。家庭との連携を図れるようにしていきたい。
- ・子育ての負担感、育児不安など悩みを抱えている保護者と一緒に成長を見守っていきたいと感じた。

③第3回保育実践力向上研修会（ミドルリーダー）

内 容： 保育園職員マニュアルをもとに、見直し、意見交換
講 師： 男鹿市教育・保育アドバイザー 大淵玲子、小玉麻衣子
開催日： 平成30年11月8日（木）
会 場： 協本公民館 大会議室
参加者： 12名

④第4回保育実践力向上研修会（若手保育士Ⅱ）

内 容： グループワーク～付箋を使ってポートフォリオ～
1枚の写真から、子どもの気持ちを読み取ろう
講 師： 秋田県幼保推進課 教育・保育アドバイザー 山上真智子 氏
開催日： 平成30年11月12日（月）
会 場： 男鹿市保健福祉センター 会議室
参加者： 12名

《アンケート調査結果》

- ・ポートフォリオの研修では、自分は何を考えているのか、どのような意見をもっているのか、客観的に自分を知ることができると思った。相手の気持ちを聞くことでより研修内容を深く理解できると思った。
- ・自分の意見を聞いてもらうこと、他の方の意見を聞くことで自分の中にはない考えを聞くことができたり、発見できたりしたのでとても良い研修になった。

(4) 幼小連携の取組

小学校と就学前施設の連携を図るため、教育・保育アドバイザー、就学前施設職員、小校職員、教育委員会職員と施設訪問、公開保育研究協議会、保育実践力向上研修会を通し、交流、意見交換を行い、小学校への円滑な接続のための相互理解、意識の共有を図った。

①公開保育研究協議会

市内幼児施設9か所で開催

②幼小連携意見交換会

開催日：平成31年1月31日（木）
会 場：男鹿市役所 第3会議室
参加者：学校教育課 課長、主幹、指導主事、
健康子育て課 課長、主幹、主席主査、教育保育アドバイザー（7名）

(5) 取組の普及（成果の発信）

巡回指導、研修等の事業の成果の発信として、市内就学前全施設（9か所）において公開保育研究協議会を開催する。また、近隣市町村への周知により広域的に研修機会の提供の核として、園及び保育者、小学校職員の交流の活性化、保育者の意識改革及び自信の形成を図り、市全体の教育・保育力の向上、定着につなげる。

【公開保育研究協議会の実施】

回	実施園	開催日	参加者
①	認定こども園男鹿市立船川保育園（モデル園）	(2) 参照	
②	男鹿市立玉ノ池保育園	5/24	13
③	男鹿市立若美南保育園	6/20	13
④	男鹿市立船越保育園	7/3	13
⑤	男鹿市立北浦保育園	7/6	11
⑥	男鹿市立五里合保育園	7/18	12
⑦	男鹿市立脇本保育園	8/28	10
⑧	学校法人秋田キリスト教学園いづみ幼稚園	10/2	13
⑨	男鹿市立若美幼稚園	11/6	16

4 事業の成果及び今後の課題、改善の方策（○成果、●課題、◇改善の方策）

(1) 教育・保育アドバイザーの配置

- 教育保育アドバイザーも3年目となり、アドバイザー自身の研修成果、経験をもとに安定した指導助言体制が確立できた。
- 各園の課題が明確となり、市内施設の保育力の不均衡の解消につながっている。
- 保育士個々の悩みに寄り添い、保育士の不安感の解消を図ることができた。
- アドバイザーの活動に園での理解が進み、訪問要請が増加傾向にある。園行事、要請日とアドバイザーの県研修参加日など、日程調整が複雑となっている。
- 年度毎の臨時委嘱のため、アドバイザー人材の継続性、確保が難しい。
- ◇訪問時の指導ポイントを把握し、事前準備や訪問計画の調整を早めに周知する。

(2) モデル園を核とした研修の推進

- モデル園での公開保育研究協議会の継続により、園の職員の意識向上、研修方法が習得され、保育の質の向上につながった。
- 研修テーマの掘り起こし、発展へのプロセスをさらに、多方面から研究する必要がある。
- ◇市教育・保育アドバイザー、県教育・保育アドバイザー、指導主事との連携により、研修体制の充実を図る。

(3) 園のニーズに応じた研修会の実施

- 全体、世代別の課題に応じた研修を行い、保育者の連携、意識共有を図ることができた。
- 各施設間の研修機会が得られた。
- 園内研修への支援により、保育者の視野の広がり、研修方法の習得につながった。
- 研修課題ニーズが多岐にわたっている中で、テーマが限られた選択の困難さがある。
- ◇優先度や先の研修の浸透状況を見極め、テーマ選択をしていく。

(4) 幼小連携の取組

- 市内幼児施設全園の公開保育を行い、小学校教員、教育委員会指導主事も参加することで、幼稚園、保育所、小学校の連携が図られ、それぞれの理解が図られた。
- 教育委員会学校教育課との意見交換会により、幼小連携意識の確認、発展について、共通理解が図られた。
- 地区ごとの小学校、幼児施設での連携状況を把握しながら、連携の質の向上を図っていく必要がある。
- ◇小学校、幼児施設の交流を図り、連携への共通理解を図る。

(5) 取組の普及（成果の発信）

- 市内全幼児教育施設の公開保育研究会を実施市、市内及び近隣市町村からの参加者による学び合う体制が作られ、取組の成果が共有された。また、男鹿市の保育の状況、事業成果の確認ができた。
- 保育士の意識変化と多様な研究テーマのものと育ちと学びを発信できた。
- 幼児施設の保育の姿を、教育委員会、小学校関係者に発信することで連携体制の構築、接続の研究推進にも相互理解、意識の共有化につながっている。
- 各園の公開時期が、同一時期に集中する傾向があり、各園の参加者が想定より少なかった。
- ◇公開実施時期、公開園数を検討する。

5 平成28年度～平成30年度の成果と課題（○成果、●課題、◇改善の方策）

(1) 教育・保育アドバイザーの配置

- 教育・保育アドバイザー2名を配置し、各園の訪問、指導助言を行い、県の教育・保育アドバイザーと連携しながら、各園及び保育士の課題解決を促すことができた。
- アドバイザー自身も県の指導、研修により、支援について学び、関係性を築きながら、各園に受け入れられていったが、臨時採用のため、継続性が課題である。

(2) モデル園を核とした研究の推進

- 認定こども園男鹿市立船川保育園での継続した公開保育研究協議会の実施により、他施設職員も保育参観、研究協議会へ気負わずに臨め、互いに学び合うことができるようになった。
- 保育公開時期が、各園同時期となり、自園も、参観者も業務多忙となったことがある。時期を調整するためには、長期的な見通しが必要となる。
- ◇公開保育研究会の時期調整は、早めに着手する。

(3) 園のニーズに応じた研修会の実施

- 園や保育者の個別の課題を把握し、保育の専門家による研修や、対象をきめ細かに対応することで、ニーズの明確化につながった。

(4) 幼小連携に関する検討

- 幼児施設の保育公開により、各園の園児の姿、幼児教育・保育の確認により、連携への手がかりとし、小学校担当課と幼児教育・保育担当課の意見交換会により、連携意識の共有を図った。
- 幼小連携の必要性は認識しているものの、それぞれの多忙により、機会があっても参加できない場合がある。
- ◇幼小連携のために、お互いの訪問、交流を重ね、身近なところから、理解を推進していく。アドバイザーから小学校への参加回数を増やしていく。

(5) 取組の普及、成果の発信

○市内幼児施設全園の保育公開を市内、近隣市町村に案内し、事業の周知を図った。また、モデル園のみの質の向上ではなく、それぞれの園の保育の向上も意識することができた。

6 平成31年度の事業の構想

【目的】

わか杉っ子！育ちと学び支援事業（H28～30年度）の成果を踏まえて、県と連携しながら、就学前施設への巡回指導や研修会を実施することで、教育・保育の推進体制の充実・強化を図る。

【実施内容】

(1) 教育・保育アドバイザーの配置

就学前施設を巡回指導し、保育の指導、園内研修の支援、保育者の支援を行う。

(2) 園のニーズに応じた研修会の実施

ミドルリーダー研修会等を実施し、保育の専門性の向上を目指す。

(3) 保育公開による研修の推進

保育、園児の姿から、研修成果を共有し、振り返りにより、向上を図る。

(4) 幼小接続の推進

学校教育課との連携、学区ごとの施設間の連携により、接続期の幼児教育の向上を推進する。

モデル市の具体的な取組（横手市）

1 教育・保育の現状と課題

- (1) 各就学前施設において実施している、特徴のある保育に配慮した支援のあり方についての検討が必要である。
- (2) 就学前教育・保育施設と小学校との連絡会の設置や交流内容にばらつきが見られる。
- (3) 小学校・就学前施設教職員の双方における子どもの学びの理解が不十分である。

2 目的、重点、実施内容

【目的】（3年間）

- ◇教育・保育アドバイザーを配置することにより、教育・保育の質を更に向上させていく。
- ◇幼小連携協議会を設置する等により、就学前教育・保育施設から小学校への円滑な接続に向けた環境を整える。

【重点】（平成30年度）

- ◇教育・保育アドバイザーの活用による保育力向上のための園内研修の充実に向けた支援
- ◇双方の接続期のカリキュラムのつながりの理解を深めるとともに、円滑な接続にむけた体制の構築

【実施内容】（平成30年度）

- (1) 教育・保育アドバイザーの配置（施設に対する指導・助言体制の構築）
- (2) 研究推進（教育・保育の更なる質の向上に向けた取組）
- (3) 研修会の実施（保育実践力向上研修会）
- (4) 小学校と就学前施設の円滑な接続に向けた取組
- (5) 成果の発信・取組の普及

3 平成30年度の実施状況

(1) 教育・保育アドバイザーの配置（施設に対する指導・助言体制の構築）

教育・保育アドバイザー2名を配置し、園内研修等での助言・指導を通して保育の質を高めるための支援を行うとともに、保育者の自己研鑽や意識改革を促した。

◆教育・保育アドバイザーの配置

教育委員会：元公立小学校長、市長部局：元公立保育所長

①就学前施設への指導・助言

- ・園内研修支援（H30年度：27施設50回）

就学前施設からの園内支援要請件数が増加し、2年間で、市内全施設で保育参観と園の課題解決に向けた園内研修での指導・助言を実施。それぞれの施設や保育者の状況に合わせた指導方法で、研修の充実と研修意欲の引き出しを図った。

- ・保育状況確認

アドバイザーは、こまめな訪問ときめ細かな対応を心掛け、園内研修以外の訪問の際に寄せられる相談にも対応し、園長や主任等に対して気づきを指摘・助言した。

②専門性向上に向けた研修会への支援

- ・研修会のねらいとその達成に向けた実施方法への助言
- ・グループ討議内容と講師講話内容や指導等との方向性の調整
- ・グループ討議での進行を含む研修会の司会進行

③情報発信

研修会実施の様子等を盛り込んだ広報紙を作成し、市内全ての保育所・認定こども園・小学校に直接持参するとともに、その機会を活用して要望や状況を把握に努めた。

※成果の発信・取組の普及に再掲

④家庭支援

- ・保育所保護者研修での講話
- ・生涯学習課への協力（年長児就学時健診での保護者への子育て講話、横手市家庭教育ガイド「えのめんこ」作成）

⑤幼保小連携への支援

- ・市企画事業の企画・実施内容への助言
- ・事業実施状況確認
- ・連携に向けた小学校区ごとの取組や実施内容についての指導・助言

(2) 研究推進（教育・保育の更なる質の向上に向けた取組）

施設間及び保育者間の保育力や専門性向上に向けた主体的な活動意欲の促進と、意識の格差縮小を図った。

◆公立・私立・園種をこえた学び合い

小学校区又は中学校区内で園種、公立・私立を越えた交流や研修を自主的に実施する就学前施設が増加した。

【園児間の交流】

季節の行事での交流、計画に基づいた交流、小学校を核とした交流（私立認定ども園と公立保育所、私立保育所と私立保育所、公立保育所と私立保育所）

【保育者合同研修】

複数園でのミニ公開保育と研修、小学校を核とした交流に向けての研修、小学校を核とした接続期カリキュラムの研修（私立保育所と私立保育所、公立保育所と私立保育所）

(3) 研修会の実施（保育実践力向上研修会）

教育・保育の専門家の活用とワークショップ形式を用いた主体的な研修により、保育者の専門性の向上を図った。

◆第1回保育実践向上研修会

期 日：平成30年6月16日（土）

場 所：横手市役所条里南庁舎

ねらい：改定保育所保育指針等の保育の計画と、その計画に基づいた幼児の指導方法について、理解を深める。

内 容：講話・演習「改定保育所保育指針等の全体像と実践の在り方」

聖園学園短期大学 准教授 蛭田一美氏

参加者：市内就学前施設保育者107人、行政関係者12人

《参加者の感想》

- ・日々の保育に追われてしまっていた自分の保育を改めて見直す機会となった。
- ・10の姿の目標のとらえ方など保育指針と講義内容を照らし合わせながら、見直しや確認をすることができ、有意義な内容だった。

◆第2回保育実践力向上研修会

期 日：平成30年10月18日（木）

場 所：横手市雄物川コミュニティセンター

ねらい：モデル園の保育参観及び講師の講義・演習等を通して、保育士等の保育力の向上を図るとともに、小学校教諭等の保育に対する理解を深める。

内 容：保育の公開（沼館保育園、雄物川保育園） ※成果の発信・取組の普及に再掲
事前研修 「参観とグループ協議の視点について」

教育・保育アドバイザー

講 話「子どもの学びを支える保育者の援助」

秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 井上 英樹 氏

協 議「公開保育参観を通じた2歳児・5歳児の育ちと保育者の関わりについて」

参加者：市内就学前施設保育者59人、市内小学校教員8人、行政関係者17人

《参加者の感想》

- ・子どもの行動から内面理解をして、保育者がどう関わっていくかを協議することで、気付くことがたくさんあった。（保育者）
- ・幼小接続に係るポイントを再確認できた。小学校職員が、共通認識を持つことが大事であり、全体周知を図っていきたい。（教員）

◆第3回保育実践力向上研修会

期 日：平成30年11月6日（火）

場 所：横手市雄物川コミュニティセンター

ねらい：小学校と就学前施設における学校教育と幼児教育の円滑な接続に向け、子どもの育ちと学びの連続性への理解を深める。

内 容：授業交流の公開（雄物川小学校、沼館保育園、雄物川保育園）

※成果の発信・取組の普及に再掲
交流事例紹介（山内小学校、さんない保育園）

※成果の発信・取組の普及に再掲
事前研修「参観の視点について」

教育・保育アドバイザー

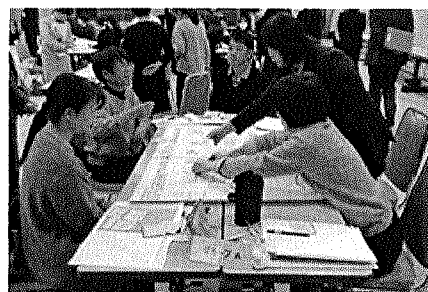
協 議「年長児と1年生それぞれの学びの違いとつながりについて」

助言・指導

秋田県教育庁南教育事務所

指導主事 畑 克弘 氏

参加者：市内就学前施設41人、市内小学校20人、行政関係者16人



教員と保育者とのグループ協議

《参加者の感想》

- ・小学校の先生も一緒にグループ討議だったので、小学校の先生の見方、考え方等にも気づき、大変刺激をいただいた。（保育者）
- ・成果と課題を色分けする付箋交流よりも、教師の関わりや子どもの様子について、協議でき

- て話しやすかった。（話し合いの中で自然と成果や課題はでていたので）（教員）
- ・幼保の先生方と直接話ができる機会として、とても有意義である。実際の子ども（1年・年長）の動きについて討議ができるのもよかった。（教員）

（4）小学校と就学前施設の円滑な接続に向けた取組

小学校と就学前施設における双方の育ちと学びの理解を深め、幼児教育と学校教育の円滑な接続を図る。

◆教職員の体験事業

*保育士等による一日学校体験

ねらい：保育士等が小学校での生活や学習を体験し、就学後（教科学習中心）の学びへつながる保育を意識する。

*小学校教職員による一日保育体験

ねらい：小学校教職員が就学前施設での生活や指導を体験し、遊びによる学び（幼児教育）を理解する。

平成 30 年度体験事業実施状況

事業	実施期間	体験者数	体験者担当等
学校体験 (保育士等)	H30. 5. 30～ H30. 6. 29	32 就学前施設 から 46 人	0～5 歳児担当、フリー保育士、 看護師、主任、副園長
保育体験 (教諭等)	H30. 7. 26～ H30. 8. 22	17 校から 47 人	1～6 年担当、教務主任、研究主任、 生徒指導、特別支援担当、TT・少人数 担当、教頭

《体験者の感想(体験報告書より)》

- ・園で経験してきた文字や数、リズムなど様々な遊びが、一年生になるとより詳しく教科の中での学習に変わったことに気づき、就学前教育からのつながりを感じることができた。（保育者）
- ・椅子に座る姿や時間、話を聞く態度、学習への意欲など、一つ一つの姿が、園生活からの積み重ねで学校生活に結びついていることを感じた。それは、就学の1年前ではなく、0歳児からの小さな積み重ねが大切なのではと考えさせられた1日だった。（保育者）
- ・小学校に就学前の育ちの考え方をもっと入れていかなければいけないと考えた。個を見取ることの大切さを感じた。（教員）
- ・幼児期の段階では、人的環境も含めいかに周囲の環境が大切であるかを実感できた気がする。確かな力をつけて入学してくる1年生に対し、どのようなかわりが大切なのか模索して行きたいと思う。（教員）

◆給食交流の推奨

年長児の喫食状況について、教職員の理解を深めるため、各小学校とその学区内就学前施設との交流事業として実施を推奨した。市内6校とその学区内保育所12施設が2月の体験入学時等に実施。また、1保育所では、小学校教員が保育所を訪問して年長児の喫食状況理解を図った。

《参加者の感想》

- ・就学前に小学校の児童と年長園児との給食を通じた交流ができることは、幼小のスムーズな接続に資する活動であると感じる。

◆小学校単位での接続期カリキュラム検討会の推奨

学びのつながりの確認や理解に向けて、小学校とその学区内就学前施設教職員間での接続期のカリキュラム検討の実施と教育・保育アドバイザーによる研修支援の活用について推奨した。2学区から2月以降に開催する研修への支援要請があった。

◆横手市幼小接続推進協議会設立

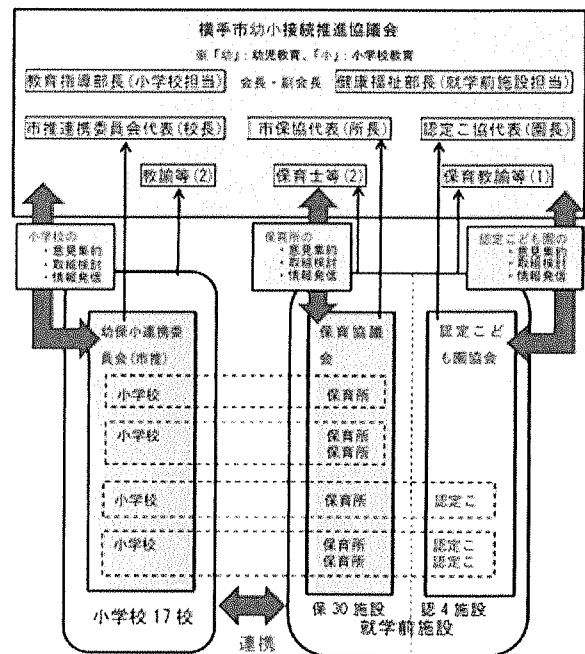
【発足日】平成31年1月1日

【組織】

市内小学校と就学前施設における幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進するために協議する組織

【委員構成】

- ・小学校（※市教育推進委員会特別委員会幼保小連携委員会代表、小学校教諭等）
- ・保育所（市保育協議会代表、保育士等）
- ・認定こども園（市認定こども園協会代表、保育教諭等）
- ・行政（小学校担当部長、就学前施設担当部長）



横手市幼小接続推進協議会組織図

【会議】

平成30年度 第1回幼小接続推進会議

開催日：平成31年2月1日（金）

場所：横手市条里南庁舎会議室

委員：公立小学校長、公立小学校教諭、私立保育所長、私立保育所保育士、公立保育所保育士、私立認定こども園長、私立認定こども園保育教諭、教育指導部長、健康福祉部長

内容：

- ・意見交換

「小学校、保育所及び認定こども園における連携の取組状況や成果と課題について」

- ・協議

「平成31年度の取組の方針や事業案について、行政主体の活動と自主的な活動（各小学校区、各小学校・保育所・認定こども園の取組）の観点から」

※市教育推進委員会：横手市立の各小中学校の教職員並びに教育委員会職員をもって構成し、教育課題を解明解決するため、教科等様々な分野ごとに調整・研究を行い、教育活動を推進しようとする組織。

(5) 成果の発信・取組の普及

事業の状況や成果の発信を通して、市全体での共通理解と保育力向上や幼保小施設間が連携した学び合いの意識を高めた。

◆公開保育

期 日：平成 30 年 10 月 18 日（第 2 回保育実践力向上研修会同時開催）

公 開：沼館保育園、雄物川保育園

沼館保育園、雄物川保育園ともに全クラスを公開。（参観後のグループ協議の対象は、それぞれの 2 歳児クラスと 5 歳児クラスの活動の様子）

《参観者の感想》

- ・子どもたちが主体的に遊びを進めるためには環境構成が大切であることや、保育者の言葉かけにより子どもの姿が変わっていくことを改めて感じた。
- ・喜んで粘り強く活動を続けている子どもたち、友だちや先生と笑顔で関わっている子どもたち、自分のやりたいことが叶えられてうれしそうな子どもたち、喜んでもらえたことを喜べる子どもたちをたくさん見つけた。

◆保小交流の公開授業及び事例紹介

期 日：平成 30 年 11 月 6 日（第 3 回保育実践力向上研修会同時開催）

公 開：雄物川小学校

雄物川小学校 1 年生活科の授業において、沼館保育園年長児・雄物川保育園年長児との交流の様子を公開。公開に向けて担任等が協議し作成した「生活科のねらいと指導案」と「保育日案」が一体となった「生活科学習指導案」や当日までの子どもたちの取組も紹介。

交流事例紹介：山内小学校

山内小学校とさんない保育園の幼児教育と学校教育の円滑な接続を目指した取組を紹介。

《参観者の感想》

- ・事前の子どもたちの取組、保育士、教諭の様々な配慮を視点としてみることができ、様々な気づきがあり良かった。（保育者）
- ・生活科はもとより、保育園児との合同授業を始めて拝見しました。発達段階の違いとつながりを感じた。（保育者）
- ・小学校、保育所がそれぞれのねらいをもち、交流を授業という形で提示していただいたことがすばらしかった。（教員）

◆「横手市幼小連携だより よこてのめんこ」の発信

隔月の発行。教育・保育アドバイザーの視点からの感想を交えながら、モデル事業の取組や各施設での保育の様子を紹介した。

配付先：市内小学校・就学前施設・関係機関

◆「平成 30 年度わか杉っ子！育ちと学び支援事業フォーラム in 大館」

1 日目：3 年間の取組内容と成果を発信

2 日目：市教育・保育アドバイザーが、研究協議時にファシリテーターの支援の様子を発信

4 事業の成果及び今後の課題、改善の方策（○成果、●課題、◇改善の方策）

（1）教育・保育アドバイザーの配置（施設に対する指導・助言体制の構築）

- こまめな園訪問による教育・保育アドバイザーと各施設の信頼関係構築とともにその役割が理解され、園内研修支援要請が大幅に増加した。
- 研修支援をとおし、園の課題解決や専門性向上のために自ら取り組むことへの意識・意欲を引き出すことができた。
- の保育の質向上の取組に対する園の意識、自己研鑽に対する保育者個々の意識や意欲に格差がある。
- 各園において、研修実施に向けた研修リーダー的存在が不足しているため、現場保育士の総意による研修企画や教育・保育アドバイザーの研修支援要請が困難な場合が少なくない。
- ◇それぞれの園に対するより効果的な研修支援等様々な助言・指導の在り方を検討し、各園に働きかけていく。
- ◇こまめな訪問を継続し、信頼関係を保ちながら、現場の声を園内研修へ生かせるよう工夫する。

（2）研究推進（教育・保育の更なる質の向上に向けた取組）

- 小規模での研修や交流であるため、現場の課題やニーズに対応しやすいものになった。また、時間確保や準備等についても、比較的調整しやすい。
- 学区単位での研修・交流は、学校を核とした子どもたちの就学を見据えた共通理解や取組の充実に有効であった。
- 各園に対して、新たなことに取り組むための意欲を高めていく方策が必要である。
- 特色ある独自の方針により保育している施設間では、双方職員の共通認識と関係構築に時間を要する。
- ◇幼小接続推進協議会を活用して、自主的な取組への意識づけと事業の推進を図っていく。

（3）研修会の実施（保育実践力向上研修会）

- ワークショップ形式を用いたことにより活発な話し合いが展開され、専門性向上のために自ら発見や気づきを得るための機会となった。
- 教員と保育者が同じ授業（保小交流）を参観し、それをもとにした子どもの育ちの違いとつながりを討議することにより、接続期のカリキュラムを通した接続を考える上での視点を理解する足掛かりにすることができた。
- ワークショップ形式での研修充実には、視点の理解とファシリテーターの役割が重要であるため、慣れ不慣れからねらいに対するグループごとの充実度に差が出た。
- 参観内容をもとにしての研修方法は効果的ではあるが、担当する小学校や就学前施設の負担感が大きい。
- 各施設の事情により、参加者が制限されることが少なくない。
- ◇多くの保育者の学びが保証されるよう、研修内容とともにその方法について、教育・保育現場の意見を取り入れながら研修の充実を図っていく。

（4）小学校と就学前施設の円滑な接続に向けた取組

- 教員、保育者ともに、子どもの育ちや学びの差異についての理解が深まってきている。
- 相互理解や連携の必要性の意識が高まり、交流等の自主的な取組が増加している。
- 協議会を設立し組織化を図ったことにより、幼児教育推進のための取組を継続するための基盤を構築することができた。また、行政・保育所・認定こども園が円滑な接続に向けてともに協議することが可能になった。
- 教員、保育者個々の意識や理解の差が大きい。

- 施設ごとの取組の充実の差が大きい。
- 研修や交流時間確保が難しい。
- ◇相互理解のための事業を継続する。
- ◇各施設や学区の実情に合った取組方法の助言に配慮する。
- ◇幼小接続推進協議会を活用し、教育・保育現場の意見を取り入れた取組の充実を図っていく。

(5) 成果の発信・取組の普及

- 自園の保育の公開又は他園の保育の参観により、どちらも自らの保育を振り返りその在り方を改善・充実させるきっかけとなった。
- 当日の授業（保小交流）公開だけではなく、公開小学校と保育所の事前交流や打合せを積み重ねた実践を公開することにより、幼保小交流の意味とあり方の一例を発信することができた。
- 情報紙を活用し事業の実施状況やその感想の情報を発信することで、研修会等に参加できなかった保育者等に対しても、事業への理解と促進を図ることができた。
- 自園の保育を公開することへの抵抗感や実施のための負担感が大きい施設が多く、市内全域を対象とした公開を実施する施設の増加は簡単ではない。
- 情報紙活用方法について、就学前施設・小学校に温度差がある。
- ◇より効果的な情報発信方法やその内容について検討していく。
- ◇特定の園及び学区へ実施協力を求め、モデル園・モデル地区として取組を発信していく。

5 平成28年度～平成30年度の成果と課題（○成果、●課題、◇改善の方策）

(1) 教育・保育アドバイザーの配置（施設に対する指導・助言体制の構築）

- 園内研修での教育・保育アドバイザー活用の定着（園内研修支援体制の構築）
市内34カ所全ての就学前施設への園内研修支援が可能⇒外部からの指導・助言への抵抗感の縮小、それぞれの園の実情に合った指導・助言の実施
- 幼小円滑な接続に向けた協議体制の組織化
「横手市幼小接続推進協議会」の設立⇒行政・小学校・就学前施設が幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて協議し合う体制の確立
- 体制の維持と内容の充実を図るための行政組織の在り方
- 教育・保育アドバイザーの人材確保の難しさ
- ◇事業継続可能となるための協力体制の強化と理解促進

(2) 研究推進（教育・保育の更なる質の向上に向けた取組）

- 保育者の専門性向上に向けた研修意欲の高まり
- 保育者及び教員の就学前施設と小学校での子どもの育ちや学びの差異についての理解の深まり
- 保育者及び教員の幼小相互理解や連携の必要意識と活動意欲の高まり
- 施設形態（小学校、公・私立保育所、私立認定こども園）を越えた合同研修の充実
- 現場が必要としている研修とより効果的な実施方法の把握
- 研修参加への理解と意欲の高揚
- ◇保育・教育現場の状況確認と課題解決に有効な研修会開催の企画
- ◇研修の必要性和参加への理解を得るための方策の検討

(3) 研修会の実施（保育実践力向上研修会）

- 保育者自らの振り返りと保育の質の向上への意識の高まり
- 園内研修実施への抵抗感の軽減と研修内容の改善
- 園種等を越えた学び合いの意識の広がり自主的活動の増加

- 学校区ごとの幼保小連携活動の充実
- 保育の質向上や幼保小連携の充実の取組に対する教職員個々の意識や意欲の格差
- 小学校や他園との協力による自主的活動の意欲向上に向けた対策
- 接続期のカリキュラム検討についての学区ごと視点共有の難しさとあり方の理解不足
- ◇幼小接続推進協議会を活用した自主的取組みへの意識の促進
- ◇連携しやすくなるための環境整備等の配慮

(4) 小学校と就学前施設の円滑な接続に向けた取組

- 交流活動の充実や子どもの育ちや学びの理解促進の必要性の意識の高まり
- 双方での教育・保育での在り方と育ちや学びの差異の理解の深まり
- 幼小接続推進協議会設立による体制の構築
- 教職員個々及び施設ごと、学区ごとの意識や意欲の格差
- 市内全学区での取組の活性化
- 幼小接続推進協議会での協議の方向性と内容について、市内全施設への周知と理解
- ◇相互理解のための取組の継続
- ◇幼小接続推進協議会を活用した事業の推進

(5) 成果の発信・取組の普及

- 他園の取組を知る、見取ることから得られるヒントを自園での保育に活用
- 見せる（保育の公開）ことへの自信と、そのための取組等による保育の充実
- ・活用の意欲や活用方法の意識格差
- ◇成果を広く周知し、取組の活性化と活用を促すための新たな方法の検討

6 平成31年度の事業の構想

【目的】

- ・就学前施設の教育・保育の質の向上
- ・幼児教育と小学校教育の円滑な接続

【実施内容】

- (1) 教育・保育アドバイザー2名の配置
- (2) 保育力向上に向けた取組
 - ・課題に応じた研修会の開催
 - ・就学前施設における園内研修支援
- (3) 円滑な接続に向けた取組
 - 横手市幼小接続推進協議会を活用した事業推進
 - ・幼保小合同研修の開催
 - ・幼保小自主事業への支援（各小学校区での取組、各小学校・就学前施設での取組）
 - ・教職員の体験事業（保育者の一日学校体験、小学校教員の一日保育体験）の継続と充実
 - 就学前施設での「気になる子」への就学に向けた事前配慮

B-1) 具体的調査研究体制

(1) 調査研究実行委員会体制

ふりがな 調査研究実行委員会 の代表者氏名		おおがた みか 大方 美香		他7名（実人数8名）	
実行委員氏名	所属機関 所属・職名	具体的な役割分担	従事期間	エフオー ト (専従貢献度)	
おおがた みか 大方 美香	大阪総合保育大 学児童保育学部 長	調査研究実行委員会座長 幼児教育専門家としての調査 ・研究推進方法等に対する助 言、評価・検証	1年間	3 (%)	
おくやま じゅんこ 奥山 順子	秋田大学教育文 化学部こども発 達・特別支援講 座教授	調査研究実行委員会副座長 幼児教育専門家としての調査 ・研究推進方法等に対する助 言、評価・検証	1年間	3	
ひるた ひとみ 蛭田 一美	聖園学園短期大 学保育科准教授	幼児教育専門家としての調査 ・研究推進方法等に対する助 言、評価・検証	1年間	3	
さが ふさかず 嵯峨 房和	秋田市小学校長 会幹事（秋田市 立戸島小学校 長）	小学校教育の視点から調査・ 事業推進方法等に対する 助言・提言	1年間	2	
けむりやま こうせい 煙山 光成	美郷町教育委員 会教育総務課長	就学前教育・保育及び小学校 教育を所管する行政としての 助言・提言	1年間	2	
いずみ ふみこ 泉 文子	前秋田県国公立 幼稚園・こども 園協会副会長 (男鹿市立船越 保育園長)	公立幼稚園・認定こども園実 務担当者としての助言・提言	1年間	2	
たけだ まさひろ 武田 正廣	秋田県私立幼稚 園・認定こども 園連合会長（さ かき幼稚園長）	私立幼稚園・認定こども園実 務担当者としての助言・提言	1年間	2	
かわしま しんりょう 川嶋 真諒	秋田県保育協議 会会長（子吉保育 園長）	私立保育所実務担当者として の助言・意見	1年間	2	

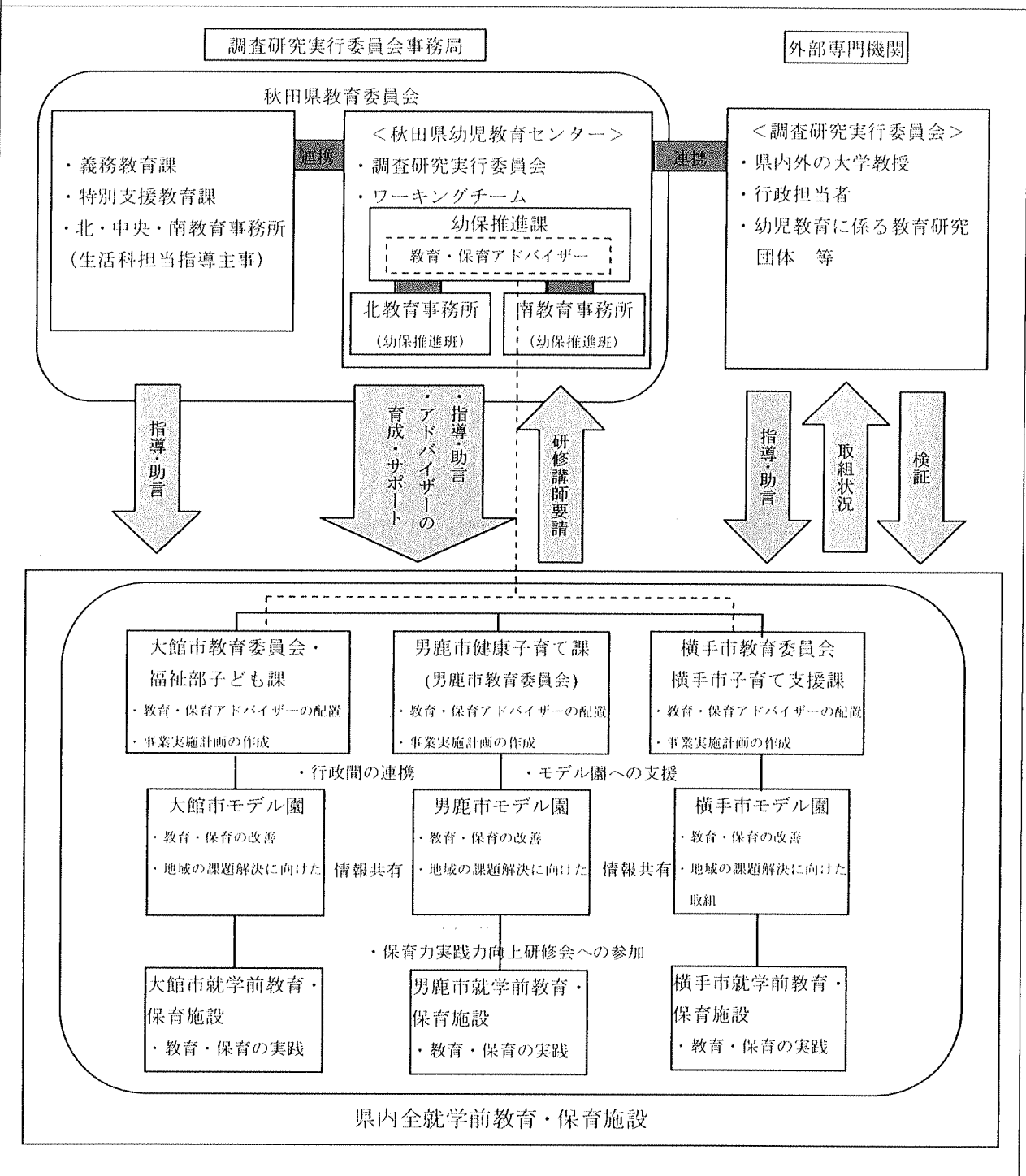
(2) 自治体の概要																
①規模（平成31年2月現在）																
都道府県・市区町村名					人 口											
秋田県					976,411人											
②指定する自治体における全幼稚園数、認定こども園数、小学校数、保育所数																
幼稚園			うち、幼稚園型 認定こども園			幼保連携型 認定こども園			保育所		うち、保育所型 認定こども園		地方裁量型 認定こども園		小学校	
37園			14園			65園			210か所		10園		0園		189校	
国	公	私	国	公	私	国	公	私	公	私	公	私	公	私		
1	4	32	0	0	14	0	12	53	61	149	4	6	0	0		
(3) 研究協力団体の概要																
団体名等					団体等の活動概要											
1	秋田大学教育文化学部				<ul style="list-style-type: none"> ・教員の養成、保育士の養成 ・幼児教育に関する研究推進 ・附属幼稚園における幼児教育の実践及び成果の情報発信 											

(2) 自治体の概要																
①規模（平成31年2月現在）																
都道府県・市区町村名					人 口											
大館市					70,831人											
②指定する自治体における全幼稚園数、認定こども園数、小学校数、保育所数																
幼稚園			うち、幼稚園型 認定こども園			幼保連携型 認定こども園			保育所		うち、保育所型 認定こども園		地方裁量型 認定こども園		小学校	
1園			0園			8園			10か所		0園		0園		17校	
国	公	私	国	公	私	国	公	私	公	私	公	私	公	私		
0	0	1	0	0	0	0	0	8	9	1	0	0	0	0		
園	園	園	園	園	園	園	園	園	か所	か所	園	園	園	園		
(3) 研究協力団体の概要																
団体名等					団体等の活動概要											

(2) 自治体の概要															
①規模（平成31年2月現在）															
都道府県・市区町村名						人 口									
男鹿市						26,151人									
②指定する自治体における全幼稚園数、認定こども園数、小学校数、保育所数															
幼稚園			うち、幼稚園型 認定こども園			幼保連携型 認定こども園			保育所		うち、保育所型 認定こども園		地方裁量型 認定こども園		小学校
2園			0園			0園			7か所		1園		0園		6校
国	公	私	国	公	私	国	公	私	公	私	公	私	公	私	
0	1	1	0	0	0	0	0	0	7	0	1	0	0	0	
園	園	園	園	園	園	園	園	園	か所	か所	園	園	園	園	
(3) 研究協力団体の概要															
団体名等						団体等の活動概要									

(2) 自治体の概要															
①規模（平成31年2月現在）															
都道府県・市区町村名						人 口									
横手市						87,620人									
②指定する自治体における全幼稚園数、認定こども園数、小学校数、保育所数															
幼稚園			うち、幼稚園型 認定こども園			幼保連携型 認定こども園			保育所		うち、保育所型 認定こども園		地方裁量型 認定こども園		小学校
4園			4園			0園			30か所		0園		0園		17校
国	公	私	国	公	私	国	公	私	公	私	公	私	公	私	
0	0	4	0	0	4	0	0	0	8	22	0	0	0	0	
園	園	園	園	園	園	園	園	園	か所	か所	園	園	園	園	
(3) 研究協力団体の概要															
団体名等						団体等の活動概要									

B-2)組織図及び体制図



番号	3	自治体名	大館市(秋田県)
----	---	------	----------

(1) 全幼稚園数、認定こども園数、保育所数、小学校数

幼稚園						幼保連携型認定こども園			保育所				地方裁量型認定こども園		小学校	
うち、幼稚園型認定こども園									うち、保育所型認定こども園							
1園			園			8園			10か所				園		園	17校
国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立
0	0	1	0	0	0	0	0	8	9	1	0	0	0	0	0	0

その他:へき地保育所7 児童館2 小規模保育1 事業所内8 認可外3

(2) 訪問施設数

(平成31年3月29日現在)

幼稚園						幼保連携型認定こども園			保育所				地方裁量型認定こども園		小学校	
うち、幼稚園型認定こども園									うち、保育所型認定こども園							
1園			園			8園			10か所				園		園	9校
国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立
0	0	1	0	0	0	0	0	8	9	1	0	0	0	0	0	0

その他:へき地保育所6 児童館2 小規模保育0 事業所内0 認可外0

(3) 訪問回数

(平成31年3月29日現在)

幼稚園						幼保連携型認定こども園			保育所				地方裁量型認定こども園		小学校	
うち、幼稚園型認定こども園									うち、保育所型認定こども園							
1回			回			8回			61回				回		回	9回
国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立
0	0	1	0	0	0	0	0	8	60	1	0	0	0	0	0	0

その他:へき地保育所6 児童館2 小規模保育0 事業所内0 認可外0

(4) 研修会開催回数等

(平成31年3月29日現在)

実施日	講演会・研修会名	開催場所	参加人数	対象者	対象地域	備考
H30.4.6	研究推進委員会	大館市福祉センター	12	基幹保育園主任他	大館市内	
H30.4.13	保育補助者研修会	大館中央公民館	28	保育補助	大館市内	
H30.4.17	0歳児研修会	大館中央公民館	30	0歳児担当者	大館市内	
H30.4.18	1歳児研修会	大館中央公民館	17	1歳児担当者	大館市内	
H30.4.20	研究推進委員会	大館市福祉センター	11	基幹保育園主任他	大館市内	
H30.4.23	2歳児研修会	大館中央公民館	28	2歳児担当者	大館市内	
H30.4.24	3歳児研修会	大館中央公民館	28	3歳児担当者	大館市内	
H30.4.26	4歳児研修会	大館中央公民館	28	4歳児担当者	大館市内	
H30.4.27	5歳児研修会	大館中央公民館	29	5歳児担当者	大館市内	
H30.5.10	研究推進委員会	大館福祉センター	12	基幹保育園主任他	大館市内	
H30.5.22	幼保小連携推進会議	大館中央公民館	42	教頭・主任他	大館市内	
H30.5.25	発達支援セミナー	上川沿公民館	42	保育士・保育教諭他	大館市内	
H30.5.30	幼保小担任研修	大館中央公民館	44	5歳児担当者・1年生担当	大館市内	
H30.6.5	研究推進委員会	大館福祉センター	12	基幹保育園主任他	大館市内	
H30.6.19	ファシリテーター研修	大館福祉センター他	27	基幹保育園主任他	大館市近隣地域	
H30.6.21	ファシリテーター研修	大館福祉センター他	42	基幹保育園主任他	大館市近隣地域	
H30.6.27	ファシリテーター研修	大館福祉センター他	37	基幹保育園主任他	大館市近隣地域	
H30.7.5	研究推進委員会	大館福祉センター	13	基幹保育園主任他	大館市内	
H30.7.20	研究推進委員会	大館福祉センター	19	基幹保育園主任他	大館市内	
H30.8.3	研究推進委員会	大館福祉センター	20	基幹保育園主任他	大館市内	
H30.8.17	研究推進委員会	大館福祉センター	22	基幹保育園主任他	大館市内	
H30.8.27	ファシリテーター研修	大館福祉センター他	26	基幹保育園主任他	大館市近隣地域	
H30.8.29	ファシリテーター研修	大館福祉センター他	37	基幹保育園主任他	大館市近隣地域	
H30.9.3	ファシリテーター研修	大館福祉センター他	41	基幹保育園主任他	大館市近隣地域	
H30.9.7	研究推進委員会	大館福祉センター	17	基幹保育園主任他	大館市内	
H30.9.10	オーダーメイド研修	大館福祉センター他	29	保育士・保育教諭他	大館市内	
H30.10.1	オーダーメイド研修	大館福祉センター他	34	保育士・保育教諭他	大館市内	
H30.10.3	研究推進委員会	大館福祉センター他	9	基幹保育園主任他	大館市内	
H30.10.12	わかちどり！育ちと学び支援事業フォーラム	大館市民文化会館	90	就学前関係者	大館市内、県内(キャリアアップ対象者)	
H30.10.12	わかちどり！育ちと学び支援事業フォーラム	北地区コミュニティセンター	98	就学前教育・小学校・行政関係者等	県内、県外	
H30.10.12	わかちどり！育ちと学び支援事業フォーラム	比内公民館	139	就学前教育・小学校・行政関係者等	県内、県外	
H30.10.12	わかちどり！育ちと学び支援事業フォーラム	サンピア	113	就学前教育・小学校・行政関係者等	県内、県外	
H30.10.19	研究推進委員会	大館福祉センター	12	基幹保育園主任他	大館市内	
H30.11.6	研究推進委員会	大館福祉センター	10	基幹保育園主任他	大館市内	
H30.11.16	研究推進委員会	大館福祉センター	10	基幹保育園主任他	大館市内	
H30.11.30	5歳児研修会	大館中央公民館	32	5歳児担当者	大館市内	
H30.12.6	研究推進委員会	大館福祉センター	10	基幹保育園主任他	大館市内	
H30.12.12	オーダーメイド研修	大館福祉センター他	30	保育士・保育教諭他	大館市内	
H30.12.14	研究推進委員会	大館福祉センター	10	基幹保育園主任他	大館市内	
H30.1.10	研究推進委員会	大館福祉センター	10	基幹保育園主任他	大館市内	
H30.1.18	研究推進委員会	大館福祉センター	10	基幹保育園主任他	大館市内	
H31.2.19	市研究実践発表会Ⅰ	大館中央公民館	33	保育士・保育教諭他	大館市内	
H31.2.22	研究推進委員会	大館福祉センター	11	基幹保育園主任他	大館市内	
H31.2.25	オーダーメイド研修	大館福祉センター他	15	保育士・保育教諭他	大館市内	
H31.2.27	市研究実践発表会Ⅱ	大館中央公民館	28	保育士・保育教諭他	大館市内	
H31.3.7	研究推進委員会	大館福祉センター	12	基幹保育園主任他	大館市内	

※自治体独自の予算による取組がある場合は、それが分かるように御記入ください。

合計回数 46

番号	3	自治体名	男鹿市(秋田県)
----	---	------	----------

(1) 全幼稚園数、認定こども園数、保育所数、小学校数

幼稚園						幼保連携型認定こども園			保育所				地方裁量型認定こども園		小学校
うち、幼稚園型認定こども園									うち、保育所型認定こども園						
2園			園			園			7か所		1園		園		6校
国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	
0	1	1	0	0	0	0	0	0	7	0	1	0	0	0	

(2) 訪問施設数

(平成31年3月29日現在)

幼稚園						幼保連携型認定こども園			保育所				地方裁量型認定こども園		小学校
うち、幼稚園型認定こども園									うち、保育所型認定こども園						
2園			園			園			7か所		1園		園		1校
国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	
0	1	1	0	0	0	0	0	0	7	0	1	0	0	0	

(3) 訪問回数

(平成31年3月29日現在)

幼稚園						幼保連携型認定こども園			保育所				地方裁量型認定こども園		小学校
うち、幼稚園型認定こども園									うち、保育所型認定こども園						
22回			回			9回			107回		20回		回		1回
国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	
0	11	11	0	0	0	0	0	9	107	0	20	0	0	0	

(4) 研修会開催回数等

(平成31年3月29日現在)

実施日	講演会・研修会名	開催場所	参加人数	対象者	対象地域	備考
H30.5.10	保育実践力向上研修会(キャリア別)	脇本公民館	12	若手保育士	男鹿市内	
H30.5.14	市保協会議	脇本公民館	9	保協担当保育士	男鹿市内	
H30.5.24	公開保育研究会	保健センター他	13	保育園職員・教育委員会・小学校職員	男鹿市内	
H30.6.20	公開保育研究会	保健センター他	14	保育園職員・教育委員会・小学校職員	男鹿市内・近隣	
H30.6.26	新卒保育士指導	男鹿保育会事務局	2	新卒保育士・事務局	男鹿市内	
H30.7.3	公開保育研究会	保健センター他	13	保育園職員・教育委員会・小学校職員	男鹿市内・近隣	
H30.7.6	公開保育研究会	保健センター他	11	保育園職員・教育委員会・小学校職員	男鹿市内	
H30.7.18	公開保育研究会	保健センター他	12	保育園職員・教育委員会・小学校職員	男鹿市内	
H30.7.21	保育実践力向上研修会	男鹿市民文化会館	63	保育園職員・教育委員会・小学校職員	男鹿市内	
H30.8.28	公開保育研究会	保健センター他	10	保育園職員・教育委員会・小学校職員	男鹿市内	
H30.10.2	公開保育研究会	保健センター他	13	保育園職員・教育委員会・小学校職員	男鹿市内	
H30.10.24	公開保育研究会	保健センター他	50	保育園職員・教育委員会・小学校職員	男鹿市内・近隣	
H30.11.6	公開保育研究会	保健センター他	18	保育園職員・教育委員会・小学校職員	男鹿市内・近隣	
H30.11.8	保育実践力向上研修会(キャリア別)	脇本公民館	12	ミドルリーダー保育士	男鹿市内	
H30.11.12	保育実践力向上研修会(キャリア別)	保健センター	13	若手保育士	男鹿市内	

※自治体独自の予算による取組がある場合は、それが分かるように御記入ください。

合計回数 15

番号	3	自治体名	横手市(秋田県)
----	---	------	----------

(1)全幼稚園数、認定こども園数、保育所数、小学校数

幼稚園						幼保連携型認定こども園			保育所				地方裁量型認定こども園		小学校
うち、幼稚園型認定こども園									うち、保育所型認定こども園						
4園			4園			園			30か所		園		園		17校
国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	
0	0	4	0	0	4	0	0	0	8	22	0	0	0	0	

(2)訪問施設数

(平成31年3月29日現在)

幼稚園						幼保連携型認定こども園			保育所				地方裁量型認定こども園		小学校
うち、幼稚園型認定こども園									うち、保育所型認定こども園						
4園			4園			園			30か所		園		園		17校
国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	
0	0	4	0	0	4	0	0	0	8	22	0	0	0	0	

(3)訪問回数

(平成31年3月29日現在)

幼稚園						幼保連携型認定こども園			保育所				地方裁量型認定こども園		小学校
うち、幼稚園型認定こども園									うち、保育所型認定こども園						
27回			27回			回			145回		回		回		66回
国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	
0	0	27	0	0	27	0	0	0	23	122	0	0	0	0	

(4)研修会開催回数等

(平成31年3月29日現在)

実施日	講演会・研修会名	開催場所	参加人数	対象者	対象地域	備考
H30.6.16	第1回保育実践力向上研修会	横手市役所条里南庁舎	119	市内の保育所・認定こども園・特定地域型保育事業所・認可外保育施設の教職員	横手市内	
H30.5.30～H30.6.29	保育士等による一日学校体験事業	市内小学校	46	保育所及び認定こども園教職員	横手市内	
H30.7.26～H30.8.22	小学校教職員による一日保育体験事業	市内就学前教育・保育施設	47	小学校教職員	横手市内	
H30.10.18	第2回保育実践力向上研修会	雄物川コミュニティセンター	66	市内の保育所・認定こども園・特定地域型保育事業所・認可外保育施設・小学校の教職員	横手市内	
H30.11.6	第3回保育実践力向上研修会	雄物川コミュニティセンター	61	市内の保育所・認定こども園・小学校の教職員	横手市内	

※自治体独自の予算による取組がある場合は、それが分かるように御記入ください。